目　次

1．教養科目 …… 4

教　養　Ⅰ　領　域 …… 5

教　養　Ⅱ　領　域 …… 17

2．介護福祉科目 …… 39

人 間 と 社 会 領 域
（人間の理解・社会の理解） …… 39

介　護　領　域 …… 46

こころとからだのしくみ領域 …… 95

医 療 的 ケ ア 領 域 …… 111

2018年度授業科目開講一覧表

介護福祉科　　●＝必修科目

区分	領域		授業科目	掲載頁	単位数		開講学期			
							1年次		2年次	
					必修	選択	前	後	前	後
教養科目	教養Ⅰ		経営管理論	5		2			○	○
			生物学	6		2			○	
			生物学	7		2		○		
			生活環境学	8		2			○	
			地域福祉論	9		2			○	
			現代居住環境論	10		2				○
			経済学	11		2		○		
			経済学	12		2	○	○		
			社会学	13		2		○		
			社会学	14		2	○			
			憲法	15		2	○			
			倫理学	16		2	○			
	教養Ⅱ		音楽療法	17		2			○	
			音楽療法	18		2		○		
			日本文化Ⅰ	19		2	○			
			日本文化Ⅱ	20		2	○			
			スポーツ実技	21		1			○	
			スポーツ実技	22		1	○			
			スポーツレクリエーション論	23		2	○			
			レクリエーション活動援助法	24		1	○			
			レクリエーション実技	25		1		○		
			情報処理概論	26		2	○			
			マルチメディア論Ⅰ	27		2	○			
			マルチメディア論Ⅱ	28		2		○		
			ウェブデザイン論	29		2			○	
			ウェブデザイン論	30		2		○		
			エッセンシャルスタディⅠ	31	2		●			
			エッセンシャルスタディⅡ	32	2			●		
			キャリアデザインⅠ	33		2				○
			キャリアデザインⅡ	34		2				○
			キャリアデザインⅢ	35		2				○
			キャリアデザインⅣ	36		2				○
			キャリアデザインⅠ	37		2				○
			キャリアデザインⅡ	38		2				○
介護福祉科目	人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	40	2			●		
			人間関係とコミュニケーション	41	2		●			
		社会の理解	社会の理解Ⅰ	42	2		●			
			社会の理解Ⅱ	43		2			○	
			社会の理解Ⅱ	44		2				○
			人間と社会特別講義	45		2				○
	介護		介護の基本Ⅰ	47	2		●			
			介護の基本Ⅱ	48	2		●			
			介護の基本Ⅲ	49	2			●		
			介護の基本Ⅳ	50	2			●		
			介護の基本Ⅴ	51		2			○	
			介護の基本Ⅴ	52		2			○	
			介護の基本Ⅵ	53		2				○
			介護の基本Ⅵ	54		2				○
			介護特別講義	55		2				○
			コミュニケーション技術Ⅰ	56	1			●		
			コミュニケーション技術Ⅰ	57	1		●			
			コミュニケーション技術Ⅱ	58	1			●		

区分	領域	授業科目	掲載頁	単位数		開講学期			
						1年次		2年次	
				必修	選択	前	後	前	後
介護福祉科目	介護	生活支援技術Ⅰ	59	2		●			
		生活支援技術Ⅰ	60	2		●			
		生活支援技術Ⅱ	61	2			●		
		生活支援技術Ⅱ	62	2		●			
		生活支援技術Ⅲ	63	1			●		
		生活支援技術Ⅳ	64		2			○	
		生活支援技術Ⅳ	65	1			●		
		生活支援技術Ⅴ	66		1			○	
		生活支援技術Ⅴ	67	2			●		
		生活支援技術Ⅵ	68		2				○
		生活支援技術Ⅵ	69		2			○	
		介護過程Ⅰ（意義と展開）	70	2			●		
		介護過程Ⅰ（意義と展開）	71	2		●			
		介護過程Ⅱ（実践的展開Ⅰ）	72	1			●		
		介護過程Ⅲ（実践的展開Ⅱ）	73		1			○	
		介護過程Ⅳ（居宅）	74		1			○	
		介護過程Ⅳ（居宅）	75		1				○
		介護過程Ⅴ（施設）	76		1				○
		介護総合演習Ⅰ	77	1		●			
		介護総合演習Ⅱ	78	1			●		
		介護総合演習Ⅲ	79		1			○	
		介護総合演習Ⅳ	80		1				○
		介護総合演習Ⅰ	81	1		●			
		介護総合演習Ⅱ	82	1			●		
		介護総合演習Ⅲ	83		1			○	
		介護総合演習Ⅳ	84		1				○
		介護総合演習Ⅰ	85	1		●			
		介護総合演習Ⅱ	86	1			●		
		介護実習Ⅰ	87	1		●			
		介護実習Ⅱ	88	2		●			
		介護実習Ⅲ	89		4		○		
		介護実習Ⅳ	90		3			○	
		介護実習Ⅰ	91	2		●			
		介護実習Ⅱ	92	1			●		
		介護実習Ⅲ	93		4			○	
		介護実習Ⅳ	94		3			○	
	こころとからだのしくみ	からだのしくみ	96	2		●			
		こころのしくみ	97	2		●			
		こころとからだのしくみⅠ	98	2			●		
		こころとからだのしくみⅡ	99		2			○	
		こころとからだ特別講義	100		2				○
		発達と老化の理解Ⅰ	101	2			●		
		発達と老化の理解Ⅰ	102	2		●			
		発達と老化の理解Ⅱ	103		2				○
		発達と老化の理解Ⅱ	104	2			●		
		認知症の理解Ⅰ	105	2		●			
		認知症の理解Ⅰ	106	2			●		
		認知症の理解Ⅱ	107		2			○	
		障害の理解Ⅰ	108	2			●		
		障害の理解Ⅱ	109		2		●		
		障害の理解Ⅱ	110		2				○
	医療的ケア	医療的ケアⅠ	112		2			○	
		医療的ケアⅠ	113		2		○		
		医療的ケアⅡ	114		2			○	
		医療的ケア演習	115		1				○

教養科目

授業科目名	授業の種類	授業担当者
経営管理論	（講義・演習・実習）	松嵜　久実

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期, 後期	選択

［授業の目的］

組織の目標設定と管理等、組織のなかで介護福祉士として働くとき、必要な経営管理の基本的な考えを学習する。

［授業全体の内容の概要］

組織の活動をより良くするのは、何が必要かを学ぶ。目標の設定・管理、組織の長期的な行動計画である戦略、日々の活動を合理的なものにする戦術、組織の特徴、モチベーション理論、リーダーシップ論、リスク管理を学ぶ。毎回、復習課題が出題される。学習した事柄を、施設の実際の事例等のアクティブ・ラーニングを通して、理解を深めてもらう。

［授業終了時の到達目標］

組織の活動を改善するポイントについて、各自の考えを持つ。戦術と戦略が区別でき、それぞれの意義を理解して、行動に生かすことができる。経営組織の特徴、リスクを予見する必要性、モチベーションを高める方法、リーダーに求められていることを理解している。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．経営管理とは　発展している福祉経営における経営戦略・経営組織
2．経営管理①　強いチームの条件
3．経営管理②　目標の設定と管理
4．経営組織①　組織デザイン
5．経営組織②　分業の種類と意義①
6．経営組織③　分業の種類と意義②
7．経営戦略①　戦略と戦術
8．経営戦略②　福祉施設の経営戦略の事例①　財務・人事戦略
9．経営戦略③　福祉施設の経営戦略の事例②　ケア改善戦略
10．経営戦略④　福祉施設の経営戦略の事例③　職員育成戦略
11．モチベーション理論①　基礎理論
12．モチベーション理論②　福祉施設におけるモチベーション管理
13．リスク管理①　福祉施設の災害対応
14．リスク管理②　介護事故の予見と対策
15．介護労働の特徴とコーチングアプローチ
試験

［準備学習］

毎回､授業のまとめと理解を深める課題が出題される。次の講義の前に提出して､評価を受ける。十分でない課題提出物は、再提出となる。同一テーマの複数回の授業のプリントがまとめて配付されるので、予習すること。経営戦略の人事戦略では、人事考課の取り組みについて、各自で行動評価の基準を事前に考えておき、授業のなかでグループ学習で基準を作成する。

［使用テキスト・参考文献］

毎回プリントを配布
（参考文献）
高間邦男著『学習する組織』光文社
関島康雄著『チームビルディングの技術』
日本経団連出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．復習テスト及び期末テスト：60%
2．復習課題の内容・提出状況：40%
復習課題は評価して、テストは採点して返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生物学	（講義・演習・実習）	村上　志緒

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

人間を理解する上で、生物としてのヒトの持つ機能や現象を知り、人間が生物の一員であることの認識を深めてもらう。人間の持つ生物としての普遍性や特異性を理解し、他の生物との関わりから「社会」が構築される理由を人間社会に置き換え、「社会（コミュニティ）」の必要性を理解してもらう。

［授業全体の内容の概要］

生物が生きるために必要な物質、機能・現象を紹介し、生命活動を知ることにより、いかに他の（社会的）環境が整っていないと活動が困難かを知る。

［授業終了時の到達目標］

ヒトを中心に生物の生命活動を学び、「生きる」ためにヒトや他の生物がどのように相互作用して生きているかを知り、生物としての人間を理解する。生きるための「介護」の重要性を考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．生命・生物とは：生物の基本的性質
2．生命・自然の階層性と特徴
3．植物の特徴・動物の特徴
4．細胞の構造：細胞及びを細胞内にある小器官とその機能
5．生体物質　その1　タンパク質など：生物の体を構成する物質であるタンパク質
6．生体物質　その2　糖や脂質など：生物の体を構成する物質、糖や脂質
7．光合成：植物の葉緑体における太陽エネルギーの固定と有機物合成経路
8．呼吸：生物が活動エネルギーを得るために行う有機物代謝のメカニズム
9．DNA：タンパク質合成と種の保存
10．生殖：有性生殖と無性生殖、生殖細胞の分裂（減数分裂）
11．遺伝：受け継ぐ形質
12．生物多様性と環境：地球環境と生物の関係、生物相互の関係、地球の環境問題
13．発生：有性生殖を行う生物における受精後の発生機構と発生段階
14．神経系・内分泌系・免疫系：体を支えるシステム
15．まとめ・復習
期末試験

［準備学習］

中学校で学習した理科生物、高等学校で選択した学生は高等学校で学習した生物学の概要を把握しておくと理解が深まります。また身近な生き物や生活の中で触れる生物関連のニュース（生物多様性、遺伝子組み換えなど）に関心を持ちながら，生物としてのヒトについて考えるようにしましょう。

［使用テキスト・参考文献］

1）『改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス　生物図録』数研出版
2）レジメを授業時間内に配布。
（参考文献）『医療・看護系のための生物学』　田村　隆明著・裳華房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末試験：60%
2．出席を含めた平常点：40%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生物学	（講義・演習・実習）	村上　志緒

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］

人間を理解する上で、生物としてのヒトの持つ機能や現象を知り、人間が生物の一員であることの認識を深めてもらう。人間の持つ生物としての普遍性や特異性を理解し、他の生物との関わりから「社会」が構築される理由を人間社会に置き換え、「社会（コミュニティ）」の必要性を理解してもらう。

［授業全体の内容の概要］

生物が生きるために必要な物質、機能・現象を紹介し、生命活動を知ることにより、いかに他の（社会的）環境が整っていないと活動が困難かを知る。

［授業終了時の到達目標］

ヒトを中心に生物の生命活動を学び、「生きる」ためにヒトや他の生物がどのように相互作用して生きているかを知り、生物としての人間を理解する。生きるための「介護」の重要性を考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．生命・生物とは：生物の基本的性質
2．生命・自然の階層性と特徴
3．植物の特徴・動物の特徴
4．細胞の構造：細胞及びを細胞内にある小器官とその機能
5．生体物質　その1　タンパク質など：生物の体を構成する物質であるタンパク質
6．生体物質　その2　糖や脂質など：生物の体を構成する物質、糖や脂質
7．光合成：植物の葉緑体における太陽エネルギーの固定と有機物合成経路
8．呼吸：生物が活動エネルギーを得るために行う有機物代謝のメカニズム
9．DNA：タンパク質合成と種の保存
10．生殖：有性生殖と無性生殖，生殖細胞の分裂（減数分裂）
11．遺伝：受け継ぐ形質
12．生物多様性と環境：地球環境と生物の関係，生物相互の関係，地球の環境問題
13．発生：有性生殖を行う生物における受精後の発生機構と発生段階
14．神経系・内分泌系・免疫系：体を支えるシステム
15．まとめ・復習
期末試験

［準備学習］

中学校で学習した理科生物、高等学校で選択した学生は高等学校で学習した生物学の概要を把握しておくと理解が深まります。また身近な生き物や生活の中で触れる生物関連のニュース（生物多様性、遺伝子組み換えなど）に関心を持ちながら，生物としてのヒトについて考えるようにしましょう。

［使用テキスト・参考文献］

1）『改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス　生物図録』数研出版
2）レジメを授業時間内に配布。
（参考文献）『医療・看護系のための生物学』　田村　隆明著・裳華房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末試験：60%
2．出席を含めた平常点：40%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活環境学	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

地球環境問題は人類の生活そのものを脅かす問題である。その問題は、複雑で、予測が難しく、多岐にわたり、その解決には多くの課題が存在する。それらに対し我々は、どのような考えを持ち、どのような行動をするべきかを探り、地球環境の健全性の維持・保全への展望を開くようにする。

［授業全体の内容の概要］

持続可能な社会実現のために、循環型社会・低炭素社会・自然共生型社会を形成する必要があり、その根本は「人」であることを認識する。そして、経済活動の発展と環境問題の解決の両立を図り、人々が豊かで安心した生活を享受するために必要な知識や考え方、行動等を修得する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

一人ひとりが、環境と経済を両立させた持続可能な社会づくりができるような知識を身につけ、個々の力を合わせてアクションを起こし、環境問題の解決実現に向けて歩めることを目指す。また、「環境社会検定試験（eco 検定）」（東京商工会議所主催）の資格取得ができるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．地球温暖化の科学的側面
3．地球温暖化対策
4．エネルギーと環境のかかわり
5．エネルギーの動向
6．生物多様性の重要性
7．生物多様性の危機
8．オゾン層保護に関する問題
9．水資源や海洋環境に関する問題
10. 物を使うことに伴う環境負荷
11. 廃棄物処理にまつわる国際的な問題
12. 地球環境問題
13. 大気汚染の原因とメカニズム
14. 化学物質のリスクとリスク評価
15. 東日本震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故

期末試験

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業で配布した課題プリントは、次回の授業までに作成して提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト」東京商工会議所　編著　日本能率協会マネジメントセンター

参考文献：「環境社会検定試験 eco 検定公式過去・模擬問題集」東京商工会議所　編著　日本能率協会マネジメントセンター

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度	20%
課題レポート提出	30%
期末試験	50%

レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
地域福祉論	（講義・演習・実習）	松嵜　久実

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

2025年（平成37年）を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムを構築することが国の政策の柱になった。高齢者、障がいを持った人々を包摂して、多様な人々を包み込んで互いの信頼関係の下に、地域社会を豊かにするには、どのようなアプローチが可能であるかを地域の実践から学ぶとともに、主体的に参加して可能性を追求するなかで学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

高齢者の生活を支えることを中心に、地域課題の解決の視点をソーシャル・キャピタルを中心に学ぶこと、地域包括支援センターの役割、地域ケア会議の役割、地域資源であるフォーマルな連帯、インフォーマルな連帯について、理論的学習を前提に具体的事例の実践事例からアクティブラーニングを行う。地域のソーシャル・キャピタルの調査を行う。

［授業終了時の到達目標］

地域課題の解決の視点を、ソーシャル・キャピタルを中心に説明できる、地域包括支援センターと地域ケア会議の制度的役割、優れた具体的実践例を説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　15回（第１回～第15回）＋試験

1．高齢者・障害者の生活と地域資源
2．地域課題解決の視点　福祉の視点から
3．地域課題解決の視点　地域作りの視点から
4．地域課題解決の視点　ソーシャルキャピタルの視点から
5．地域包括支援センターの役割①
6．地域包括支援センターの役割①
7．地域包括支援センターの役割①
8．地域ケア会議①
9．地域ケア会議②
10．地域資源　フォーマルな連帯
11．地域資源　インフォーマルな連帯
12．地域課題の解決事例研究１
13．地域課題の解決事例研究２
14．地域課題の解決事例研究３
15．地域課題の解決事例研究４
試験

［準備学習］

各自が住んでいる地域、かつて入学前に住んでいた地域の人間関係の特徴、地域の人々の結びつきを強める活動を説明できるようにしておく。現在、各自が住んでいる地域地域包括支援センターの資料を入手して、役割を理解しておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：指定しない
参考文献：太田著『地域ケアシステム』有斐閣
宮川・大守編『ソーシャル・キャピタル―現代社会のガバナンスの基礎』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1　毎回の課題評価　　60％
2　復習テスト　40％
毎回の課題は、翌週までに提出し、評価が与えられる。復習テストは返却し、各自の弱点を確認する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
現代居住環境論	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

日本は世界でも例を見ない高齢者の多い国へと変化している。そこで、福祉社会の観点から住宅、住環境に対する理解を深めることを目的とする。全ての国民が、安心して生活できる社会づくりと福祉住環境の整備ができるように必要な知識を学び、情報を駆使し、行動できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

現代は、身体に様々な障害を持つ人や、子育て中の家族、子ども・幼児など、多様な人に対して暮らしやすい社会づくりをする事が課題になっている。この授業では、多様な人をお互いによく理解し、多様な人が安心して生活できる共生社会を、如何にして作りあげるのが良いか等の課題を探求していく。

［授業終了時の到達目標］

受講者の皆さんが、福祉住環境コーディネーター、またはその能力をもつ人になり、中心となって的確な知識や情報を提供し、福祉の住環境やまちづくりができることを目標とする。また、「福祉住環境コーディネーター検定試験　3級」（東京商工会議所　主催）の資格取得ができるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．福祉住環境コーディネーターとは
3．福祉住環境整備の重要性・必要性
4．安全・安心・快適な住まい
5．段差、床材
6．手すり
7．建具、幅・スペース
8．家具・収納
9．色彩・照明、インテリア
10．冷暖房、非常時の対応、維持管理
11．人にやさしいまちづくり
12．福祉のまちづくりとは
13．まちづくりを進めるための諸法制度
14．まちづくりに関する法律
15．人にやさしいまちづくり整備の課題
期末試験

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。
また、授業で配布した課題プリントは、次回の授業までに作成して提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「福祉住環境コーディネーター検定試験
3級公式テキスト」東京商工会議所編著
東京商工会議所
参考文献：「徹底マスター　福祉住環境コーディネーター検定試験3級」福祉プランナーズ編著
税理経理協会

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　20%
課題レポート提出　30%
期末試験　50%
レポートの講評を行う。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
経済学	（講義・演習・実習）	松嵜　久実

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］

今日の日本の経済活動を素材に、経済学の基本的な考えを学ぶ。私達の生活は常に資源の制約を前提にして、そのなかでの選択の問題である。私達が今日の日本の経済問題で何を選択しようとしているのかを理解することで、経済活動を自分の視点で考える力を養う。

［授業全体の内容の概要］

授業では、日本社会が直面するトピックな経済問題を取り上げ、経済学的なアプローチの特徴を説明する。社会の豊かさの指標である国富、国内総生産という概念と、無形の資源を対比して理解し、社会の倫理や連帯、リーダーへの信頼が社会をどのように豊かにする可能性があるかを学ぶ。エネルギー問題では、歴史的な視点、国際比較の視点を含めて学習する。最後に、介護保険の財政を学習する。

［授業終了時の到達目標］

国富・国内総生産・無形の資源という社会の豊かさをみる視点が理解されている。エネルギー問題と財政問題について、基本的な問題の構造を理解し、問題の解決についての考えを持っている。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．今日の日本社会が直面する経済問題①
2．社会の豊かさの指標　国富・国内総生産
3．無形の資源①　社会を豊かにするものとしての無形の資源
4．無形の資源②　社会の倫理
5．無形の資源③　連帯の費用
6．無形の資源④　リーダーへの信頼
7．経済活動とエネルギー問題　原子力エネルギーに対する評価の歴史的変化
8．エネルギー問題①　スウェーデンに学ぶ再生エネルギー
9．エネルギー問題②　デンマークに学ぶ再生エネルギー
10．エネルギー問題③　日本の再生エネルギー政策
11．エネルギー問題④　日本の地域的なエネルギー自立の取り組み事例
12．今日の日本社会が直面する経済問題②
13．介護保険の財政①　高齢者の経済生活
14．介護保険の財政②　介護保険の収入・支出の構造
15．介護保険の財政③　介護保険財政の課題
試験

［準備学習］

毎回、授業のまとめと理解を深める課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受ける。十分でない課題提出物は、再提出となる。同一テーマの複数回の授業のプリントがまとめて配付されるので、予習すること。社会的な連帯の意義、エネルギー問題、財政問題が取り上げられるので、新聞の切り抜きをする、友人・家族で話題にして、様々な考え方があることを事前に学習しておく。

［使用テキスト・参考文献］

毎回プリントを配布
参考文献：
ケンジ・ステファン・スズキ著『デンマークという国　自然エネルギーの先進国』合同出版
松嵜久実『地域経済の形成と発展の原理』CAP 出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．復習テスト及び期末テスト：60%
2．復習課題の内容・提出状況：40%
復習課題は評価して、テストは採点して返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
経済学	（講義・演習・実習）	松嵜　久実

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期, 後期	選択

［授業の目的］

今日の日本の経済活動を素材に、経済学の基本的な考えを学ぶ。私達の生活は常に資源の制約を前提にして、そのなかでの選択の問題である。私達が今日の日本の経済問題で何を選択しようとしているのかを理解することで、経済活動を自分の視点で考える力を養う。

［授業全体の内容の概要］

授業では、日本社会が直面するトピックな経済問題を取り上げ、経済学的なアプローチの特徴を説明する。社会の豊かさの指標である国富、国内総生産という概念と、無形の資源を対比して理解し、社会の倫理や連帯、リーダーへの信頼が社会をどのように豊かにする可能性があるかを学ぶ。エネルギー問題では、歴史的な視点、国際比較の視点を含めて学習する。最後に、介護保険の財政を学習する。

［授業終了時の到達目標］

国富・国内総生産・無形の資源という社会の豊かさをみる視点が理解されている。エネルギー問題と財政問題について、基本的な問題の構造を理解し、問題の解決についての考えを持っている。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．今日の日本社会が直面する経済問題①
2．社会の豊かさの指標　国富・国内総生産
3．無形の資源①　社会を豊かにするものとしての無形の資源
4．無形の資源②　社会の倫理
5．無形の資源③　連帯の費用
6．無形の資源④　リーダーへの信頼
7．経済活動とエネルギー問題　原子力エネルギーに対する評価の歴史的変化
8．エネルギー問題①　スウェーデンに学ぶ再生エネルギー
9．エネルギー問題②　デンマークに学ぶ再生エネルギー
10．エネルギー問題③　日本の再生エネルギー政策
11．エネルギー問題④　日本の地域的なエネルギー自立の取り組み事例
12．今日の日本社会が直面する経済問題②
13．介護保険の財政①　高齢者の経済生活
14．介護保険の財政②　介護保険の収入・支出の構造
15．介護保険の財政③　介護保険財政の課題
試験

［準備学習］

毎回、授業のまとめと理解を深める課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受ける。十分でない課題提出物は、再提出となる。同一テーマの複数回の授業のプリントがまとめて配付されるので、予習すること。社会的な連帯の意義、エネルギー問題、財政問題が取り上げられるので、新聞の切り抜きをする、友人・家族で話題にして、様々な考え方があることを事前に学習しておく。

［使用テキスト・参考文献］

毎回プリントを配布
参考文献：
ケンジ・ステファン・スズキ著『デンマークという国　自然エネルギーの先進国』合同出版
松嵜久実『地域経済の形成と発展の原理』CAP 出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．復習テスト及び期末テスト：60%
2．復習課題の内容・提出状況：40%
復習課題は評価して、テストは採点して返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会学	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的・ねらい］

この授業では、社会学をはじめて学ぶ学生を念頭にして、社会学の入門部分を学修する。実は、社会学は、他の学問に比べて、多くの分野を社会学の対象にしている。それで、捉えどころが無く、これが社会学の核心と言えるものが分かりにくい。この授業では、大学時代、そして社会に出て、将来避けて通れない人生の壁にぶつかった時に、如何に自分らしく生きるにはどうすべきか、どのような行動をおこせば良いのかを考える能力を身につける事を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

大学生の諸君が、将来の人生を歩む時に、多くの人が悩み、考える共通した人生の壁や社会的問題というものがある。それらを乗り越え、解決する際に、どのように考え、どのように行動すれば良いのだろうか。社会学を学びながら、それらに対処する知識・理論、考え方と行動等について外観する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

社会学を学び、社会学を通して現実の社会と向き合い、それらについて調査し、考え、社会を理解する能力を身につける。そして、自分らしく充実した人生を過ごすには何が大切かを探る事を目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．「社会学」とは何か。
3．社会学で考える①　遊び・うわさ・自殺
4．社会学で考える②　流行・学校・結婚
5．社会学と集団①　集団・集団のメカニズム
6．社会学と集団②　集合体・群衆行動・大衆行動
7．会社を理解する①　会社とは何か・会社におけるルールと仕事
8．会社を理解する②　会社の組織・仕事と人間関係
9．産業社会の抱える諸問題①　産業社会とは何か・産業社会の本質
10．産業社会の抱える諸問題②　産業社会の特徴・産業社会の直面する諸問題
11．高齢社会①　高齢化・高齢化の要因・高齢化の問題点
12．高齢社会②　高齢化のもたらす経済面・社会面への影響・展望
13．現代社会に求められるもの①　家族・倫理
14．現代社会に求められるもの②　労働
15．総括
最終課題レポート

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。また毎回、授業内容をまとめる課題プリントを配布するので、決められた期日までに仕上げて提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「はじめて学ぶ社会学　第2版」高木聖　他著　慶応義塾大学出版会
参考文献：その都度、授業中に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

最終課題レポート　50%
課題レポート　40%
受講態度　10%
レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会学	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

この授業では、社会学をはじめて学ぶ学生を念頭にして、社会学の入門部分を学修する。実は、社会学は、他の学問に比べて、多くの分野を社会学の対象にしている。それで、捉えどころが無く、これが社会学の核心と言えるものが分かりにくい。この授業では、大学時代、そして社会に出て、将来避けて通れない人生の壁にぶつかった時に、如何に自分らしく生きるにはどうすべきか、どのような行動をおこせば良いのかを考える能力を身につける事を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

大学生の諸君が、将来の人生を歩む時に、多くの人が悩み、考える共通した人生の壁や社会的問題というものがある。それらを乗り越え、解決する際に、どのように考え、どのように行動すれば良いのだろうか。社会学を学びながら、それらに対処する知識・理論、考え方と行動等について外観する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

社会学を学び、社会学を通して現実の社会と向き合い、それらについて調査し、考え、社会を理解する能力を身につける。そして、自分らしく充実した人生を過ごすには何が大切かを探る事を目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．「社会学」とは何か。
3．社会学で考える①　遊び・うわさ・自殺
4．社会学で考える②　流行・学校・結婚
5．社会学と集団①　集団・集団のメカニズム
6．社会学と集団②　集合体・群衆行動・大衆行動
7．会社を理解する①　会社とは何か・会社におけるルールと仕事
8．会社を理解する②　会社の組織・仕事と人間関係
9．産業社会の抱える諸問題①　産業社会とは何か・産業社会の本質
10．産業社会の抱える諸問題②　産業社会の特徴・産業社会の直面する諸問題
11．高齢社会①　高齢化・高齢化の要因・高齢化の問題点
12．高齢社会②　高齢化のもたらす経済面・社会面への影響・展望
13．現代社会に求められるもの①　家族・倫理
14．現代社会に求められるもの②　労働
15．総括
最終課題レポート

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。また毎回、授業内容をまとめる課題プリントを配布するので、決められた期日までに仕上げて提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「はじめて学ぶ社会学　第2版」高木聖　他著　慶応義塾大学出版会
参考文献：その都度、授業中に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

最終課題レポート　50%
課題レポート　40%
受講態度　10%
レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
憲法	（講義・演習・実習）	横手　逸男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

憲法は国家の最高法であり、憲法を学び、知識を深めることは、国民として当然の義務ともいえる。本授業では、平和主義、基本的人権、国会・内閣・裁判所などにつき、基本原理や判例・問題点をわかりやすく講義する。日本国憲法の学習を通じて、現代社会の基本的問題についての理解を深め、生活するうえでの問題意識を養うとともに、わが国の社会保障制度の根本理念や法体系についても学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

憲法の概念、新旧両憲法の特色、日本国憲法の三原則を概観したうえで、平和主義や基本的人権、国会、内閣、裁判所などの組織につき、具体的な事件の検討を交えながら、講義をすすめる。特に社会権などの基本的人権については、わが国の社会保障制度の法体系や朝日訴訟・堀木訴訟・尼崎入学拒否訴訟などの生存権関連の判例考察も行う。

［授業終了時の到達目標］

日本国憲法の基礎的知識を取得し、社会福祉の現場において必要不可欠な人権感覚、職業倫理感を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．社会生活と法、国家と憲法、憲法の分類
2．大日本帝国憲法、日本国憲法の制定の歴史と特色
3．象徴天皇制、天皇の地位と権限
4．憲法9条と平和主義（砂川事件・長沼事件・百里事件）
5．湾岸戦争、PKO協力法、わが国の防衛政策
6．基本的人権の歴史と種類、国際社会と基本的人権の保障
7．法の下の平等（尊属殺人事件・男女雇用機会均等法）
8．精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由・表現の自由・学問の自由）
9．国務請求権（請願権・学校事故と国家賠償・冤罪事件と刑事補償）
10．日本国憲法の社会権の体系とわが国の社会保障制度
11．生存権（朝日訴訟・堀木訴訟）、教育権、勤労の権利、労働三権の保障
12．人身の自由（奴隷的拘束・苦役の禁止）、死刑制度
13．国会と内閣（衆議院と参議院の組織、議院内閣制）
14．裁判所の組織と役割、司法権の独立（大津事件・浦和事件）
15．憲法改正問題（憲法改正の手続、憲法改正の動き、国民投票法）

試験実施

［準備学習］

毎回の授業の終りには、次回の授業予定とテキストの範囲を述べる。テキストの該当ページはあらかじめ一読して授業に臨んでほしい。

［使用テキスト・参考文献］

『憲法概説』松浦／奥村編、横手逸男　他共著、成文堂

（参考書）
三省堂「新六法」2018年度版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：70％
2．受講態度・小テスト：30％

［履修者へのメッセージ］

戦争と平和・さまざまな差別・社会保障と社会福祉・犯罪・環境汚染、私達の社会のさまざまな問題を、日本国憲法を通じてみつめてみよう。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
倫理学	（講義・演習・実習）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

倫理とは、人が正しいと思う判断基準である。その意味で私たちが他者を支援する時、常に考えなければいけないテーマであると言える。この授業では、対人支援に必要と思われる倫理的課題（規範・生命倫理・ケア倫理など）を紹介し、理解を深めると共に、それらに関連する知識についてふれたいと思う。

また、現代社会の様々な倫理的問題点について、それらの問題点を考える上で必要な倫理的テーマについても述べたいと思う。

［授業全体の内容の概要］

対人支援者にとって必要と思われる倫理について説明すると共に、倫理的課題についての問題提起、及び考察を行う。また、倫理的テーマについて、演習を通じて自ら考えてほしい。

［授業終了時の到達目標］

介護福祉士として要求される倫理についての知識を深め、基礎的な人格的態度を養う。人権の基本的理解のうえに、職業倫理を学び身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．倫理学とは
2．徳倫理
3．規範倫理
4．法律と規範倫理
5．法律と規範倫理（人権と倫理）
6．規範倫理と応用倫理（演習）
7．生命倫理1（日本人の死生観）
8．生命倫理2（SOL 倫理）
9．生命倫理3（QOL 倫理）
10．生命倫理4（生命の問題と人権）
11．生命倫理5（倫理公準）
12．生命倫理6（生命倫理の演習）
13．生命倫理7（安楽死の問題）
14．ケア倫理
15．ケア倫理2（デス・エデュケーションとスピリチャルケア）
最終課題レポート

［準備学習］

各授業終了時に、次回のテーマについての問題提起を行うため、事前にそのテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。各授業終了時に、リアクションペーパーにて自分の考えを述べてもらう。また、授業で学習した事柄について十分に復習しておいてほしい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業時にプリントを配布する。

参考文献：介護福祉のための倫理学（弘文堂）
ケアの生命倫理（日本評論社）
※その他、授業時間内に参考文献を紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．レポート：60%
2．ミニレポート：20%
3．受講態度：20%
※ミニレポートは講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
音楽療法	（講義・演習・実習）	新田　久子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

人間と音楽（音）は生活の中で深くかかわっている。音楽によって心を癒され、勇気付けられた体験を多くの人が持っていると思う。このように人が音楽を創り育み、音楽は人の健康に役立ちながら互いに発達してきた。音楽が人々の心と体にどのように働きかけるのか？音楽の持つ機能を知り活用するための基礎的な理論と実践を学び、コミュニケーションを無理なくとる方法を知り、さまざまな対応法を学生自身が創り出す力をつける。個人を尊重し認め合い他者と共にいる心地よさ、言語的、非言語的コミュニケーションをとる楽しさを体験し、それらの音楽活動を私生活や職場で良い人間関係つくりに応用活用できるよう柔軟性、積極性を育むことを授業の目的としている。施設における課題解決に音楽活動をどのように生かすのか、アクティブラーニングを体験してもらう。

［授業全体の内容の概要］

音楽が生活に及ぼす有害性と有用性を知り、音楽の働きを理解する。他者の心身の状況にあった音楽の活用法を学生自身が五感を使ってグループ体験する。グループ活動を楽しみつつ学生一人一人の特技や長所を生かす、自己表現を促す、協調性や意欲を高めあうなど、私生活や職場で良い人間関係を築く過程を体験する。

［授業終了時の到達目標］

高齢者と非言語的コミュニケーションをとる音楽活動を少なくとも3種類身につけていること。
高齢者とコミュニケーションをとるための媒体として音楽活動を含めたプログラム作成ができること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業形式（講義、演習、グループワーク、小クイズ）

1．オリエンテーションと自己紹介、他者紹介
2．音楽（音）の生活への影響・体験談
3．音楽（音）の持つ有害性と有用性について
4．音楽療法と音楽教育、音楽レクの違いは何か
5．音楽がなぜ人間の心と体に影響するか？
6．音楽がなぜ人の感情を左右するか？
7．音楽の特性と音楽療法の原理
8．非言語的・言語的コミュニケーションとしての音楽活用法を考える
9．目的に沿った音楽活動
10．プログラム案作成
11．プログラム案作成：グループ演習
12．グループ発表：実習リハーサル
13．実習事前指導
14．施設にて現場実習
15．実習事後指導

試験・レポート等

［準備学習］

身近な高齢者と対話する。（例．好みの食べ物・曲などを聞く。）

［使用テキスト・参考文献］

『こころに届く高齢者の音楽療法』
ドレミ楽譜出版、師井和子著

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

総合判定：
1．受講態度：20%
2．期末試験：40%
3．課題提出物：40%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
音楽療法	（講義・演習・実習）	新田　久子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］

人間と音楽（音）は生活の中で深くかかわっている。音楽によって心を癒され、勇気付けられた体験を多くの人が持っていると思う。このように人が音楽を創り育み、音楽は人の健康に役立ちながら互いに発達してきた。音楽が人々の心と体にどのように働きかけるのか？音楽の持つ機能を知り活用するための基礎的な理論と実践を学び、コミュニケーションを無理なくとる方法を知り、さまざまな対応法を学生自身が創り出す力をつける。個人を尊重し認め合い他者と共にいる心地よさ、言語的、非言語的コミュニケーションをとる楽しさを体験し、それらの音楽活動を私生活や職場で良い人間関係つくりに応用活用できるよう柔軟性、積極性を育むことを授業の目的としている。施設における課題解決に音楽活動をどのように生かすのか、アクティブラーニングを体験してもらう。

［授業全体の内容の概要］

音楽が生活に及ぼす有害性と有用性を知り、音楽の働きを理解する。他者の心身の状況にあった音楽の活用法を学生自身が五感を使ってグループ体験する。グループ活動を楽しみつつ学生一人一人の特技や長所を生かす、自己表現を促す、協調性や意欲を高めあうなど、私生活や職場で良い人間関係を築く過程を体験する。

［授業終了時の到達目標］

高齢者と非言語的コミュニケーションをとる音楽活動を少なくとも3種類身につけていること。
高齢者とコミュニケーションをとるための媒体として音楽活動を含めたプログラム作成ができること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業形式（講義、演習、グループワーク、小クイズ）

1．オリエンテーションと自己紹介、他者紹介
2．音楽（音）の生活への影響・体験談
3．音楽（音）の持つ有害性と有用性について
4．音楽療法と音楽教育、音楽レクの違いは何か
5．音楽がなぜ人間の心と体に影響するか？
6．音楽がなぜ人の感情を左右するか？
7．音楽の特性と音楽療法の原理
8．非言語的・言語的コミュニケーションとしての音楽活用法を考える
9．目的に沿った音楽活動
10．プログラム案作成
11．プログラム案作成：グループ演習
12．グループ発表：実習リハーサル
13．実習事前指導
14．施設にて現場実習
15．実習事後指導

試験・レポート等

［準備学習］

身近な高齢者と対話する。（例．好みの食べ物・曲などを聞く。）

［使用テキスト・参考文献］

『こころに届く高齢者の音楽療法』
ドレミ楽譜出版、師井和子著

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

総合判定：
1．受講態度：20%
2．期末試験：40%
3．課題提出物：40%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
日本文化Ⅰ	（講義・演習・実習）	松嵜　久実

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

異文化のなかで育った人々を対象に、介護福祉士として日本人の生活支援をする前提として、日本文化を学ぶ。生活支援に必要な基本的な日本語の習得と、日本文化の特徴を理解することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

日本の自然条件と四季の変化の概要と使われる言葉、日本の年間行事と民間習俗の伝統の概要と使われる言葉、日本の衣食住における伝統と使われる言葉の理解と活用の練習を行う。

［授業終了時の到達目標］

日本の四季の変化、年間行事、衣食住に関わる衣類、道具、食材、料理について、基本的な言葉は理解し、使うことでき、それらについて、簡単なスピーチをすることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　15回（第1回～第15回）＋試験

1．日本の言語の特徴―言語社会学の視点から―
2．日本の気候の特徴
3．日本の四季の行事①
4．日本の四季の行事②
5．日本人への自己紹介
6．日本の食事①
7．日本の食事①
8．日本での買い物①
9．日本での買い物①
10. 日本での生活のスケジュール管理①
11. 日本での生活のスケジュール管理①
12. 日本での緊急事態の対応
13. 日本の地域社会の仕組みを知る
14. 高齢者との交流
15. 気持ちを伝える表現
試験

［準備学習］

1　日本語の基礎文法を初級の日本語テキストで自習しておくこと
2　日常生活を日本語で表現する練習をしておくこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「できる日本語　中級」アルク
参考文献：Jリサーチ出版『N2文法必修パターン』、
同『N2語彙スピードマスター』
同『N2聴解スピードマスター』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1　毎回の課題評価と復習小テスト
2　復習テスト3回　語彙、文法、聴解
毎回の課題は、翌週までに提出し、評価が与えられる
復習テストは返却し、各自の弱点を確認する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
日本文化Ⅱ	（講義・演習・実習）	松嵜　久実

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

異文化のなかで育った人々を対象に、介護福祉士として日本人の生活支援をする前提として、日本文化を学ぶ。生活支援に必要な基本的な日本語を習得し、情報を整理し、要約し、専門職に必要な日本語によるコミュニケーションが可能な力を修得することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

日本の伝統を埼玉県の事例から学び、人々の生活の楽しみを知る、ライフスタイル、医療制度、健康、教育制度等を話題に会話ができるようにする。さらに、自国との比較をして、日本語で表現する。

［授業終了時の到達目標］

日本の伝統、人々の生活の楽しみ、ライフスタイル、医療制度、健康、教育制度等を話題に会話ができる語彙を習得し、日本語で表現できる。文法、語彙、聴解、文章読解については、中級の日本語検定の力に到達する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数　15回（第1回～第15回）＋試験

1．地域の伝統を知る①
2．地域の伝統を知る②
3．地域の伝統を知る③
4．日本の旅の楽しみ
5．日本のさまざまなライフスタイル①
6．日本のさまざまなライフスタイル②
7．日本の医療保険制度と健康を巡る言葉①
8．日本の医療保険制度と健康を巡る言葉②
9．日本の社会の流行を知る①
10．日本の社会の流行を知る②
11．日本社会の情報のながれ
12．日本の教育制度と学校生活
13．日本人の働き方
14．異文化理解を考える①
15．異文化理解を考える②
試験

［準備学習］

1　日本語の基礎文法を初級の日本語テキストで自習しておくこと
2　次回のテーマを日本語で表現する練習をしておくこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「できる日本語　中級」アルク
参考文献：Jリサーチ出版『N2文法必修パターン』、
同『N2語彙スピードマスター』
同『N2聴解スピードマスター』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1　毎回の課題評価と復習小テスト
2　復習テスト3回　語彙、文法、聴解、文章読解
毎回の課題は、翌週までに提出し、評価が与えられる
復習テストは返却し、各自の弱点を確認する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
スポーツ実技	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	片山　昭義

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

スポーツ実技は、健康教育に基づく身体づくりの実践という立場で授業を展開し、学生自身にとっては手軽に出来るスポーツ種目の中から得られる喜び、指導法を体得し、他方では、福祉従事者として実践的な観点から障がい者や高齢者の親しんでいるスポーツ種目も体験させる。
※［この講義は、日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格、日本障害者スポーツ協会公認初級スポーツ指導員資格の取得講座科目でもある］

［授業全体の内容の概要］

青年期に学ぶべき健康教育について理解を深めるとともに、それを実践するための活動も合わせて体験する。体験する種目には、個人競技、集団競技を用い、これら競技の持つ様々な特性を重視しながら指導を展開する。

［授業終了時の到達目標］

福祉従事者として習得すべき実用的な観点から、障がい者や高齢者が親しんでいるスポーツの多くを学び、スポーツ活動から得られる喜びや楽しさが体得できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション、文化としてのスポーツ①　―スポーツの価値―
2．文化としてのスポーツ②　―スポーツの効果―
3．障がい者スポーツ種目の実際(1)　―バドミントン①（体験）―
4．障がい者スポーツ種目の実際(1)　―バドミントン②（展開）―
5．障がい者スポーツ種目の実際(2)　―卓球①（体験）―
6．障がい者スポーツ種目の実際(2)　―卓球①（展開）―
7．障がい者スポーツ種目の実際(3)　―バレーボール①（体験）―
8．障がい者スポーツ種目の実際(3)　―バレーボール②（技術）―
9．障がい者スポーツ種目の実際(3)　―バレーボール③（展開）―
10．高齢者スポーツ種目の実際(1)　―ティーボール①（体験）―
11．高齢者スポーツ種目の実際(1)　―ティーボール②（展開）―
12．高齢者スポーツ種目の実際(2)　―ノルディック・ウォーキング①（体験）―
13．高齢者スポーツ種目の実際(2)　―ノルディック・ウォーキング②（技術）―
14．高齢者スポーツ種目の実際(2)　―ノルディック・ウォーキング③（展開）―
15．まとめ、スポーツにおける安全管理
課題レポートを提示

［準備学習］

・実技を行う場合、運動できる服装と、体育館等で行う場合には体育館シューズを準備すること
・配布した資料については、必ず確認し直すこと
・体験した実技種目については、youtube 等で映像資料を確認すること

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：レクリエーション支援の基礎（日本レクリエーション協会)、障害者スポーツ指導教本（日本障害者スポーツ協会）
その他、適宜資料を配布

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度　20%
課題提出　20%
課題レポート　60%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
スポーツ実技	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	片山　昭義

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

スポーツ実技は、健康教育に基づく身体づくりの実践という立場で授業を展開し、学生自身にとっては手軽に出来るスポーツ種目の中から得られる喜び、指導法を体得し、他方では、福祉従事者として実践的な観点から障がい者や高齢者の親しんでいるスポーツ種目も体験させる。
※［この講義は、日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格、日本障害者スポーツ協会公認初級スポーツ指導員資格の取得講座科目でもある］

［授業全体の内容の概要］

青年期に学ぶべき健康教育について理解を深めるとともに、それを実践するための活動も合わせて体験する。体験する種目には、個人競技、集団競技を用い、これら競技の持つ様々な特性を重視しながら指導を展開する。

［授業終了時の到達目標］

福祉従事者として習得すべき実用的な観点から、障がい者や高齢者が親しんでいるスポーツの多くを学び、スポーツ活動から得られる喜びや楽しさが体得できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション、文化としてのスポーツ①　―スポーツの価値―
2．文化としてのスポーツ②　―スポーツの効果―
3．障がい者スポーツ種目の実際(1)　―バドミントン①（体験）―
4．障がい者スポーツ種目の実際(1)　―バドミントン②（展開）―
5．障がい者スポーツ種目の実際(2)　―卓球①（体験）―
6．障がい者スポーツ種目の実際(2)　―卓球①（展開）―
7．障がい者スポーツ種目の実際(3)　―バレーボール①（体験）―
8．障がい者スポーツ種目の実際(3)　―バレーボール②（技術）―
9．障がい者スポーツ種目の実際(3)　―バレーボール③（展開）―
10．高齢者スポーツ種目の実際(1)　―ティーボール①（体験）―
11．高齢者スポーツ種目の実際(1)　―ティーボール②（展開）―
12．高齢者スポーツ種目の実際(2)　―ノルディック・ウォーキング①（体験）―
13．高齢者スポーツ種目の実際(2)　―ノルディック・ウォーキング②（技術）―
14．高齢者スポーツ種目の実際(2)　―ノルディック・ウォーキング③（展開）―
15．まとめ、スポーツにおける安全管理
課題レポートを提示

［準備学習］

・実技を行う場合、運動できる服装と、体育館等で行う場合には体育館シューズを準備すること
・配布した資料については、必ず確認し直すこと
・体験した実技種目については、youtube 等で映像資料を確認すること

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：レクリエーション支援の基礎（日本レクリエーション協会)、障害者スポーツ指導教本（日本障害者スポーツ協会）
その他、適宜資料を配布

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度　20%
課題提出　20%
課題レポート　60%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
スポーツレクリエーション論	（講義・演習・実習）	片山　昭義

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

介護福祉の主要な援助技術としてスポーツ・レクリエーション（以下、「スポーツ・レク」とする）を位置づけ、その社会的意義について、基礎的理解を踏まえた上で社会福祉の場におけるスポーツ・レク支援のあり方、支援技術について学ばせる。

［※この講義は(公財)日本レクリエーション協会公認資格レクリエーション・インストラクター及び(公財)日本障がい者スポーツ協会公認初級障がい者スポーツ指導員の取得講座の主要科目も兼ねている］

［授業全体の内容の概要］

介護福祉領域でのスポーツ・レクの意義、支援計画の作成法、スポーツ・レク活動の実際とその評価について授業を展開する。特に障がい者施設、高齢者施設での支援技術については事例を挙げて詳しく指導する。

［授業終了時の到達目標］

介護福祉の場におけるスポーツ・レクの意義・あり方が理解でき、支援の計画・作成法を学び、スポーツ・レクの実践的支援能力が修得できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス（障がい者スポーツの意義と理念）
2．障がい者へのスポーツ・レク支援　～全国障がい者スポーツ大会の概要～
3．スポーツ・レクリエーション支援とは
4．楽しさと心の元気づくりの理論①　～心の元気づくりの理解～
5．楽しさと心の元気づくりの理論②　～対象別心の元気づくりの考え方～
6．スポーツ・レクリエーション支援の理論①　～コミュニケーションと信頼づくり～
7．スポーツ・レクリエーション支援の理論②　～集団づくりの考え方～
8．スポーツ・レクリエーション支援の理論③　～内発的動機付けに基づく支援のあり方～
9．スポーツ・レクリエーション支援の方法①　～ホスピタリティの考え方～
10．スポーツ・レクリエーション支援の方法②　～ホスピタリティ・トレーニング～
11．スポーツ・レク活動の計画と作成方法①　～スポーツ・レク活動の企画法～
12．スポーツ・レク活動の計画と作成方法②　～プランニング演習～
13．スポーツ・レク活動の計画と作成方法③　～プレゼンテーションと評価～
14．スポーツ・レク活動の安全管理（リスクマネジメント）
15．まとめ（障がい者スポーツ指導者制度）

筆記試験

［準備学習］

授業時に配布した資料を参考に、ふりかえりを行ない指定した演習シートに取り組むこと。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：『レクリエーション支援の理論と方法』
日本レクリエーション協会編
『障がい者スポーツ指導教本』
日本障がい者スポーツ協会編
その他、適宜資料を配布

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度	20%
課題作成とプレゼンテーション	20%
※プレゼンテーション後に講評を行う	
期末試験	60%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
レクリエーション活動援助法	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	片山　昭義

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	選択

［授業の目的］

レクリエーション活動援助法は、ディプロマポリシーに定める介護福祉領域の主要な専門的知識・援助技術としてレクリエーションを位置づけ、レクリエーション活動援助法の社会的意義について、基礎的理解を踏まえた上で介護福祉の場におけるレクリエーション援助のあり方、援助技術について学ばせる。
［※この講義は（公財）日本レクリエーション協会公認資格レクリエーション・インストラクターの取得講座の主要科目も兼ねている］

［授業全体の内容の概要］

介護福祉領域でのレクリエーション活動援助法の意義、レクリエーション活動援助計画の作成法、レクリエーション活動援助法の実際とその評価について授業を展開する。特に障害者施設、高齢者施設でのレクリエーション活動援助法については事例を挙げて詳しく指導する。

［授業終了時の到達目標］

介護福祉の場におけるレクリエーション活動援助法の意義・あり方が理解でき、レクリエーション活動援助の計画・作成法を学び、レクリエーション活動援助法の実践的援助能力が修得できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス、レクリエーション活動援助とは
2．レクリエーション活動援助法の概念
3．遊びの意義とレクリエーション活動援助法①～レクリエーションの基本的理解～
4．遊びの意義とレクリエーション活動援助法②～「楽しい」を基盤とした支援方法～
5．心身と健康とレクリエーション活動援助法①～グループを活用したレクリエーション活動援助(理論)～
6．心身と健康とレクリエーション活動援助法②～グループを活用したレクリエーション活動援助(演習)～
7．介護福祉とレクリエーション活動援助法①～ホスピタリティとは～
8．介護福祉とレクリエーション活動援助法②～ホスピタリティ・トレーニング～
9．レクリエーション活動援助法の計画と支援方法
～ライフステージごとの課題とレクリエーション支援のポイント～
10．高齢者向けのレクリエーション活動と援助法①～高齢者の課題とレクリエーション支援のポイント～
11．高齢者向けのレクリエーション活動と援助法②～高齢者施設におけるレクリエーション支援の実際～
12．レクリエーション活動援助法の計画と作成方法①
～福祉施設におけるレクリエーション行事作成のポイント～
13．レクリエーション活動援助法の計画と作成方法②
～福祉施設におけるレクリエーション行事作成の実際～
14．レクリエーション活動の安全管理（リスクマネジメント）
15．本授業のまとめ、筆記試験について
筆記試験

［準備学習］

授業時に配布した資料を参考に、ふりかえりを行ない指定した演習シートに取り組むこと。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：『レクリエーション支援の基礎』
日本レクリエーション協会編
その他、適宜資料を配布

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　20%
課題提出及びプレゼンテーション　20%
※プレゼンテーション後に講評を行う
期末試験　60%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
レクリエーション実技	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	中島　悠介

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］

レクリエーション援助を実践する際の基本的な考え方に従い、高齢者、障がい者に対するレクリエーションの援助技術を学ばせる。

［授業全体の内容の概要］

レクリエーション活動の援助計画に基づき、特に高齢者施設におけるレクリエーションの実践活動を積極的に展開させる。

［授業終了時の到達目標］

レクリエーション活動の実践援助能力を習得させる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．障がい者福祉施策と障がいスポーツ
2．アイスブレーキングプログラムの体験
3．地域貢献の具体的活動～バルーンアート他～
4．レクリエーション活動の提供スキル①～同時発声同時動作の理解と習得～
5．レクリエーション活動の提供スキル②～目的に合わせたレクリエーション～
6．レクリエーション活動の提供スキル③～対象に合わせたレクリエーション～
7．レクリエーション財のアレンジ法①（障がいに応じたスポーツの工夫）
8．レクリエーション財のアレンジ法②（障がいに応じたスポーツの実施）
9．ハードル設定とCSSプロセスの体験と理解、習得
10．ホスピタリティの体験と理解
11．レクリエーションスキルの総合的活用①～総合演習のねらいと方法～
12．レクリエーションスキルの総合的活用②～レクリエーション活動の企画～
13．レクリエーションスキルの総合的活用③～レクリエーション活動の準備～
14．総合演習
15．まとめ（安全管理について）
定期試験

［準備学習］

レクリエーションスキルを身につけるために、配布した実技資料は毎回確認して、いつでもできるように学んで欲しい。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）授業に合わせ資料を配布
（参考書）「レクリエーション支援の基礎」（公益財団法人　日本レクリエーション協会）レクリエーションガイドブック29「楽しいアイスブレーキングゲーム集」（公益財団法人　日本レクリエーション協会）ほか随時紹介

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：20%
発表：50%
試験：30%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	○	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
情報処理概論	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

現代は情報社会であり、その中で生きる私達がより快適な暮らしができるようにPC（パーソナルコンピュータ）やICT（情報通信技術）のハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する基本技術や知識を修得する。そして「情報活用検定（J検）2級」程度の資格取得を目指す。

［授業全体の内容の概要］

授業全体では、前半は主にPCやICTの技術面を学ぶ。後半はその技術の社会における運用面を学ぶ。これらより、情報社会の光と影の部分を理解し、健全に情報を取り扱い、情報活用するにはどのようにすれば良いかを学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

PCやICTの基本技術や知識を身につけ、私達が情報社会をより良く生きるための情報活用能力を身につける。そして、J検2級や「ITパスポート試験」の資格取得もできるよう指導する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．パソコンの基礎(1)　コンピュータの種類と機能
3．パソコンの基礎(2)　周辺装置の種類と役割
4．パソコンの基礎(3)　オペレーティングシステム
5．パソコンの基礎(4)　パソコンの利用と環境設定
6．パソコンの基礎(5)　マルチメディア
7．情報の基礎(1)　情報とは
8．情報の基礎(2)　コンピュータにおける情報の表現
9．情報の基礎(3)　基数表現と数値の変換
10．情報の基礎(4)　論理演算
11．インターネット(1)　インターネットとプロトコル
12．インターネット(2)　インターネットへの接続
13．インターネット(3)　IPアドレスとサーバーの種類
14．インターネット(4)　WWWの仕組みと利用
15．インターネット(5)　電子メールの仕組みと利用
期末試験

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業で配布した課題プリントは、次回の授業までに作成して提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「情報検定　情報活用試験2級テキスト」
　職業教育・キャリア教育財団　監修　実教出版
参考文献：「情報検定　情報活用試験2級問題集」職業教育・キャリア教育財団　監修　実教出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　10%
課題レポート提出　40%
期末試験　50%
課題レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
マルチメディア論Ⅰ	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

この授業では、本学のコンピュータシステム環境について説明し、活用、利用できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

この授業では、まず、Windows の基本操作、タッチタイピング（キーボードを見ないで、速く正確に入力する技術）、電子メール、インターネットを利用した情報検索等を学習する。そして、ワードプロセッサを学び、文章作成ができるようにする。図形描画機能をマスターし、デジタル画像データ（デジタルカメラの写真等）を利用し、ビジュアル的に見栄えの良い文章を作成できるようにする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

1．Windows、タッチタイピング、電子メール、インターネット検索、等を活用できるようにする。
2．ワードプロセッサでビジネス文書を作成し、文書ファイル管理ができるようにする。
3．2.ビジュアル的に見栄えの良い文章やポスターを作成し、情報発信できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．Windows の基本操作
3．タッチタイピングの練習
4．電子メールの操作と仕組み
5．インターネットの概要と WWW ブラウザの基本操作
6．サーチエンジンの活用と情報検索
7．ワードプロセッサ(1)　Word の基本画面
8．ワードプロセッサ(2)　基本編集
9．ワードプロセッサ(3)　書式設定
10．ワードプロセッサ(4)　文章作成
11．ワードプロセッサ(5)　表と罫線）
12．ワードプロセッサ(6)　図形描画とオートシェイプ
13．ワードプロセッサ(7)　組織図とワードアート
14．ワードプロセッサ(8)　クリップアートとデジタル画像処理
15．ワードプロセッサ(9)　総合演習
最終課題実習レポート等

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「Office2016で学ぶコンピュータリテラシー」小野目如快　著　実教出版
参考文献：その都度、紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

実習課題レポート提出　90%
受講態度　10%
レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
マルチメディア論Ⅱ	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的・ねらい］

この授業は、「マルチメディア論Ⅰ」を履修した者、またはその履修者と同程度の能力を持っている者を対象として、進める予定である。ここでは、表計算ソフト Excel で表計算処理とグラフ作成処理を習得し、またプレゼンテーションソフト PowerPoint でスライドの作成ができるようにする。

［授業全体の内容の概要］

表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の初心者でも、基本的なところから授業を始めるので、心配しないで受講して欲しい。表計算処理として、①表計算機能、②グラフ作成機能、等を習得する。次にプレゼンテーション用の資料作成をするソフト Power　Point を習得して、プレゼンテーション用のスライド作成ができることを目的とする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

⑴与えられた課題について、表計算処理ができるようにする。
⑵その表計算結果から、目的にあったグラフを作成できるようにする。
⑶プレゼンテーションの資料であるスライドを作成できるようにする。
⑷各自テーマを決めて、そのプレゼンテーション用資料スライドを作成できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．基本操作⑴　Excel の画面構成
3．基本操作⑵　基本入力
4．表計算処理⑴　表の作成
5．表計算処理⑵　数式の入力
6．表計算処理⑶　相対番地と絶対番地
7．表計算処理⑷　関数
8．グラフ作成処理⑴　グラフ作成
9．グラフ作成処理⑵　グラフの諸設定
10．グラフ作成処理⑵　グラフの応用設定
11．プレゼンテーションのスライド作成⑴　基本操作
12．プレゼンテーションのスライド作成⑵　デジタル画像データ処理
13．プレゼンテーションのスライド作成⑶　発表用スライドの完成
14．プレゼンテーションの課題資料作成⑴
15．プレゼンテーションの課題資料作成⑵
最終課題実習レポート

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「Office2016で学ぶコンピュータリテラシー」小野目如快　著　実教出版
参考文献：その都度、紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

実習課題レポート提出　90%
受講態度　10%
レポートの講評をします。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ウェブデザイン論	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

最初に、Webページの仕組みについて説明する。次に、デジタル画像データを取り扱えるようにして、Webページに挿入できるようにする。また、見やすく、使いやすいデザインのWebページを作成する方法を習得する。加えて、著作権の説明をし、違法コピーが犯罪であることを学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

複数のWebページを整理管理したものをWebサイトと言う。そのWebサイトの設計やファイルの管理方法について学習する。コンピュータ教室でWebページを作成する操作方法やHTML（Webページを作成するプログラム言語）について解説をして、プログラミングをしながら理解できる様に、授業を進める。学期の前半は、HTML言語のプログラミングをマスターする。後半は、最終課題として各自がテーマを決めて、Webページ、Webサイトを作成して、発表し、提出する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

1．HTMLをマスターして、基本的なWebページが作成できるようにする。
2．使いやすいWebサイトを構築し、情報を発信できるようにする。
3．デジタル画像データの加工・編集処理を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．Webサイト、Webページの概要
3．Webページの作成方法
4．HTMLの概要
5．HTMLプログラミング(1)　文章の作成
6．HTMLプログラミング(2)　文字の設定
7．HTMLプログラミング(3)　背景の設定
8．HTMLプログラミング(4)　デジタル画像データの挿入
9．HTMLプログラミング(5)　ハイパーリンクの設定
10．最終課題（各自でWebサイトを制作）の説明
11．Webサイトの制作(1)　Webサイトのテーマを決める。
12．Webサイトの制作(2)　素材（デジタル画像データ）を収集する。
13．Webサイトの制作(3)　プログラミングをして各ページを作成する。
14．Webサイトの制作(4)　各Webページをリンクして Webサイトを完成する。
15．Webサイトの修正、発表、提出
最終実習課題提出

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「Webページ作成入門
－HTML/CSS/JavaScriptの基礎－」
松下孝太郎　他著、コロナ社
参考文献：「30時間アカデミック Webデザイン」、
影山明俊　他著、実教出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

最終実習課題レポート　50%
提出実習課題レポート　30%
受講態度　20%
レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ウェブデザイン論	（講義・演習・実習）	米岡　学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的・ねらい］

最初に、Webページの仕組みについて説明する。次に、デジタル画像データを取り扱えるようにして、Webページに挿入できるようにする。また、見やすく、使いやすいデザインのWebページを作成する方法を習得する。加えて、著作権の説明をし、違法コピーが犯罪であることを学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

複数のWebページを整理管理したものをWebサイトと言う。そのWebサイトの設計やファイルの管理方法について学習する。コンピュータ教室でWebページを作成する操作方法やHTML（Webページを作成するプログラム言語）について解説をして、プログラミングをしながら理解できる様に、授業を進める。学期の前半は、HTML言語のプログラミングをマスターする。後半は、最終課題として各自がテーマを決めて、Webページ、Webサイトを作成して、発表し、提出する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

1．HTMLをマスターして、基本的なWebページが作成できるようにする。
2．使いやすいWebサイトを構築し、情報を発信できるようにする。
3．デジタル画像データの加工・編集処理を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．Webサイト、Webページの概要
3．Webページの作成方法
4．HTMLの概要
5．HTMLプログラミング(1)　文章の作成
6．HTMLプログラミング(2)　文字の設定
7．HTMLプログラミング(3)　背景の設定
8．HTMLプログラミング(4)　デジタル画像データの挿入
9．HTMLプログラミング(5)　ハイパーリンクの設定
10．最終課題（各自でWebサイトを制作）の説明
11．Webサイトの制作(1)　Webサイトのテーマを決める。
12．Webサイトの制作(2)　素材（デジタル画像データ）を収集する。
13．Webサイトの制作(3)　プログラミングをして各ページを作成する。
14．Webサイトの制作(4)　各Webページをリンクして Webサイトを完成する。
15．Webサイトの修正、発表、提出
最終実習課題提出

［準備学習］

毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「Webページ作成入門
－HTML/CSS/JavaScriptの基礎－」
松下孝太郎　他著、コロナ社
参考文献：「30時間アカデミック Webデザイン」、
影山明俊　他著、実教出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

最終実習課題レポート　50%
提出実習課題レポート　30%
受講態度　20%
レポートの講評を行います。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
エッセンシャルスタディⅠ	（講義・演習・実習）	松嵜　久実・平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

学生として必要な読解力・表現力・記述力といった基礎的な学力を養う。自己学習の習慣を身につける。

［授業全体の内容の概要］

授業内容を的確に把握できるようノートの取り方を学ぶ。地域と連携し地域の高齢者との触れ合いや新聞の切り抜き等から事実の把握、分析、感想を文字化することを学ぶ。課題解決のアクティブ・ラーニングを行う。専門用語の読み書きを修得し、適切な表現力を身につける。インターネット検索を学び、情報収集を行うことにより物事を多面的に捉える力をつける。補講を行うことにより基礎力を高める。

［授業終了時の到達目標］

情報収集し記録する技術を身につけ、物事を自分の言葉で表現できる知識と技術を修得している。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．基礎学力確認テスト
3．ノートテーキング
4．地域課題を高齢者から学ぶ①
5．地域課題を高齢者から学ぶ②
6．新聞の切り抜き発表から学ぶ①
7．インターネット検索と活用①
8．インターネット検索と活用②
9．新聞の切り抜き発表から学ぶ②
10．文章力入門①
11．文章力入門②
12．文章力入門③
13．文章力入門④
14．文章力入門⑤
15．文章力入門⑥
試験

［準備学習］

毎月、新聞の切り抜きをして、抜き書き、要約、考察を書く。文章力入門では、毎回、文章を作成する課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受けることで、学習の内容が深められる。十分でない提出物は再提出となる。文章力の基本となる熟語の読み書きの課題が出題されるので、期末試験までに、練習をする必要がある。

［使用テキスト・参考文献］

適宜プリントを配付
樋口裕一：「文章力の鍛え方」ソーテック社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：40％
2．レポートおよび課題：60％

期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はルーブリック評価を行うとともにコメントを記して戻す。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
エッセンシャルスタディⅡ	（講義・演習・実習）	松嵜　久実・平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

データの収集と分析を行い、レポートを作成する方法を学ぶ。作成したレポートを推敲する方法を学び、介護福祉士として社会に発信する技術を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

高齢者の地域生活における課題や新聞の切り抜きの追跡調査を行い、充実した完成レポートを作成する。題解決のアクティブ・ラーニングを行う。エクセルやワードを活用してレポート作成に関する技術を修得する。補講を行うことにより基礎力を高める。レポートの到達目標はルーブリックで示され、評価される。

［授業終了時の到達目標］

レポート作成に必要な技術を修得し、プレゼンテーションができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．読書感想文発表から学ぶ
2．新聞の切り抜き発表から学ぶ①
3．文章作成法①
4．文章作成法②
5．文章作成法③
6．文章作成法④
7．文章作成法⑤
8．レポート作成の技術①
9．レポート作成の技術②
10．新聞の切り抜き発表から学ぶ②
11．レポート指導①
12．レポート指導②
13．地域課題の解決方法を探る①
14．地域課題の解決方法を探る②
15．レポート作成の技術③
試験

［準備学習］

文章作成法では、毎回、文章を作成する課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価をうけることで、学習の内容が深められる。十分でない提出物は再提出となる。

レポート完成の前に、各自レポートを作成して、添削指導を受ける。指導内容を反映した修正を各自で行う。作成したレポートは、評価の基準が示されているので、自己採点して書式等を完璧にする。

［使用テキスト・参考文献］

適宜プリントを配付
樋口裕一：「文章力の鍛え方」ソーテック社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：40％
2．レポートおよび課題：60％

期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はルーブリック評価を行うとともにコメントを記して戻す。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインⅠ	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

・介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。

［授業全体の内容の概要］

・介護福祉実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。

・介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。

・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。

・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．実習体験の振り返り・オリエンテーション
2．人間の尊厳と自立と介護現場での支援の工夫
3．人間関係とコミュニケーションと介護現場での支援の工夫
4．社会の理解：社会保障制度と介護現場での支援の工夫①
5．社会の理解：社会保障制度と介護現場での支援の工夫②
6．社会の理解：介護保険制度と介護現場での支援の工夫①
7．社会の理解：介護保険制度と介護現場での支援の工夫②
8．社会の理解：介護実践に関連する諸制度と介護現場での支援の工夫①
9．社会の理解：介護実践に関連する諸制度と介護現場での支援の工夫②
10．まとめ
11．障害の理解：基礎的理解と介護現場での支援の工夫
12．障害の理解：医学的側面の基礎的知識と介護現場での支援の工夫①
13．障害の理解：医学的側面の基礎的知識と介護現場での支援の工夫②
14．障害の理解：障害者支援におけるチームアプローチと家族支援と介護現場での支援の工夫
15．まとめ
期末（後期）テスト

［準備学習］

介護福祉実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版
参考テキスト：
「介護福祉士受験ワークブック」上･下 中央法規出版
「介護福祉士国家試験過去問解説集」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（知識・理解・思考・判断）
定期試験：30％
小テスト：30％
（関心・意欲・態度）受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインⅡ	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］

・介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。

［授業全体の内容の概要］

・介護福祉実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。

・介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。

・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。

・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．コミュニケーション技術と介護現場での支援の工夫①
2．コミュニケーション技術と介護現場での支援の工夫②
3．まとめ
4．こころとからだのしくみ：こころのしくみの仕組みと介護現場での支援の工夫
5．こころとからだのしくみ：からだのと介護現場での支援の工夫
6．こころとからだのしくみ：移動に関連しこころとからだのしくみとからだのしくみと介護現場での支援の工夫
7．こころとからだのしくみ：入浴・清潔保持・身じたくに関連したこころとからだのしくみと介護現場での支援の工夫
8．こころとからだのしくみ：排泄に関連したこころとからだのしくみと介護現場での支援の工夫
9．まとめ
10．認知症の理解：認知症を取り巻く状況と介護現場での支援の工夫
11．認知症の理解：医学的側面から見た認知症の基礎と介護現場での支援の工夫①
12．認知症の理解：医学的側面から見た認知症の基礎と介護現場での支援の工夫②
13．認知症の理解：医学的側面から見た認知症の基礎と介護現場での支援の工夫③
14．認知症の理解：医学的側面から見た認知症の基礎と介護現場での支援の工夫④
15．まとめ
期末（後期）テスト

［準備学習］

介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版
参考テキスト：
「介護福祉士受験ワークブック」上・下
中央法規出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（知識・理解・思考・判断）
定期試験：30％
小テスト：30％
（関心・意欲・態度）受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインⅢ	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的・ねらい］

・介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。

［授業全体の内容の概要］

・介護福祉実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。

・介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。

・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。

・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション

2．認知症の理解：こころとからだの変化における介護現場での支援の工夫

3．認知症の理解：日常生活と介護現場での支援の工夫

4．認知症の理解：連携と協働における介護現場での支援の工夫

5．認知症の理解：家族への支援における介護現場での支援の工夫

6．生活支援技術と介護現場での支援の工夫①

7．生活支援技術と介護現場での支援の工夫②

8．まとめ

9．発達と老化の理解：人間の成長と発達の基礎的理解における介護現場での支援の工夫

10．発達と老化の理解：老年期の発達と成熟における介護現場での支援の工夫

11．発達と老化の理解：老化に伴うこころとからだの変化と日常生活における介護現場での支援の工夫①

12．発達と老化の理解：老化に伴うこころとからだの変化と日常生活における介護現場での支援の工夫②

13．発達と老化の理解：高齢者と健康における介護現場での支援の工夫①

14．発達と老化の理解：高齢者と健康における介護現場での支援の工夫②

15．まとめ

期末（後期）テスト

［準備学習］

介護福祉実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：

「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版

参考テキスト：

「介護福祉士受験ワークブック」上･下 中央法規出版

「介護福祉士国家試験過去問解説集」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（知識・理解・思考・判断）

定期試験：30％

小テスト：30％

（関心・意欲・態度）受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインⅣ	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的・ねらい］

・介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。

［授業全体の内容の概要］

・介護福祉実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。

・介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。

・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。

・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護の基本：介護福祉士の役割と機能と介護現場での支援の工夫

2．介護の基本：介護を必要とする人の理解と介護現場での支援の工夫

3．介護の基本：介護サービス及び実践における連携と介護現場での支援の工夫

4．介護の基本：介護における安全の確保とリスクマネジメントと介護現場での支援の工夫

5．介護の基本：介護従事者の安全と介護現場での支援の工夫

6．まとめ

7．医療的ケア：医療的ケア実施の基礎と介護現場での支援の工夫

8．医療的ケア：喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識及び実施手順と介護現場での支援の工夫

9．介護過程と介護現場での支援の工夫①

10．介護過程と介護現場での支援の工夫②

11．介護過程と介護現場での支援の工夫③

12．まとめ

13．総合問題：事例を元にした介護の展開①

14．総合問題：事例を元にした介護の展開①

15．まとめ

期末（後期）テスト

［準備学習］

介護福祉実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：

「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版

参考テキスト：

「介護福祉士受験ワークブック」上･下 中央法規出版

「介護福祉士国家試験過去問解説集」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（知識・理解・思考・判断）

定期試験：30％

小テスト：30％

（関心・意欲・態度）受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインⅠ	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。

［授業全体の内容の概要］

4回の実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。また事例などから多面的な知識が求められていることを知り、知識を丁寧に整理し、習得するとともに、あらゆる可能性を駆使して利用者を理解することの大切さを学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。
・介護福祉士の専門性を明確に持ち、全人的な視点で利用者を理解する。
・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．実習体験の振り返り・オリエンテーション
2．人間と社会1：人間の尊厳と自立と介護現場での支援の工夫
3．人間と社会2：人間関係とコミュニケーションと介護現場での支援の工夫
4．人間と社会3：社会の理解と介護現場での支援の工夫①
5．人間と社会4：社会の理解と介護現場での支援の工夫②
6．事例による検討
7．介護1：介護の基本と介護現場での支援の工夫①
8．介護2：介護の基本と介護現場での支援の工夫②
9．介護3：コミュニケーション技術と介護現場での支援の工夫
10．介護4：生活支援技術と介護現場での支援の工夫①
11．介護5：生活支援技術と介護現場での支援の工夫②
12．介護6：生活支援技術と介護現場での支援の工夫③
13．介護7：生活支援技術と介護現場での支援の工夫④
14．介護8：介護過程と介護現場での支援の工夫
15．総論：介護現場の問題と解決
試験

［準備学習］

介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習を進めるポイントを考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。

［使用テキスト・参考文献］

（使用テキスト）
「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版
（参考テキスト）
「介護福祉士受験ワークブック」上・下
中央法規出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1.（知識・理解・思考・判断）定期試験：30％
小テスト：30％
2.（関心・意欲・態度）　受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインⅡ	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

[授業の目的]

介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。

[授業全体の内容の概要]

4回の実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。

[授業終了時の到達目標]

・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。
・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。
・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．こころとからだのしくみ1：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫①
2．こころとからだのしくみ2：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫②
3．こころとからだのしくみ3：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫③
4．こころとからだのしくみ4：認知症の理解と介護現場での支援の工夫①
5．こころとからだのしくみ5：認知症の理解と介護現場での支援の工夫②
6．こころとからだのしくみ6：認知症の理解と介護現場での支援の工夫③
7．こころとからだのしくみ7：障害の理解と介護現場での支援の工夫①
8．こころとからだのしくみ8：障害の理解と介護現場での支援の工夫②
9．こころとからだのしくみ9：こころとからだのしくみと介護現場での支援の工夫
10．こころとからだのしくみ10：からだのしくみと介護現場での支援の工夫
11．こころとからだのしくみ11：こころのしくみと介護現場での支援の工夫
12．総合事例：事例を元にした介護の展開①
13．総合事例：事例を元にした介護の展開②
14．学習の振り返り：総合的学習の振り返り①
15．学習の振り返り：総合的学習の振り返り②
試験

[準備学習]

介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。

[使用テキスト・参考文献]

（使用テキスト）
「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版
（参考テキスト）
「介護福祉士受験ワークブック」上・下
中央法規出版

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

1.（知識・理解・思考・判断）定期試験：30%
小テスト：30%
2.（関心・意欲・態度）　受講態度：40%

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

介護福祉科目

（人間と社会）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
人間の尊厳と自立	（講義・演習・実習）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

人間の尊厳について、その必要性を学ぶとともに、現代社会における法制度や社会の構造、人びとの意識について演習などを通じて考察する。そして生活支援における自立・自律の考え方及び尊厳との関係についての基礎事項を学び、介護実践に生かせる能力を養う。

［授業終了時の到達目標］

介護福祉士としての基礎的な人格的態度を養う。人権の基本的理解のうえに、権利擁護及び職業倫理を学び身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護になぜ尊厳と自立の考えが必要なのか
2．尊厳の思想成立の歴史的背景
3．尊厳についての考察
4．自立と自律の関係
5．尊厳と自立の関係
6．尊厳と自立の考察Ⅰ（映像からの考察１）
7．尊厳と自立の考察Ⅱ（映像からの考察２）
8．尊厳と自立の考察Ⅲ（演習）
9．尊厳と自立の考察Ⅳ（演習の発表、講評）
10．介護を取り巻く諸問題と尊厳と自立
11．介護福祉士の倫理Ⅰ（人間の尊厳を支えるための倫理的課題１）
12．介護福祉士の倫理Ⅱ（人間の尊厳を支えるための倫理的課題２）
13．介護福祉士の倫理Ⅲ（対人支援者の職能倫理）
14．介護福祉士の倫理Ⅳ（グループディスカッション）
15．介護福祉士の倫理Ⅴ（発表と考察・ミニレポート）
〈試験〉

［準備学習］

授業終了後にリアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容を良く理解できるように次回授業内容分のテキストを良く予習しておくように。また、テキストの該当箇所終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（使用テキスト）
「人間の理解」中央法規出版
（参考文献）
「人間科学的生活支援論」
黒澤貞夫著　ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末試験：60%
2．課題提出・ミニテスト：20%
3．受講態度：20%
※ミニテストはコメントを記して返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
人間関係とコミュニケーション	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

・介護実践のために必要となる人間関係の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーションの能力を養う。

・利用者に対するコミュニケーション、他職種協働でチームケアを進める際に必要となるコミュニケーション能力の基礎的理解を養う。

［授業全体の内容の概要］

・人間関係の理解を基礎に、コミュニケーションの構造を分析的に理解を深める。

・介護福祉士として、援助関係形成のためのコミュニケーションの基礎的知識を備える。

［授業終了時の到達目標］

・自己覚知、他者理解を学び、人間関係の形成のための基盤を理解できる。

・コミュニケーションを形成している構成要素を理解する。

・援助形成のために必要となるコミュニケーション基礎知識を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．人間関係の形成①　自己覚知、他者理解とは何か
2．人間関係の形成②　人間関係を理解するために
3．コミュニケーションの基礎的理解①　対人関係とコミュニケーションの概要
4．コミュニケーションの基礎的理解②　対人関係とコミュニケーションの意義
5．コミュニケーションの基礎的理解③　コミュニケーションを促すための環境づくり
6．コミュニケーション技法①　距離のもち方（心理的距離と物的距離について）
7．コミュニケーション技法②　言語的コミュニケーションの有効的な活用
8．コミュニケーション技法③　非言語コミュニケーションの有効的な活用
9．コミュニケーション技法④　援助関係形成のための援助者としての基本的態度
10．道具を用いた言語的コミュニケーションの活用
11．コミュニケーションの実際①　特別養護老人ホームにおける事例
12．コミュニケーションの実際②　老人デイサービスセンター利用者の事例
13．コミュニケーションの実際③　障害がある人の多様なコミュニケーション
14．場面別でのコミュニケーションの活用①
15．場面別でのコミュニケーションの活用②
試験

［準備学習］

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「人間の理解」中央法規
参考文献：
「コミュニケーション技術」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：20%
3．受講態度：20%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評します
＊提出物はコメントを記し返却します

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅰ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

[授業の目的]

・個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。
・日本の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

・人間の生活と社会の関わり、自助から公助に至る過程を理解することにより、個人が自立した生活を営むということは何かを考え、理解する。
・日本における社会保障システムについて理解を深める。

[授業終了時の到達目標]

・個人が自立した生活を営むということは何かを理解する。
・日本の社会保障システムについて理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．生活と福祉⑴家族生活の基本機能
2．生活と福祉⑵地域社会と組織
3．生活と福祉⑶ライフスタイル、社会構造の変容
4．生活と福祉⑷生活支援と福祉
5．社会保障制度⑴社会保障の基本的な考え方
6．社会保障制度⑵日本の社会保障制度の発達（日本の社会保障の基本的な考え方）
7．社会保障制度⑶日本の社会保障制度の発達（憲法と社会保障）
8．社会保障制度⑷日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解
9．社会保障制度⑸日本の社会保障制度の発達（公的扶助）
10．社会保障制度⑹日本の社会保障制度の発達（国民皆年金）
11．社会保障制度⑺日本の社会保障制度の発達（国民皆保険）
12．社会保障制度⑻日本の社会保障制度の発達（国民皆年金、国民皆保険、その他）
13．社会保障制度⑼現代社会における社会保障制度
14．社会保障制度⑽日本の社会保障制度の発達（社会保障の現状と今後の展望①）
15．社会保障制度⑾日本の社会保障制度の発達（社会保障の現状と今後の展望②）
〈試験〉

[準備学習]

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
「社会と制度の理解」中央法規
参考文献：
「生活と福祉」建帛社
「社会保障制度・介護福祉の制度と実践」建帛社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：30%
3．受講態度：10%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評します
＊提出物はコメントを記し返却します

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐・平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

1　介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。

2　介護実践に必要とされる観点から個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化に関して理解を深め、介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得するとともに、個人情報保護や成年後見制度等の諸制度についても理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

1　介護保険制度や障害者総合支援法について、基礎的知識を習得する。

2　個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

［高齢者に関する制度］

1．介護保険制度①　介護保険制度創設の背景及び目的
2．介護保険制度②　介護保険制度の動向
3．介護保険制度③　介護保険制度のしくみの基礎的理解
4．介護保険制度④　介護保険制度における組織、団体の役割
5．介護保険制度⑤　介護保険制度における専門職の役割
6．介護実践に関連する諸制度①　個人の権利を守る制度、生活保護制度
7．介護実践に関連する諸制度②　介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策
8．まとめ・評価

［障害がある人に関する制度］

9．障害者総合支援法①　障害者総合支援法創設の背景
10．障害者総合支援法②　障害者総合支援法の目的
11．障害者総合支援法③　障害者総合支援法の仕組み：サービスの種類と体系
12．障害者総合支援法④　障害者総合支援法の仕組み：事業所と施設、専門職の役割
13．障害者総合支援法⑤　指定サービス事業所、国、都道府県、市町村の機能と役割
14．介護実践に関する諸制度③　個人の権利を守る制度、生活保護制度
15．介護実践に関する諸制度④　介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策
まとめ・評価

［準備学習］

介護保険制度や障害者総合支援法、そして介護実践に関する諸制度について、教科書を熟読し内容を把握して授業に臨むことが必要である。また、これらの制度は改正、変化していくため、タイムリーな情報の収集が必要である。新聞や雑誌などで、多くの今日の情報を提供している。教科書の予習とともに、それらの情報を得てくることが望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「社会と制度の理解」中央法規
参考文献：「生活と社会」建帛社
「社会保障制度･介護福祉の制度と実践」建帛社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：20%
3．受講態度：20%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。
＊提出物はコメントを記し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐・平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

1　介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。

2　介護実践に必要とされる観点から個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化に関して理解を深め、介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得するとともに、個人情報保護や成年後見制度等の諸制度についても理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

1　介護保険制度や障害者総合支援法について、基礎的知識を習得する。

2　個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

［高齢者に関する制度］

1．介護保険制度①　介護保険制度創設の背景及び目的
2．介護保険制度②　介護保険制度の動向
3．介護保険制度③　介護保険制度のしくみの基礎的理解
4．介護保険制度④　介護保険制度における組織、団体の役割
5．介護保険制度⑤　介護保険制度における専門職の役割
6．介護実践に関連する諸制度①　個人の権利を守る制度、生活保護制度
7．介護実践に関連する諸制度②　介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策
8．まとめ・評価

［障害がある人に関する制度］

9．障害者総合支援法①　障害者総合支援法創設の背景
10．障害者総合支援法②　障害者総合支援法の目的
11．障害者総合支援法③　障害者総合支援法の仕組み：サービスの種類と体系
12．障害者総合支援法④　障害者総合支援法の仕組み：事業所と施設、専門職の役割
13．障害者総合支援法⑤　指定サービス事業所、国、都道府県、市町村の機能と役割
14．介護実践に関する諸制度③　個人の権利を守る制度、生活保護制度
15．介護実践に関する諸制度④　介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策
まとめ・評価

［準備学習］

介護保険制度や障害者総合支援法、そして介護実践に関する諸制度について、教科書を熟読し内容を把握して授業に臨むことが必要である。また、これらの制度は改正、変化していくため、タイムリーな情報の収集が必要である。新聞や雑誌などで、多くの今日の情報を提供している。教科書の予習とともに、それらの情報を得てくることが望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「社会と制度の理解」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：20%
3．受講態度：20%

＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。
＊提出物はコメントを記し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
人間と社会特別講義	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

・我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する
・介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法について実践に必要な観点から基礎的知識を習得する
・介護実践に必要とされる、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する

［授業全体の内容の概要］

・介護に関する社会保障制度（介護保険制度、障害者総合支援制法等）について理解を深め、基礎的知識を習得するとともに、介護実践に関連する個人情報保護や成年後見制度、介護労働に関する制度等についても理解を深める

［授業終了時の到達目標］

・介護保険制度や障害者総合支援法について、基礎的な知識を習得する
・個人情報保護や成年後見制度、労働基準に関する諸制度について、基礎的な知識を習得する

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．人間の尊厳と自立
3．介護における尊厳の保持・自立支援
4．人間関係の形成
5．コミュニケーションの基礎
6．生活と福祉
7．社会保障制度①　社会保障の基本的な考え方及び日本の社会保障制度の発達
8．社会保障制度②　日本の社会保障制度のしくみと現代社会における社会保障制度基礎的理解
9．介護保険制度①　介護保険制度創設の背景・目的及びその動向
10．介護保険制度②　介護保険制度のしくみの基礎的理解
11．介護保険制度③　介護保険制度における組織、団体・専門職の機能と役割
12．障害者自立支援制度①　障害者自立支援制度創設の背景及び目的とそのしくみの基礎的理解
13．障害者自立支援制度②　障害者自立支援制度における組織、団体の機能と役割
14．介護実践に関連する諸制度①　個人の権利を守る制度及び保健医療福祉に関する施策の概要の概要
15．介護実践に関連する諸制度②　介護と関連領域との連携に必要な法規及び生活保護制度の概要
期末テスト

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
・介護福祉養成講座編集委員会「社会と制度の理解」（中央法規出版）
・介護福祉養成講座編集委員会「人間の理解」（中央法規出版）
・介護福祉養成講座編集委員会「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

・定期試験：60％
・授業態度・課題提出状況：20％
・小テスト、中間テスト：20％
※期末テスト・小テストは返却時に講評する
※提出物はコメントを記し返却する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	◎

介護福祉科目

（介　護）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅰ	（講義・演習・実習）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

介護福祉士が成立した時代的背景を理解し、現代の社会問題としての介護の在り方を理解する。

介護を取り巻く社会背景や尊厳の保持・自立生活支援の新しい考え方を持った介護福祉士の役割を理解する。

［授業全体の内容の概要］

介護福祉士は多様、複雑、高度な介護問題に対応する専門職としての社会的役割を期待されている。まずは介護とは何か、介護を巡る目まぐるしい社会的背景を学び、介護福祉士の役割は何かを理解する。

［授業終了時の到達目標］

介護福祉士が成立した過程と、時代背景、介護に対する今日的な役割を理解する。

介護が必要な人を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．介護福祉士養成の教育課程
3．介護を必要とする人の理解①　介護を必要とする人の生活1
4．介護を必要とする人の理解②　介護を必要とする人の生活2
5．介護を必要とする人の理解③　高齢者の暮らし
（核家族化・小家族化・家に対する意識の変化）
6．介護を必要とする人の理解④　高齢者の暮らし（生活の改善と生活文化の変化）
7．介護を必要とする人の理解⑤　介護を必要とする人の意識の変化1
8．介護を必要とする人の理解⑥　介護を必要とする人の意識の変化2
9．介護福祉士を取り巻く現状①　介護福祉士制度誕生の背景
10．介護福祉士を取り巻く現状②　介護福祉士制度と専門職への歩み
11．介護問題の背景①　介護保険制度と自立生活支援
12．介護問題の背景②　介護の目指すものの変化
13．介護の概念（理念・サービスの利用者）
14．介護福祉士の社会的役割
15．介護の概念（方法・提供者の資質）
まとめ

［準備学習］

テキストを中心に授業を進めるため、授業中に指定されたテキストを十分に読んでおくように。また、テキストの各章終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「介護の基本Ⅰ」（中央法規）
「介護の基本Ⅱ」（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

筆記試験及び授業態度により総合的に判断する。
1．期末試験：60％
2．課題提出・ミニテスト：20％
3．受講態度：20％
※期末テストおよびミニテストは返却時に講評を行う。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ	（講義・演習・実習）	平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］
・援助関係形成のために、介護を必要とする人の生活の視点から生活課題を把握する能力を養う。介護サービスを利用している高齢者の個別の生活環境を理解し、利用している福祉サービスとその体系を学び、生活に根ざした制度活用の実態を理解する。また、介護福祉士と他の専門職とのチームアプローチの実践の理解をする。

［授業全体の内容の概要］
・介護を必要とする人の理解、介護サービスの体系と課題、介護実践における連携、地域連携について理解を深める。

［授業終了時の到達目標］
・介護を必要とする人の多様な生活の実態を理解することができる。
・介護を必要とする人の生活の理解を踏まえ、介護サービスの種類と活用されている実態、課題を整理することができる。
・介護福祉士と連携する専門職種を理解し、チームアプローチの実態を理解することができる。
・地域連携について、インフォーマルサービスの機能と活用を理解することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．介護を必要とする人の理解①　高齢者の暮らし（人間の多様性、様々な生活の理解）
2．介護を必要とする人の理解②　高齢者の暮らし（就労、雇用、社会活動の実態）
3．介護サービスの体系と課題①　介護サービスの概要（介護保険制度創設の背景及び目的）
4．介護サービスの体系と課題②　介護サービスの概要（介護保険制度の動向）
5．介護サービスの体系と課題③　介護サービスの概要（介護保険制度のしくみの基礎的理解）
6．介護サービスの体系と課題④　介護サービスの概要（介護保険制度における組織、団体の役割）
7．介護サービスの体系と課題⑤　介護サービスの概要（介護保険サービスの種類と体系）
8．介護サービスの体系と課題⑥　介護サービスの概要（ケアプランとケアマネジメント）
9．介護サービスの体系と課題⑦　介護サービスの概要（高齢者在宅福祉サービスの種類と特徴）
10．介護サービスの体系と課題⑧　介護サービスの概要（高齢者在宅福祉サービスの現状と課題）
11．介護サービスの体系と課題⑨　介護サービス提供の場の特性（高齢者施設サービスの種類と特徴）
12．介護サービスの体系と課題⑩　介護サービス提供の場の特性（高齢者施設サービスの種類と特徴）
13．介護実践における連携①　介護福祉士と連携する専門職
14．介護実践における連携②　地域包括支援センターの機能と役割
15．介護実践における連携③　高齢者のくらしとインフォーマルサービス
まとめ

［準備学習］
授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
「介護の基本Ⅰ」中央法規
「介護の基本Ⅱ」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．期末テスト：60%
2．課題・小テスト：20%
3．受講態度：20%
期末テストおよび小テストは返却時に講評を行う。課題はコメントを記して戻す。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅲ	（講義・演習・実習）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

・介護実践における他職種、他機関の役割を理解し、チームアプローチのための知識を理解する。
・リハビリテーションの理念･方法を理解し、尊厳の保持･自律支援の観点から介護実践できる能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

・利用者に対するチームアプローチの中での、他職種、他機関の役割の理解を深める。
・理学療法、作業療法、言語聴覚療法、日常生活活動訓練、自立生活（IL）運動などの実質的訓練内容の理解および障がいの3段階とその対応の理解。さらには、生活機能訓練についても理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

・チームアプローチの中での介護福祉士の役割を理解し、他職種連携の中での支援の在り方が解る。
・リハビリテーションの関連他職種とのチームワークによって、身体的、精神的に障がいを持つ人に対する全人間的復権の一翼を担える介護職を目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（社会福祉士・介護福祉士法）
2．介護実践における連携①　連携をする専門職と連携の実態
3．介護実践における連携②　チームアプローチの意義と目的
4．介護実践における連携③　自治体の機能と地域連携の目的と意義
5．介護実践における連携④　インフォーマルサービスの機能と活用の実態
6．ケアマネージャーとケアマネジメントの役割
7．地域包括支援センターの機能と役割
8．今後の地域支援のあり方について（まとめ）
9．自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）①　リハビリテーション過程
10．自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）②　個人特性の把握
11．自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）③　日常生活活動（ADL）評価
12．自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）④　職業評価
13．自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）⑤　社会参加の実施
14．リハビリテーションと介護①　日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持・拡大への援助
15．リハビリテーションと介護②　リハビリテーション分野の専門職との連携（チームアプローチ）
まとめ

［準備学習］

テキストを中心に授業を進めるため、授業中に指定されたテキストを十分に読んでおくように。また、テキストの各章終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（使用テキスト）
「介護の基本Ⅰ」（中央法規）
「介護の基本Ⅱ」（中央法規）
（参考文献）
授業時に提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

筆記試験及び授業態度により総合的に判断する。
1．期末試験：60%
2．ミニテスト：20%
3．受講態度：20%
※期末テストおよびミニテストは返却時に講評を行う。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅳ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

[授業の目的]

・援助関係形成のために、介護を必要とする人の生活の視点から生活課題を把握する能力を養う。
・介護サービスを利用している障害者個々の生活環境を理解し、利用している福祉サービスとその体系を学び、生活に根ざした制度活用の実際を理解する。

[授業全体の内容の概要]

・介護を必要とする人の理解を深める。
・障害者に対するサービスの体系、現状と課題について理解を深める。

[授業終了時の到達目標]

・介護を必要とする人（障害者）の多様な生活の実態を理解することができる。
・介護を必要とする人（障害者）の生活の理解を踏まえ、サービスの種類について整理することができる。
・介護を必要とする人（障害者）の生活の理解を踏まえ、サービスの活用実態と課題について整理することができる。
・介護を必要とする人（障害者）の生活の理解を踏まえ、諸制度を活用し、実際の支援にあたることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．介護を必要とする人の理解①　障害のある人の暮らし（障害のある人の生活ニーズと多様なくらしのあり方）
2．介護を必要とする人の理解②　障害のある人の暮らし（生活を支える諸制度）
3．障害者支援サービスの体系と課題①　サービスの概要（支援費制度と障害者総合支援法）
4．障害者支援サービスの体系と課題②　サービスの概要（障害者総合支援法の目的と成立までの歩み）
5．障害者支援サービスの体系と課題③　サービスの概要（障害者総合支援法の概要）
6．障害者支援サービスの体系と課題④　サービスの概要（障害者総合支援法のサービスの種類と体系①）
7．障害者支援サービスの体系と課題⑤　サービスの概要（障害者総合支援法のサービスの種類と体系②）
8．障害者支援サービスの体系と課題⑥　サービスの概要（障害者総合支援法のサービスの種類と体系③）
9．障害者支援サービスの体系と課題⑦　サービスの概要（ケアプランとケアマネジメント）
10．障害者支援サービスの体系と課題⑧　サービス提供の場の特性（障害者支援サービスの基礎的理解）
11．障害者支援サービスの体系と課題⑨　サービス提供の場の特性（障害者支援事業の種類と特徴）
12．障害者支援サービスの体系と課題⑩　サービス提供の場の特性（障害者支援事業の現状と課題①）
13．障害者支援サービスの体系と課題⑪　サービス提供の場の特性（障害者支援事業の現状と課題②）
14．障害者支援サービスの体系と課題⑫　サービス提供の場の特性（公的扶助と障害者支援）
15．障害者支援サービスの体系と課題⑬　サービス提供の場の特性（障害者支援の現状と課題）
〈試験〉

[準備学習]

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
「介護の基本Ⅰ」中央法規
「介護の基本Ⅱ」中央法規
参考文献：
「社会保障制度・介護福祉の制度と実践」建帛社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：30%
3．受講態度：10%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評します
＊提出物はコメントを記し返却します

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅴ	（講義・演習・実習）	鄭　春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］
・介護従事者として必要な倫理観を養う
・リスクマネジメント等、利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う

［授業全体の内容の概要］
・介護従事者として必要な倫理観を学ぶ
・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する

［授業修了時の達成課題（到達目標）］
・介護従事者として必要な倫理観を身に付ける
・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
1．オリエンテーション　介護従事者の倫理　職業倫理（介護従事者の倫理）
2．介護従事者の倫理①　職業倫理（介護実施の場で求められる倫理）
3．介護従事者の倫理②　利用者の人権と介護（児童虐待）
4．介護従事者の倫理③　利用者の人権と介護（障害者虐待）
5．介護従事者の倫理④　利用者の人権と介護（高齢者虐待）
6．介護従事者の倫理⑤　利用者の人権と介護（権利擁護①）
7．介護従事者の倫理⑥　利用者の人権と介護（権利擁護②）
8．介護従事者の倫理⑦　プライバシーの保護（個人情報保護、その他）
9．まとめ
10. 介護における安全の確保とリスクマネジメント①　介護における安全の確保（観察）
11. 介護における安全の確保とリスクマネジメント②　介護における安全の確保（技術）
12. 介護における安全の確保とリスクマネジメント③　介護における安全の確保（予測）
13. 介護における安全の確保とリスクマネジメント④　介護における安全の確保（分析）
14. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤　事故防止、安全対策（転倒・転落の防止）
15. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥　事故防止、安全対策（骨折予防、その他）
期末（後期）テスト

［準備学習］
授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておいて下さい。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会
介護の基本Ⅱ　第3版
中央法規（2015年2月）
参考文献：授業時に提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．成績評価の方法・基準
①定期試験：60％
②受講態度：20％
③小テスト・課題：20％
2．課題・成績評価のフィードバック
①課題・小テストは返却する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅴ	（講義・演習・実習）	鄭　春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的・ねらい］
・介護従事者として必要な倫理観を養う
・リスクマネジメント等、利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う

［授業全体の内容の概要］
・介護従事者として必要な倫理観を学ぶ
・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する

［授業修了時の達成課題（到達目標）］
・介護従事者として必要な倫理観を身に付ける
・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
1．オリエンテーション
2．介護従事者の倫理①　職業倫理（介護従事者の倫理・介護実施の場で求められる倫理）
3．介護従事者の倫理②　利用者の人権と介護（児童虐待）
4．介護従事者の倫理③　利用者の人権と介護（障害者虐待）
5．介護従事者の倫理④　利用者の人権と介護（高齢者虐待）
6．介護従事者の倫理⑤　利用者の人権と介護（権利擁護）
7．介護従事者の倫理⑥　プライバシーの保護（個人情報保護、その他）
8．まとめ
9．介護における安全の確保とリスクマネジメント①介護における安全の確保（観察・技術）
10．介護における安全の確保とリスクマネジメント②介護における安全の確保（予測・分析）
11．介護における安全の確保とリスクマネジメント③事故防止、安全対策
（転倒・転落の防止・骨折予防等）
12．介護における安全の確保とリスクマネジメント④事故防止、安全対策
（セーフティマネジメント）
13．介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤事故防止、安全対策
（防火・防災対策、緊急連絡システム等）
14．介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥事故防止、安全対策（利用者の生活の安全）
15．まとめ
期末（後期）テスト

［準備学習］
授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておいて下さい。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会
介護の基本Ⅱ　第3版
中央法規（2015年2月）
参考文献：授業時に提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．成績評価の方法・基準
①定期試験：60%
②授業態度：20%
③小テスト・課題：20%
2．課題・成績評価のフィードバック
①課題・小テストは返却する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅵ	（講義・演習・実習）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］
・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う
・労働安全等、介護従事者の健康に配慮した介護を実践する能力を養う

［授業全体の内容の概要］
・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する
・自らの健康にも配慮した介護についても理解を深める

［授業終了時の到達目標］
・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる
・介護従事者が自らの健康を管理し、介護を実践することができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
1．介護における安全の確保とリスクマネジメント①　事故防止・安全対策（セーフティマネージメント）
2．介護における安全の確保とリスクマネジメント②　事故防止・安全対策（防火・防災対策・緊急連絡システム）
3．介護における安全の確保とリスクマネジメント③　事故防止・安全対策（利用者の生活の安全）
4．1～3のまとめ
5．介護における感染管理のための方策①（感染予防の意義と介護）
6．介護における感染管理のための方策②（感染予防の基礎知識）
7．介護における感染管理のための方策③（感染予防の技術）
8．介護における感染管理のための方策④（感染管理、衛生管理）
9．まとめ
10．介護従事者の安全　介護従事者の身体の健康管理（腰痛予防と対策）
11．介護従事者の安全　介護従事者の心の健康管理（ストレス）
12．介護従事者の安全　介護従事者の心の健康管理（燃え尽き症候群、その他）
13．介護従事者の安全　労働安全
14．労働環境の整備
15．まとめ
期末（後期）テスト

［準備学習］
授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：「介護の基本Ⅱ」（中央法規）
参考文献：授業時に提示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．期末試験：60%
2．ミニテスト：20%
3．受講態度：20%
※ミニテストは返却時に講評を行う。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅵ	（講義・演習・実習）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］
・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う
・労働安全等、介護従事者の健康に配慮した介護を実践する能力を養う

［授業全体の内容の概要］
・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する
・自らの健康にも配慮した介護についても理解を深める

［授業終了時の到達目標］
・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる
・介護従事者が自らの健康を管理し、介護を実践することができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
1．介護における感染管理のための方策①（感染予防の意義と介護）
2．介護における感染管理のための方策②（感染予防の基礎知識）
3．介護における感染管理のための方策③（感染予防の技術）
4．介護における感染管理のための方策④（感染管理、衛生管理）
5．まとめ
6．介護従事者の安全　介護従事者の身体の健康管理（腰痛予防と対策）
7．介護従事者の安全　介護従事者の心の健康管理（ストレス）
8．介護従事者の安全　介護従事者の心の健康管理（燃え尽き症候群、その他）
9．介護従事者の安全　労働安全
10．まとめ
11．利用者の権利擁護・プライバシーの保護に関する総合知識
12．介護における安全確保、安全対策
13．感染予防及び対策、衛生管理
14．介護従事者の安全：心身の健康管理及び介護従事者にかかわる諸制度
15．まとめ
期末（後期）テスト

［準備学習］
授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：「介護の基本Ⅱ」（中央法規）
参考文献：授業時に提示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．成績評価の方法・基準
①定期試験：60%
②受講態度：20%
③ミニテスト：20%
※ミニテストは返却時に講評を行う。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護特別講義	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］
・「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習とする
・介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする
・利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする
・「介護を必要とする人」の潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする

［授業全体の内容の概要］
・「介護を必要とする人」の「その人らしい生活」を支えるために必要な介護福祉士としての専門的技術・知識を理解し、実践できる能力を身につける

［授業終了時の到達目標］
・介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する
・「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解する
・今まで学習した介護知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．オリエンテーション
2．介護福祉を取り巻く状況及び介護福祉士の役割と機能を支える仕組み
3．「尊厳の保持」・「自立支援」に向けた介護
4．介護を必要とする人の理解
5．介護サービスの体系と課題
6．介護実践における連携
7．介護従事者の倫理
8．介護における安全の確保とリスクマネジメント
9．介護従事者の安全
10. 介護におけるコミュニケーションの基本
11. 介護場面における利用者・家族及びチームのコミュニケーション
12.「介護を必要とする人」の生活支援の基本的考え方
13.「介護を必要とする人」の状態に応じた生活支援技術
14. 介護過程の意義と展開
15. 介護過程の実践的展開とチームアプローチ
期末テスト

［準備学習］
①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
・介護福祉士養成講座編集委員会「介護の基本Ⅱ」第3版（中央法規）
・介護福祉士養成講座編集委員会「コミュニケーション技術」（中央法規）
・介護福祉士養成講座編集委員会　生活支援技術Ⅱ　第3版（中央法規）
・介護福祉士養成講座編集委員会　介護過程　第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
・定期試験：60％
・受講態度・課題提出状況：20％
・小テスト、中間テスト：20％
※期末テスト・小テストは返却時に講評する。
※提出物はコメントを記し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅰ	（ 講義・演習・実習 ）	鄭　春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護関係の形成のために介護におけるコミュニケーションの基礎からそれぞれの利用者の状況・状態に沿ったコミュニケーション技術を学び、チームでの支援のあり方を理解する力を養う。

［授業終了時の到達目標］

チーム内におけるコミュニケーションを円滑に行うために、記録、報告、会議などを情報共有の手段として活用できる能力を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

［Ⅰ］介護におけるコミュニケーションの基本
1．介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割
2．利用者・家族との関係づくり
［Ⅱ］介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際
3．話を聴く方法　利用者の感情表現を察する技法（気づき・洞察力など）
4．納得と同意を得る技法―相談・助言・指導―
5．意欲を引き出す技法
6．利用者本人と家族の意向を図る技法
7．介護におけるコミュニケーションの基本と実際（まとめ）
［Ⅲ］利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
8．視覚障害の人とのコミュニケーション①
9．視覚障害の人とのコミュニケーション②
10．聴覚障害の人とのコミュニケーション①
11．聴覚障害の人とのコミュニケーション②
12．運動機能障害のある人とのコミュニケーション①
13．運動機能障害のある人とのコミュニケーション②
14．認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション①
15．認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション②
期末テスト

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規
参考文献：「コミュニケーション技術」建帛社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：60％
2．小テスト：20％
3．提出物：10％
4．受講態度：10％
＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。
＊提出物はコメントを記し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅰ	（ 講義・演習・実習 ）	鄭　春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護関係の形成のために介護におけるコミュニケーションの基礎からそれぞれの利用者の状況・状態に沿ったコミュニケーション技術を学び、チームでの支援のあり方を理解する力を養う。

［授業終了時の到達目標］

チーム内におけるコミュニケーションを円滑に行うために、記録、報告、会議などを情報共有の手段として活用できる能力を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

［Ⅰ］介護におけるコミュニケーションの基本
1．介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割
2．利用者・家族との関係づくり
［Ⅱ］介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際
3．話を聴く方法　利用者の感情表現を察する技法（気づき・洞察力など）
4．納得と同意を得る技法―相談・助言・指導―
5．意欲を引き出す技法
6．利用者本人と家族の意向を図る技法
7．介護におけるコミュニケーションの基本と実際（まとめ）
［Ⅲ］利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
8．視覚障害の人とのコミュニケーション①
9．視覚障害の人とのコミュニケーション②
10．聴覚障害の人とのコミュニケーション①
11．聴覚障害の人とのコミュニケーション②
12．運動機能障害のある人とのコミュニケーション①
13．運動機能障害のある人とのコミュニケーション②
14．認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション①
15．認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション②
期末テスト

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規
参考文献：「コミュニケーション技術」建帛社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：60％
2．小テスト：20％
3．提出物：10％
4．受講態度：10％
＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。
＊提出物はコメントを記し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅱ	（ 講義・演習・実習 ）	青柳　佳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

人間としての尊厳を保持し、個々のコミュニケーション障害への対応方法を学ぶこと。また介護場面におけるチームケアの基礎となる能力を身につける。

［授業全体の内容の概要］

介護関係を構築するために介護におけるそれぞれの利用者の状況・状態に沿ったコミュニケーション技術を学び、チームでの支援のあり方を理解する力を養う。

［授業終了時の到達目標］

チーム内におけるコミュニケーションを円滑に行うために、記録、報告、会議などを情報共有の手段として活用できる能力を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕
1．知的障害のある人とのコミュニケーション①
2．知的障害のある人とのコミュニケーション②
3．精神障害のある人とのコミュニケーション①
4．精神障害のある人とのコミュニケーション②
5．まとめ
〔Ⅱ〕介護におけるチームのコミュニケーション
6．記録による情報の共有化①　介護における記録の意義と目的
7．記録による情報の共有化②　介護に関する記録の種類
8．記録による情報の共有化③　介護記録の方法と留意点・記録の管理
9．記録による情報の共有化④　介護記録の共有化
10．記録による情報の共有化⑤　情報通信技術（IT）を活用した介護記録の意義と活用の留意点・個人情報保護
11．記録による情報の共有化⑥　介護記録の活用
12．報告による情報の共有化　介護における報告の意義と目的（報告･連絡･相談の方法と留意点）
13．会議による情報の共有化①　介護における会議の意義と目的
14．会議による情報の共有化②　介護における会議の種類と方法・留意点
15．まとめ
総合評価　試験

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと　②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること　④授業終了後にテストを実施するので復習を欠かさないこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術　第3版（中央法規）
参考文献：都村尚子編集、福祉コミュニケーション論（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
1．期末テスト・小テスト：80%
2．提出物・受講態度：20%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。
＊提出物はコメントを記し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅰ	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、その人にとっての自立・自律につながる潜在能力を活かした移動の支援と身じたくの支援方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①人が生活を送るうえで基本となる「移動」について、その意義と目的を理解する。また、人の身体の自然な動きを理解し、それを支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。

②「身じたく」の意義・目的や効果について理解し、利用者の状態に応じた身じたくの支援方法を学ぶ。特に、アセスメントや介護技術、他の領域の知識と連動させ、適切に提供できるよう、グループワークを中心に学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①利用者の状態に応じた移動の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

②利用者の状態に応じた身じたくの介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた移動の介護
1．生活の理解と生活支援：生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営についての学習
2．高齢者の心身の特徴：高齢者の心身の特徴についての学習と高齢者疑似体験の演習
3．生活支援と環境整備①：寝室の環境整備とベッドメイキングの演習
4．生活支援と環境整備②：感染症予防の学習と手洗いについての演習
5．移動の域と目的：移動と廃用症候群、ICF の視点に基づく移動のアセスメントについての学習
6．移動の介護とボディメカニクス：移動の介護方法とボディメカニクスについての学習
7．自立に向けた移動の介護①：座位と立位の重要性についての学習
8．自立に向けた移動の介護②：端座位から立位への介護方法の演習
9．自立に向けた移動の介護③：歩行の介助方法、杖歩行の演習
10．自立に向けた移動の介護④：車いすの種類と選び方の学習、車いすへの移乗方法の演習
11．自立に向けた移動の介護⑤：車いすへの移乗方法の復習
12．自立に向けた移動の介護⑥：車いすの操作方法の演習
13．ベッド上での移動の介護：水平移動、体位変換、上方移動、ストレッチャーの使用方法の演習
14．感覚機能が低下している人の移動の介護：視覚障害者の歩行介助の演習
15．移動の介護における多職種との連携：移動の介護における他職種の役割と協働についての学習
16．移動の介護まとめ：第1回授業から第15回授業の復習とまとめ
〔Ⅱ〕自立に向けた身じたくの介護
17．身じたくの意義と目的：生活習慣と装いの楽しみを支える介護方法、ICF の視点に基づくアセスメントについての学習
18．運動機能が低下している人への介護方法①：座位での着替えの介助の演習
19．運動機能が低下している人への介護方法②：臥床している人への着替えの介助の演習（洋服）
20．運動機能が低下している人への介護方法③：臥床している人への着替えの介助の演習（寝衣）
21．整容の介護：洗面、整髪、ひげ剃り、爪切り、化粧などの介護についての学習
22．口腔ケアの意義と目的：口腔ケアの意義と目的についての学習
23．口腔ケアの方法①：歯みがきの介助についての演習
24．口腔ケアの方法②：義歯の洗浄についての演習
25．事例を用いた生活支援技術の実際①：着替えと車いすへの移乗、移動の介護方法の演習
26．事例を用いた生活支援技術の実際②：第25回授業の続き
27．実技試験①
28．実技試験②
29．実技試験の振り返り
30．生活支援技術Ⅰのまとめ：第1回授業から第29回授業の復習とまとめ
定期試験
＊各授業中にワークシートの記入やレポート課題などを課すことがあります。

［準備学習］

①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること。

②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。

③授業中に実施した内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ第3版（中央法規）

参考文献：

①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディカ）

②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％

2．提出物（ワークシート、レポート等）：20％

3．受講態度（演習への積極的な参加やグループワークの発表状況など）：20％

＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。

＊提出課題は、評価後に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅰ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、その人にとっての自立・自律につながる潜在能力を生かした移動の支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。また、健康を維持し、快適な生活につながる食事支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①人が生活を送るうえで基本となる「移動」について、その意義と目的を理解する。また、人の身体の自然な動きを理解し、それを支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。

②生命を維持するために必要な「食事」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、生活に楽しみや潤いを与える食事について理解し、それを支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。

［授業終了時の到達目標］

①利用者の状態に応じた移動の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

②利用者の状態に応じた食事の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた移動の介護
1．生活の理解と生活支援：生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営について説明
2．高齢者の心身の特徴：高齢者の心身の特徴について説明と高齢者疑似体験
3．生活支援と環境整備①：寝室の環境整備とベッドメイキングについての説明と演習
4．生活支援と環境整備②：感染症予防と手洗いについての説明と演習
5．移動の意義と目的：移動と廃用症候群について説明
6．ICF の視点に基づく移動のアセスメント：移動を支援するためのアセスメントの視点の説明
7．移動の介護とボディメカニクス：ボディメカニクスの説明と演習
8．自立に向けた移動の介護①：座位と立位の重要性についての説明
9．自立に向けた移動の介護②：端座位から立位への介助方法の説明と演習
10．自立に向けた移動の介護③：歩行の介助（杖歩行）方法の説明と演習
11．自立に向けた移動の介護④：車いすの種類と選び方の説明
12．自立に向けた移動の介護⑤：車いすへの移乗方法についての説明と演習
13．自立に向けた移動の介護⑥：車いすの操作方法についての説明と演習
14．自立に向けた移動の介護⑦：第７回～13回授業のまとめ
15．ベッド上での移動の介護：体位変換、水平移動、上方移動、ストレッチャーの使用方法の説明と演習
16．運動機能が低下している人への移動の介護：対麻痺、四肢麻痺がある場合の移動の方法の説明と演習
17．感覚機能が低下している人への移動の介護：視覚障害者への歩行介助の説明と演習
18．認知・知覚機能が低下している人への移動の介護：認知症等がある人への移動介護の留意点の説明
19．移動の介護における多職種との連携：他職種の役割と協働について説明
20．移動の介護まとめ：第５回～第19回授業のまとめ
〔Ⅱ〕自立に向けた食事の介護
21．食事の意義と目的：食事の意義と目的について説明
22．食事に関連したからだのしくみと食事に影響を及ぼす要因：食のメカニズムについての説明
23．ICF の視点に基づく食事のアセスメント：食事を支援するためのアセスメントの視点の説明
24．美味しく食べることを支える介護方法：食事の環境整備と献立、自助具、介助方法の説明と演習
25．自立に向けた食事の介護①：運動機能が低下している人への介護方法の説明と演習
26．自立に向けた食事の介護②：感覚機能が低下している人への介護方法の説明と演習
27．自立に向けた食事の介護③：認知・知覚機能が低下している人への介護方法の説明と演習
28．誤嚥・窒息・脱水を予防するための介護方法：誤嚥・窒息・脱水についての説明と予防方法の説明
29．食事の介護における多職種との連携：他職種の役割と協働について説明
30．食事の介護まとめ
定期試験、提出課題（ワークシート、レポート等）

［準備学習］

①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること
②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること
③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座７生活支援技術Ⅱ第３版（中央法規）
参考文献：
①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディカ）
②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ第３版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60%
2．提出物（ワークシート、レポート等）：20%
3．受講態度：20%
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、授業中に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・林雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

介護を必要としている利用者の尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律につながる潜在能力を活かすとともに、健康を維持し、快適な生活を送るための食事の支援、排泄の支援方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①生命を維持するために必要な「食事」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、生活に楽しみや潤いを与える食事について理解し、それを支援するためのアセスメントや基本的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。

②生命を維持するために必要な「排泄」について、その意義と目的を理解する。また、健康の維持、安心・安全・安楽の保持、プライバシーの保護に配慮した快適な排泄介護の工夫や支援のあり方について、グループワークを中心に学習する。

［授業終了時の到達目標］

①利用者の状態に応じた食事の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

②利用者の状態に応じた排泄の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた食事の介護
1．食事の意義と目的、食事のしくみ：食事の意義と目的、食事に関連したからだのしくみと食事に影響を及ぼす要因についての学習
2．ICF の視点に基づく食事のアセスメント：おいしく食べることを支えるためのアセスメントと介護方法についての学習
3．自立に向けた食事の介護①：運動機能が低下している人への食事の介護方法の演習
4．自立に向けた食事の介護②：感覚機能が低下している人への食事の介護方法の演習
5．自立に向けた食事の介護③：臥床状態での食事の介護方法の演習
6．誤嚥・窒息・脱水の予防：誤嚥・窒息・脱水を予防するための介護方法の学習
7．口腔機能に合わせた食事：状態に合わせた食事形態と、美味しく食べるための工夫についての学習
8．食事の介護における他職種との連携：食事の介護における他職種の役割と協働についての学習
〔Ⅱ〕自立に向けた排泄の介護
9．排泄の意義と目的、ICF の視点に基づくアセスメント：排泄の意義と目的、ICF の視点にもとづくアセスメント、排泄の場の環境づくり、身体状況に応じた排泄用具についての学習
10. トイレでの排泄介護の方法①：事例を用いたトイレでの排泄介護の方法の検討
11. トイレでの排泄介護の方法②：第10回授業の続き
12. トイレでの排泄介護の方法③：トイレでの排泄介護の方法の発表と講評
13. ポータブルトイレでの排泄介護の方法①：事例を用いたポータブルトイレでの排泄介護方法の演習
14. ポータブルトイレでの排泄介護の方法②：第13回授業の続き
15. 床上での排泄介護の方法①：尿器を使用した排泄介護方法の演習
16. 床上での排泄介護の方法②：差込み便器を使用した排泄介護方法の演習
17. 床上での排泄介護の方法③：紙おむつを使用した排泄介護方法の演習
18. 床上での排泄介護の方法④：第17回授業の続き
20. 便秘、下痢の予防：便秘、下痢の予防のための日常生活の留意点、排泄回数が多い人、失禁時の介護の留意点の学習
21. 事例を用いた生活支援技術の実際①：食事前のトイレでの排泄介助（生活支援技術Ⅰ・Ⅱまとめ）
22. 事例を用いた生活支援技術の実際②：第21回授業の続き
23. 事例を用いた生活支援技術の実際③：食事前のおむつ交換と臥床での食事の準備（生活支援技術Ⅰ・Ⅱのまとめ）
24. 事例を用いた生活支援技術の実際④：第23回授業の続き
25. 事例を用いた生活支援技術の実際⑤：仰臥位から端座位、端座位からポータブルトイレへの移乗（生活支援技術Ⅰ・Ⅱまとめ）
26. 事例を用いた生活支援技術の実際⑥：第25回授業の続き
27. 実技試験①
28. 実技試験②
29. 実技試験の振り返り
30. 生活支援技術Ⅱのまとめ：第1回授業から第29回授業の復習とまとめ
定期試験
＊各授業中にワークシートの記入やレポート課題などを課すことがあります。

［準備学習］

①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること。

②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。

③授業中に実施した内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ第3版（中央法規）

参考文献：

①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディカ）

②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％
2．提出物（ワークシート、レポート等）：20％
3．受講態度（演習への積極的な参加やグループワークの発表状況など）：20％
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、評価後に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・林雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

介護を必要としている利用者の尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律につながる潜在能力を活かし、身じたくへの支援や、プライバシーの保護に基づく状況に応じた排泄への適切な介護によって、健康を維持し、快適な生活が出来るための技術を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①身じたくの意義・目的や効果について理解し、利用者の状態に応じた身じたくの技術を演習のなかで理解し、アセスメントや介護技術、他の領域の知識と連動させ、適切に提供できるよう、グループワークを中心に学ぶ。

②利用者の心身状態へのアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような快適な排泄介護の工夫や支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①基本となる技術・知識を活用し、利用者の状態に応じた身じたくの介護についてアセスメントし、必要な介護内容を組み立て、実施できる。

②基本となる技術・知識を活用し、利用者の状態に応じた排泄の介護についてアセスメントし、必要な介護内容を組み立て、実施できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．身じたくの意義と目的
2．ICF の視点に基づく身じたくのアセスメント
3．生活習慣と装いの楽しみを支える介護の方法
4．運動機能が低下している人への介護方法①（座位での着替えの介助）
5．運動機能が低下している人への介護方法②（臥位での着替えの介助：洋服）
6．運動機能が低下している人への介護方法③（臥位での着替えの介助：寝衣）
7．整容の介護①（洗面、整髪、髭、爪、化粧など）
8．整容の介護②（軟膏の塗布、点眼など）
9．口腔ケアの意義と目的
10．口腔ケアの方法（歯みがき、義歯洗浄など）
11．感覚機能が低下している人への身じたくの介護
12．認知・知覚機能が低下している人への身じたくの介護
13．排泄の意義と目的
14．排泄のメカニズムと ICF の視点に基づく排泄のアセスメント
15．排泄の場の環境づくり
16．身体状況に応じた排泄用具
17．トイレでの排泄介護の方法
18．ポータブルトイレでの排泄介護の方法
19．床上での排泄介護の方法①（尿器・差し込み便器①）
20．床上での排泄介護の方法②（尿器・差し込み便器②）
21．床上での排泄介護の方法③（紙おむつ）
22．床上での排泄介護の方法④（布おむつ）
23．感覚機能・運動機能・認知・知覚機能が低下している人への介助の留意点
24．便秘、下痢の予防のための日常生活の留意点
25．排泄回数が多い人、失禁時の介護の留意点
26．まとめ（身じたくの介護・排せつの介護）
27．実技試験
28．実技試験
29．前期授業内容の振返り①
30．前期授業内容の振返り②

評価・試験・レポート等

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでくること　②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること　③授業の後に課題に沿ったワークシートの提出をすること　④授業の後に実施した演習内容について振り返りの演習を行うこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成講座　7
生活支援技術Ⅱ　第3版　中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①試験　60%
②提出物（ワークシート・レポート等）　20%
③受講態度　20%
＊試験終了後に講評・解説をする。
＊ワークシート・レポート等は評価し返却する。
＊演習への積極的な参加や発表状況を評価する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	正宗　三枝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

介護を必要とする利用者がその人らしく生活を継続するためには、家事に関する支援が不可欠である。本演習では、生活を支援する基本的な概念を捉え、家事の支援の基礎的な知識と技法を学び、利用者に応じた適切で安全な支援ができる能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営などを取り上げ、生活支援の考え方や国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントの方法を学ぶ。また、家事や家事の支援の意義と目的、ICF の視点を重視した家事の支援のあり方を理解する。さらに、家事の支援の基礎的な知識と技法を学び、利用者の心身の状態や状況に応じ、自立に向けた家事の支援の留意点を考える。

［授業終了時の到達目標］

・生活、生活支援の考え方について理解できる。
・家事の意義と目的を理解し、ICF の視点で家事に関するアセスメントができる。
・家事の支援の基礎的な技法を理解する。
・利用者の状態や状況に応じ、自立に向けた家事の支援を考えることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

［Ⅰ］生活の理解と生活支援
1．生活の理解と生活支援　―生活の定義・生活形成のプロセス・生活経営について―
2．生活支援の考え方　―ICF の視点に基づくアセスメント他―
［Ⅱ］自立に向けた家事の介護
3．家事の意義と目的
4．家事に関する利用者のアセスメント　―家事への意欲を引き出す家事の工夫―
5．洗濯／衣類・寝具の衛生管理
6．掃除／ごみ捨て
7．家計の管理／買い物
8．調理の基本1
9．調理の基本2
10. 加工食品の活用と保存
11. 配食サービスの利用について
12. 感覚機能が低下している人への調理の支援
13. 運動機能が低下している人への調理の支援
14. 認知・知覚機能が低下している人への調理の支援
15. まとめ
定期試験

［準備学習］

・授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
・授業の後に配布資料を整理し、読み返しておくこと。
・日常生活においても、積極的に家事を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「生活支援技術Ⅰ」中央法規
参考文献：「お料理一年生」ベターホーム出版局

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末試験：60%
2．課題：30%（提出物は評価して返却する）
3．受講態度：10%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅳ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］
介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、その人にとっての入浴の楽しみや、快適な生活を送るための入浴・清潔の支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。また、健康を維持し、生活の質を高める睡眠支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。さらに、利用者の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と、その支援方法について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］
①「入浴」の意義や目的について理解するとともに、入浴が心身に与える影響を踏まえたうえで、入浴・清潔を支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。
②生命を維持するために必要な「睡眠」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、質の高い睡眠をとるためのアセスメントや必要な介護技術を、グループワークを中心に学習する。
③終末期における心身状況を理解し、利用者や家族の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と介護福祉士の役割について、グループワークを中心に学習する。

［授業終了時の到達目標］
①利用者の状態に応じた入浴・保清の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。
②利用者の状態に応じた睡眠の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。
③利用者の状態に応じた終末期の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた入浴・清潔の介護
1．生活支援技術の復習：生活支援技術Ⅰ・Ⅱの振り返りの学習
2．入浴の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント：入浴の意義と目的、ICFの視点に基づく入浴・清潔のアセスメントについての学習
3．爽快感・安楽を支える入浴介護の工夫：バイタルサインの測定方法、浴室の環境整備、入浴に関する福祉用具、入浴の介護方法の学習
4．湯温や室温の管理：ヒートショックについての学習と、湯温の変化と管理の演習
5．自立に向けた入浴・清潔保持の介護①：一般浴での入浴の介護方法の演習
6．自立に向けた入浴・清潔保持の介護②：第5回授業の続き
7．自立に向けた入浴・清潔保持の介護③：機械浴での入浴の介護方法の演習
8．自立に向けた入浴・清潔保持の介護④：第7回授業の続き
9．入浴ができない場合の清潔保持の介護①：全身清拭、部分清拭の演習
10．入浴ができない場合の清潔保持の介護②：ベッド上での手浴の演習
11．入浴ができない場合の清潔保持の介護③：ベッド上での足浴の演習
12．入浴ができない場合の清潔保持の介護④：シャボンラッピングの演習
13．入浴ができない場合の清潔保持の介護⑤：ドライシャンプー、ベッド上での洗髪の演習
14．入浴ができない場合の清潔保持の介護④：第13回授業の続き
15．入浴・清潔介護のまとめ：第1回授業から第14回授業のまとめ
〔Ⅱ〕自立に向けた睡眠の介護
16．睡眠の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント：入浴の目的、ICFの視点に基づく睡眠のアセスメントについての学習
17．安眠のための介護の工夫①：寝室の環境整備と寝具の種類と特徴についての学習
18．利用者が臥床した状態でのベッドメイキング：利用者が臥床した状態でのベッドメイキングの演習
19．体位変換と安楽な体位の保持①：褥瘡とその予防についての学習
20．体位変換と安楽な体位の保持②：安楽な体位とポジショニングについての演習
21．安眠のための介護の工夫②：冷罨法の演習
22．安眠のための介護の工夫③：温罨法の演習
23．不眠時の対応とまとめ：不眠の種類と対応についての学習と、第16回から第22回授業のまとめ
〔Ⅲ〕終末期の介護
24．終末期介護の意義と目的、終末期における尊厳の保持と事前意思確認：終末期介護の意義と介護食の役割について、本人の意思を尊重した終末期介護のあり方についての学習
25．終末期における心身の変化、ICFの視点に基づく終末期のアセスメント：終末期における心身の変化についての学習と、ICFの視点に基づく終末期のアセスメントについての学習
26．薬の働きと服薬の介助：薬の種類とその働きについての学習と服薬介助の演習
27．臨終時の介護とグリーフケア：臨終時の介護（エンゼルケア）と家族ケア（グリーフケア）についての学習
28．看取りのための制度と医療との連携：看取りのための制度と、終末期ケアにおける多職種連携、介護福祉士の役割についての学習
29．生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅳの振り返り
30．生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅳのまとめ

［準備学習］
①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること。
②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。
③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術第3版（中央法規）
参考文献：
①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディカ）
②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．試験等：60％
2．提出物（ワークシート、レポート等）：20％
3．受講態度（演習への積極的な参加やグループワークの発表状況など）：20％
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、評価後に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅳ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	福島　猛行

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

「尊厳の保持」「自立・自律支援」の視点から、介護を必要としている人に適切な介護技術を用いて、安全かつ潜在的な力を引き出す支援技術や知識について修得することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者の生活史・文化史を通じて、利用者の生きてきた生活環境、社会参加、余暇活動などの支援の論理と技術を理解する。

［授業終了時の到達目標］

利用者の心身と生活の活性化となるアクティビティの意義と目的を理解したうえで、利用者の尊厳を保持し、利用者と同じステージに立てる支援技術（利用者理解・コミュニケーション能力・身体介護技術）を身に着け、利用者を理解した生活支援ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．アクティビティの意義と目的
2．生活支援としてのアクティビティ
3．生活史、文化史の背景Ⅰ（利用者の生活文化：戦時中の生活文化）
4．生活史、文化史の背景Ⅱ（利用者の生活文化：戦後復興期の生活文化）
5．生活史、文化史の背景Ⅲ（利用者の生活文化：高度経済成長期の生活文化）
6．アクティビティ・サービス計画の基本的考え方
7．アクティビティ・プログラム計画上の留意点
8．アクティビティ・プログラムの実践Ⅰ（前期高齢者のアクティビティ）
9．アクティビティ・プログラムの実践Ⅱ（後期高齢者のアクティビティ）
10．アクティビティ・プログラムの実践Ⅲ（身体障害者のアクティビティ）
11．アクティビティ・プログラムの実践Ⅳ（QOL の低下した利用者のアクティビティ）
12．アクティビティ・プログラムの実践Ⅴ（終末期の利用者とアクティビティ）
13．アクティビティ・プログラムの演習
14．アクティビティ・プログラムの講評
15．アクティビティ・ワークの目指すもの
〈試験〉

［準備学習］

・演習では、各グループごとに話し合い、事前準備を行うこと。
・高齢者や障がい者の生活について、新聞や TV などのメディアで取り上げられる内容について、常に興味を持って生活すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『アクティビティ・サービス』中央法規
参考文献：
授業時間内に参考文献を紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末試験：60%
2．受講態度：20%
3．課題提出：20%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅴ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	青柳　佳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

介護を必要とする利用者の自立・自律を支える福祉機器活用の意義・目的を理解する。また、介護福祉士に必要な福祉機器に関する知識と技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］

①利用者の自立・自律した生活を支え、介護負担を軽減するために開発された福祉機器の特徴と使用方法について、本学にある福祉機器を実際に使用しながら学習する。

②福祉機器を活用するうえでの課題や可能性について、グループワークを中心に学習する。

［授業終了時の到達目標］

①福祉機器活用の意義と目的について理解できる。

②さまざまな福祉機器の特徴と使用方法を理解できる。

③利用者の尊厳を保持し、自立・自律した生活を支えるために、利用者の状態に応じた適切な福祉機器を選択・活用していくことの重要性を理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．福祉機器活用の意義と目的
2．福祉機器の種類①：さまざまな福祉機器について、その機能と特徴を調べる
3．福祉機器の種類②：さまざまな福祉機器の機能と特徴を発表する
4．移動に関する福祉機器①：杖、歩行器、車いす、スライディングシート・ボードの種類と使用方法の学習
5．移動に関する福祉機器②：電動アシストウォーカー、足こぎ車いす（COGY）の使用方法学習
6．移動に関する福祉機器③：マッスルスーツ、リフトの使用方法の学習
7．移動に関する福祉機器④：階段昇降機、電動アシスト車椅子の使用方法の学習
8．食事に関する福祉機器①：調理機器、食器・食具（箸やスプーン）等の使用方法の学習
9．食事に関する福祉機器②：マイスプーン、その他の機器の使用方法の学習
10．排泄、睡眠に関する福祉機器：自動排泄処理機、睡眠状態を把握する福祉機器の学習
11．コミュニケーションに関する福祉機器：パロ、パルロ、その他の福祉機器の使用方法の学習
12．見守りに関する福祉機器：利用者の安全を見守る福祉機器の学習
13．福祉機器の活用と課題①：福祉機器の課題や、福祉機器を活用した介護の可能性について検討する
14．福祉機器の活用と課題②：第13回授業の続き
15．福祉機器の活用と課題③：第13回、14回授業の発表と講評

課題レポート

［準備学習］

①授業の前に、各福祉機器の機能や特徴などを調べておくこと

②配布した資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業中に資料を配布

参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会、新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．課題レポート：60％
2．提出物（ワークシート等）：20％
3．受講態度（演習やグループワークへの積極的な参加等）：20％

＊課題レポートやワークシートは、評価後に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅴ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、その人にとっての入浴の楽しみや、快適な生活を送るための入浴・保清の支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。また、健康を維持し、生活の質を高める睡眠支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①「入浴」の意義や目的について理解するとともに、入浴が心身に与える影響を踏まえた上で、入浴・保清を支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。

②生命を維持するために必要な「睡眠」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、質の高い睡眠をとるために必要な支援方法を、グループワークを中心に学習する。

［授業終了時の到達目標］

①利用者の状態に応じた入浴・保清の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

②利用者の状態に応じた睡眠の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた入浴の介護
1．生活支援技術Ⅰ・Ⅱの振り返り①：移動の介護、食事の介護の復習
2．生活支援技術Ⅰ・Ⅱの振り返り②：身じたくの介護、排泄の介護の復習
3．入浴の意義と目的、ICFの視点に基づく入浴・清潔のアセスメント：入浴の意義と目的、アセスメントの説明
4．バイタルサインと測定方法：バイタルサインについての説明と、測定方法の説明と演習
5．爽快感・安楽を支える入浴介護の工夫：浴室の環境整備、入浴用具、介護方法についての説明
6．温度や室温の管理：ヒートショックについての説明、湯の温度の変化についての説明と演習
7．自立に向けた入浴・清潔保持の介護①：片麻痺がある場合の一般浴での介護方法の説明と演習
8．自立に向けた入浴・清潔保持の介護②：シャワー浴での介護方法の説明と演習
9．自立に向けた入浴・清潔保持の介護③：機械浴での介護方法の説明と演習
10．自立に向けた入浴・清潔保持の介護④：身体の洗い方、洗髪の方法についての説明と演習
11．入浴ができない場合の介護①：全身清拭、部分清拭の説明と演習
12．入浴ができない場合の介護②：陰部洗浄の説明と演習
13．入浴ができない場合の介護③：手浴の説明と演習
14．入浴ができない場合の介護④：足浴の説明と演習
15．入浴ができない場合の介護⑤：ドライシャンプーの説明と演習
16．入浴ができない場合の介護⑥：ベッド上での洗髪の説明と演習
17．感覚機能・運動機能・認知・知覚機能が低下している人の介護の留意点：介護の際の留意点について説明
18．入浴・清潔介護のまとめ：第1回～第17回授業のまとめ
〔Ⅱ〕自立に向けた睡眠の介護
19．睡眠の意義と目的・ICFの視点に基づく睡眠のアセスメント：睡眠の意義と目的、アセスメントの説明
20．安眠のための介護の工夫①：寝室の環境整備について説明
21．寝具の種類と特徴：寝具の種類と特徴について説明
22．利用者が臥床している状態でのベッドメイキング：臥床している状態でのベッドメイキングの方法の説明と演習
23．体位変換と安楽な体位の保持①：褥瘡の説明とその予防についての説明
24．体位変換と安楽な体位の保持②：ポジショニングについての説明と演習
25．安眠のための介護の工夫②：冷罨法の説明と演習
26．安眠のための介護の工夫③：温罨法の説明と演習
27．感覚機能・運動機能が低下している人への睡眠の介護：感覚機能・運動機能が低下している人への介護の留意点
28．認知・知覚機能が低下している人への睡眠の介護：認知・知覚機能が低下している人への介護の留意点
29．不眠時の対応：不眠の種類と特徴、対応方法の説明
30．睡眠の介護のまとめ：第19回～第29回授業のまとめ
定期試験、提出課題（ワークシート、レポート等）

［準備学習］

①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること
②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること
③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ第3版（中央法規）
参考文献：
①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディカ）
②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％
2．提出物（ワークシート、レポート等）：20％
3．受講態度：20％
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、授業中に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅵ	（ 講義・演習・(実習)）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、居住環境の工夫や整備により、自立・自律を目指した介護のあり方や技法を学ぶとともに、障害の形態に応じた支援方法を学ぶ。また、すでに学習した知識・技術を統合し、利用者の状態に応じた生活支援技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］

①利用者の生活史や価値観、現状のアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような、快適な生活環境整備の工夫と支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。

②障害の形態に応じた各日常生活場面の支援方法について、グループワークを中心に学ぶ。

③利用者の状態に応じた日常生活の支援方法について、グループワークを中心に学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①利用者の自立支援のための住環境整備について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

②障害の形態に応じた介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を用いて支援することができる。

③利用者の状態に応じた日常生活の支援方法について、すでに学習した知識・技術を統合し、根拠を明確にしながら適切な技法を用いて支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた居住環境整備
1．生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅳの振り返り
2．居住環境整備の意義と目的､生活空間と介護：居住環境整備の意義と目的､住まいと生活の場の理解と介護福祉士の役割について学習
3．ICF の視点に基づく居住環境のアセスメント、安全で心地よい生活の場づくりの工夫：居住環境整備のアセスメントと、安全で心地よい生活の場づくりについての学習と演習
4．住宅改修、施設で暮らす場合の居住環境への理解と工夫：在宅での住環境整備、施設での住環境整備についての学習
5．バリアフリーとユニバーサルデザイン：バリアフリーとユニバーサルデザインについての学習
6．居住環境整備のまとめ：第１回から第５回授業のまとめ
〔Ⅱ〕障害の形態に応じた介護
7．障害形態別の移動の介護①：四肢麻痺、対麻痺等がある人への移動の介護方法の学習
8．障害形態別の移動の介護②：認知・知覚機能が低下している人への移動の介護方法の学習
9．障害形態別の身じたくの介護：感覚機能、認知・知覚機能が低下している人への身じたくの介護方法の学習
10. 障害形態別の食事の介護：感覚機能、運動機能、認知・知覚機能の低下、内部障害がある人への食事の介護方法の学習
11. 障害形態別の排泄の介護①：感覚機能、運動機能、認知・知覚機能の低下、内部障害がある人への排泄の介護方法の学習
12. 障害形態別の排泄の介護②：第11回授業の続き
13. 障害形態別の入浴の介護：感覚機能、運動機能、認知・知覚機能の低下、内部障害がある人への入浴の介護方法の学習
14. 障害形態別の睡眠の介護：感覚機能、運動機能、認知・知覚機能の低下、内部障害がある人への睡眠の介護方法の学習
15. 事例を用いた生活支援技術の統合①：起床から身じたくを整えるまでの一連の介護方法の検討
16. 事例を用いた生活支援技術の統合②：起床から身じたくを整えるまでの一連の介護方法の演習
17. 事例を用いた生活支援技術の統合③：食事から口腔ケア、排泄までの一連の介護方法の検討
18. 事例を用いた生活支援技術の統合④：食事から口腔ケア、排泄までの一連の介護方法の演習
19. 事例を用いた生活支援技術の統合⑤：入浴から入浴後の水分補給までの一連の介護方法の検討
20. 事例を用いた生活支援技術の統合⑥：入浴から入浴後の水分補給までの一連の介護方法の演習
21. 事例を用いた生活支援技術の統合⑦：足浴から睡眠、睡眠中の体位変換といった一連の介護方法の検討
22. 事例を用いた生活支援技術の統合⑧：足浴から睡眠、睡眠中の体位変換といった一連の介護方法の演習
23. 移動の介護、身じたくの介護、食事の介護の総括①
24. 移動の介護、身じたくの介護、食事の介護の総括②
25. 排泄の介護、入浴の介護、睡眠の介護、終末期の介護の総括③
26. 排泄の介護、入浴の介護、睡眠の介護、終末期の介護の総括④
27. 実技試験①
28. 実技試験②
29. 実技試験の振り返り
30. 生活支援技術のまとめ
定期試験

［準備学習］

①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること。

②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。

③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：①介護福祉士養成講座編集員会、新介護福祉士養成講座６生活支援技術Ⅰ第３版（中央法規）
②介護福祉士養成講座編集員会、新介護福祉士養成講座７生活支援技術Ⅱ第３版（中央法規）

参考文献：①介護福祉士養成講座編集員会、新介護福祉士養成講座８生活支援技術Ⅲ第３版（中央法規）
②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころとからだのしくみ第３版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％
2．提出物（ワークシート、レポート等）：20％
3．受講態度（演習への積極的な参加やグループワークの発表状況など）：20％

＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、評価後に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅵ	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	平澤　泰子・林　雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、居住環境の工夫や整備により、自立・自律を目指した介護のあり方や技法を学ぶ。また、利用者の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と、その支援方法について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①利用者の生活史や価値観、現状のアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような、快適な生活環境整備の工夫と支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。

②終末期における心身状況を理解し、利用者や家族の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と介護福祉士の役割について、グループワークを中心に学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①利用者の自立支援のための住環境整備について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

②利用者の状態に応じた終末期の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

〔Ⅰ〕自立に向けた居住環境の整備
1．居住環境整備の意義と目的：居住環境整備の意義と目的について説明
2．生活空間と介護：住まいと生活の場への理解について説明
3．ICF の視点に基づく居住環境整備のアセスメント：居住環境整備のアセスメントについて説明
4．安全で心地よい生活の場づくりの工夫：安全で心地よい生活の場づくりについての説明と演習
5．住宅改修：住宅改修について説明
6．施設で暮らす場合の居住環境への理解と工夫：施設で生活する利用者の居住環境整備について説明
7．バリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの活用①
8．バリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの活用②
9．生活支援と福祉用具の活用：スライディングシートやボード、リフトなどの説明と演習
10．居住環境整備のまとめ：第１回～第９回授業のまとめ
〔Ⅱ〕終末期の介護
11．終末期介護の意義と目的：終末期介護の意義と介護職の役割について説明
12．終末期における尊厳の保持と事前意思確認：本人の意思を尊重した終末期介護のあり方について説明
13．終末期における心身の変化：終末期における心身の変化について説明
14．ICF の視点に基づく終末期のアセスメント①：終末期のアセスメントについて説明
15．ICF の視点に基づく終末期のアセスメント②：事例に基づいたアセスメントの演習
16．薬の働きと服薬の介助：薬の種類とその働きについて説明、服薬介助の演習
17．緊急時の対応①：骨折、熱傷などを起こしたときの応急手当てについての説明と演習
18．緊急時の対応②：心肺蘇生法と AED 操作法について説明と演習
19．臨終時の介護①：エンゼルケアについて説明
20．臨終時の介護②：エンゼルケアについて演習
21．看取りのための制度：看取りのための制度について説明
22．医療との連携：終末期ケアにおける多職種連携について説明
23．家族ケア：グリーフケアについて説明
24．施設における終末期介護の実際：施設利用者の事例に基づいて、終末期介護の実際を説明
25．在宅における終末期介護の実際：在宅利用者の事例に基づいて、終末期介護の実際を説明
26．終末期介護のまとめ：第11回～第24回授業のまとめ
27．生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ①：国試対策模擬試験の実施
28．生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ②：実技試験の実施
29．生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ③：国試対策模擬試験の解答と解説
30．生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ④：実技試験の解答と解説
定期試験、実技試験、課題提出（ワークシート、レポート等）

［準備学習］

①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること

②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること

③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座７生活支援技術Ⅱ（中央法規）

参考文献：

①介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座６生活支援技術Ⅰ（中央法規）

②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころとからだのしくみ（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％

2．提出物（ワークシート、レポート等）：20％

3．受講態度：20％

試験等は返却時に講評を行う。提出物はコメントを記して戻す。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅰ（意義と展開）	（講義・演習・実習）	平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

介護福祉士は、介護を必要としている人の人生や日常生活に関わるが、育った環境や生活習慣は人それぞれ異なる。つまり介護福祉士は、単に利用者の日常生活を支援するのみでなく、個別性のある「その人らしい」「より良い生活」「より良い人生」を支援していく必要がある。介護過程とは、この個別性のある介護を提供するために必要な思考過程のことを指す。

介護過程Ⅰでは、介護過程を構成する「アセスメント」、「計画の立案」、「実施」、「評価」について学習し、介護を提供するうえで、なぜ介護過程を展開する必要があるのか、その意義と目的を理解する。

［授業全体の内容の概要］

講義を中心に、介護過程の意義や目的、構成要素について説明していく。また、事例をもとに実際に介護過程を展開しながら、介護過程の構成要素の具体的内容について学習する。

［授業終了時の到達目標］

①介護過程とは何かを説明することができる。
②介護過程の構成要素とその具体的内容について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護過程とは何か・介護過程の意義と目的：介護過程とは何か、その意義と目的について説明
2．介護サービス計画と介護過程：介護サービス計画とは何か、介護過程との関連について説明
3．介護過程の構成要素：介護過程の構成要素について、その概要を説明
4．アセスメントとは何か：アセスメントの要素（情報収集、課題分析、生活課題の明確化）について説明
5．情報収集の目的と方法：情報収集の目的と方法について説明
6．ICF の構成要素と情報収集：ICF の構成要素と、ICF に基づいた情報収集の方法について説明
7．課題分析とは何か①：情報の解釈、関連づけ、統合化について説明
8．課題分析とは何か②：情報の解釈、関連づけ、統合化について説明
9．課題とは何か①：生活課題の明確化について説明
10．課題とは何か②：生活課題の明確化について説明
11．介護計画とは何か①：目標の設定について説明
12．介護計画とは何か②：計画の立案について説明
13．実施の意義と実施時の留意点：計画を実施する意味と、実施時の留意点について説明
14．評価とは何か：評価の意義と手順について説明
15．まとめ：第1回～14回授業のまとめ
定期試験・課題提出

［準備学習］

①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座9 介護過程第3版（中央法規）

参考文献：介護福祉教育研究会、改訂第2版楽しく学ぶ介護過程（久美出版）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60%
2．提出物：20%
3．受講態度：20%
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、授業中に講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅰ（意義と展開）	（講義・演習・実習）	平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

介護福祉士は、介護を必要としている人の人生や日常生活に関わるが、育った環境や生活習慣は人それぞれ異なる。つまり介護福祉士は、単に利用者の日常生活を支援するのみでなく、個別性のある「その人らしい」「より良い生活」「より良い人生」を支援していく必要がある。介護過程とは、この個別性のある介護を提供するために必要な思考過程のことを指す。

介護過程Ⅰでは、介護過程を構成する「アセスメント」、「計画の立案」、「実施」、「評価」について学習し、介護を提供するうえで、なぜ介護過程を展開する必要があるのか、その意義と目的を理解する。

［授業全体の内容の概要］

講義を中心に、介護過程の意義や目的、構成要素について説明していく。また、事例をもとに実際に介護過程を展開しながら、介護過程の構成要素の具体的内容について学習する。

［授業終了時の到達目標］

①介護過程とは何かを説明することができる。
②介護過程の構成要素とその具体的内容について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護過程とは何か・介護過程の意義と目的：介護過程とは何か、その意義と目的について説明
2．介護サービス計画と介護過程：介護サービス計画とは何か、介護過程との関連について説明
3．介護過程の構成要素：介護過程の構成要素について、その概要を説明
4．アセスメントとは何か：アセスメントの要素（情報収集、課題分析、生活課題の明確化）について説明
5．情報収集の目的と方法：情報収集の目的と方法について説明
6．ICF の構成要素と情報収集：ICF の構成要素と、ICF に基づいた情報収集の方法について説明
7．課題分析とは何か①：情報の解釈、関連づけ、統合化について説明
8．課題分析とは何か②：情報の解釈、関連づけ、統合化について説明
9．課題とは何か①：生活課題の明確化について説明
10．課題とは何か②：生活課題の明確化について説明
11．介護計画とは何か①：目標の設定について説明
12．介護計画とは何か②：計画の立案について説明
13．実施の意義と実施時の留意点：計画を実施する意味と、実施時の留意点について説明
14．評価とは何か：評価の意義と手順について説明
15．まとめ：第1回～14回授業のまとめ
定期試験・課題提出

［準備学習］

①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座9 介護過程第3版（中央法規）

参考文献：介護福祉教育研究会、改訂第2版楽しく学ぶ介護過程（久美出版）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％
2．提出物：20％
3．受講態度：20％
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、授業中に講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅱ（実践的展開Ⅰ）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	嶋田美津江

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

介護過程の意義や展開の思考過程の学習を基礎とし、自立支援の理念に基づき、利用者の意思や主体性を尊重した適切な介護の提供が実際の生活場面で出来るよう、他の科目で学習した知識・技術を統合し、介護過程を展開、介護計画の作成が出来るようにする。

［授業全体の内容の概要］

加齢による心身機能低下や、障害などからの介護の必要性のある事例に基づき授業を展開、実習の学びや現場の臨床例なども交え、実践力を養えるよう、ワークシートの作成やグループワークなどによる授業展開とする。

［授業終了時の到達目標］

・介護過程の思考過程を用いた展開をすることによって、介護計画の作成が出来る。
・介護計画の作成を通して、利用者の状況に応じた適切な介護の提供が出来ることを理解する事が出来る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護過程の意義と目的（介護過程Ⅰ復習）
2．介護過程の構成要素と展開①（介護過程Ⅰ復習：情報収集と課題分析）
3．介護過程の構成要素と展開②（介護過程Ⅰ復習：生活課題と介護計画）
4．介護過程の構成要素と展開③（介護過程Ⅰ復習：実施と評価）
5．介護過程の展開①（事例に基づく介護過程の展開：情報収集と課題分析）
6．介護過程の展開②（事例に基づく介護過程の展開：課題分析と生活課題）
7．介護過程の展開③（事例に基づく介護過程の展開：生活課題と計画の立案）
8．介護過程の展開④（事例に基づく介護過程の展開：計画の立案～評価）
9．まとめ（事例に対する介護過程の展開例の説明）
10．介護過程の実践的展開①（事例に基づく介護過程の展開：情報収集と課題分析：グループワーク）
11．介護過程の実践的展開②（事例に基づく介護過程の展開：課題分析と生活課題：グループワーク）
12．介護過程の実践的展開③（事例に基づく介護過程の展開：生活課題と計画の立案：グループワーク）
13．介護過程の実践的展開④（事例に基づく介護過程の展開：計画の立案～評価：グループワーク）
14．グループワーク発表
15．まとめ

評価・試験・レポート等

［準備学習］

①授業の前に、介護過程Ⅰの学びを振り返り、配布資料・作成ノート等を読んでおくこと　②授業の前に、前回のノートや配布資料を読み返してくること　③アセスメント等に活用出来るよう、必要に応じて関連の専門科目の知識を調べる等の自己学習をしておくこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成テキスト　第3版
介護過程　中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験・レポート等　60%
2．提出物　20%
3．受講態度　20%
＊試験・レポート等は、実施後確認評価し、返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅲ（実践的展開Ⅱ）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	青柳　佳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

介護過程の意義や展開の思考過程の学習を基礎とし、実際の生活場面での利用者の状況に応じた適切な介護の提供ができるよう、他の科目で学習した知識・技術を統合し、実践的な介護過程の展開方法を身につける。

［授業全体の内容の概要］

高齢者、障害者の事例をもとに授業を行う。実習の学びや介護現場の臨床例などから実践力を養えるよう、ワークシートの作成やグループワークなどにより授業を展開していく。

［授業終了時の到達目標］

①尊厳の保持、自立支援の理念に基づき、利用者の意思や主体性を尊重した介護過程を展開できる。
②他科目で学習した知識・技術を統合し、利用者の状態に適した介護方法を判断し、その根拠を説明することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護過程の意義と目的：介護過程ⅠおよびⅡの復習
2．高齢者施設とケアマネジメント：ケアマネジメントについての説明と、実習中の介護過程の展開について説明
3．介護過程の構成要素と展開①：情報収集、課題分析、生活課題についての説明
4．介護過程の構成要素と展開②：介護計画、実施、評価について説明
5．介護過程の実践的展開①：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（情報収集、課題分析）
6．介護過程の実践的展開②：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（課題分析、生活課題）
7．介護過程の実践的展開③：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（生活課題、計画の立案）
8．介護過程の実践的展開④：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（計画の立案、実施、評価）
9．介護過程の実践的展開⑤：事例に対する介護過程の展開例の説明とまとめ
10．障害者支援施設と障害ケアマネジメント：障害ケアマネジメントについての説明
11．介護過程の実践的展開⑥：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（情報収集、課題分析）
12．介護過程の実践的展開⑦：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（課題分析、生活課題）
13．介護過程の実践的展開⑧：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（生活課題、計画の立案）
14．介護過程の実践的展開⑨：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（計画の立案、実施、評価）
15．介護過程の実践的展開⑩：事例に対する介護過程の展開例の説明とまとめ
定期試験・課題提出

［準備学習］

①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座9介護過程第3版（中央法規）

参考文献：森繁樹、事例で読み解く介護過程の展開（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．試験等：60％
2．提出物：20％
3．受講態度：20％
＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。
＊提出課題は、授業中に返却または講評する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	○	態度・倫理	△	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅳ（居宅）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	織田つや子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者が住みなれた地域で、暮らし続けることができるように、利用者の思いを大切にした介護過程を展開するための、在宅介護の知識と介護計画作成の方法を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

在宅分野における介護計画を作成、実施、評価することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

在宅利用者への介護過程とチームアプローチ

1．在宅介護の意義
2．在宅介護の概念
3．在宅介護の実際
4．在宅サービスの種類
5．介護過程とケアプラン（居宅サービス計画）
6．介護計画の作成、実施、評価
7．介護計画　①情報収集
8．介護計画　②計画の作成1
9．介護計画　③計画の作成2
10．介護計画　④計画の実施
11．介護計画　⑤計画の評価
12．ケースカンファレンス
13．サービス担当者会議
14．他職種との連携
15．まとめ

評価・レポート

［準備学習］

（授業への心構え）この授業は演習なので、毎回提出物がある。また、介護計画の作成から評価までの6～11回目の授業は、一つの事例を段階を追って演習する。欠席しないように、体調管理に十分気をつけて授業に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

（参考文献）
介護福祉士養成テキスト12巻『介護過程の展開』
建帛社
新・介護福祉士養成講座9巻『介護過程』中央法規
朝倉美江『在宅介護支援の今日と明日』一橋出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度・演習・レポートでの総合評価
1．レポート：60%
2．課題・小テスト：30%
3．受講態度：10%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅳ（居宅）	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	織田つや子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者が住みなれた地域で、暮らし続けることができるように、利用者の思いを大切にした介護過程を展開するための、在宅介護の知識と介護計画作成の方法を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

在宅分野における介護計画を作成、実施、評価することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

在宅利用者への介護過程とチームアプローチ

1．在宅介護の意義
2．在宅介護の概念
3．在宅介護の実際
4．在宅サービスの種類
5．介護過程とケアプラン（居宅サービス計画）
6．介護計画の作成、実施、評価
7．介護計画　①情報収集
8．介護計画　②計画の作成1
9．介護計画　③計画の作成2
10．介護計画　④計画の実施
11．介護計画　⑤計画の評価
12．ケースカンファレンス
13．サービス担当者会議
14．他職種との連携
15．まとめ

評価・レポート

［準備学習］

（授業への心構え）この授業は演習なので、毎回提出物がある。また、介護計画の作成から評価までの6～11回目の授業は、一つの事例を段階を追って演習する。欠席しないように、体調管理に十分気をつけて授業に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

（参考文献）
介護福祉士養成テキスト12巻『介護過程の展開』
建帛社
新・介護福祉士養成講座9巻『介護過程』中央法規
朝倉美江『在宅介護支援の今日と明日』一橋出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度・演習・レポートでの総合評価
1．レポート：60%
2．課題・小テスト：30%
3．受講態度：10%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅴ（施設）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	平澤　泰子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

基本的な介護の知識や技術を踏まえた上で、施設利用者の自立に向けた適切な生活支援を行うためのチームケアの介護過程の展開方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

施設利用者の事例を用いて介護過程に沿った施設介護サービス計画作成、チームアプローチに必要なサービス担当者会議のもち方、ケースカンファレンス、進め方などの具体的な方法を演習する。

［授業終了時の到達目標］

施設利用者の自立に向けた介護過程の展開ができるようになると共に、ケアプランに基づいたサービスの流れにおける他の職種間とのチームケアを適切に行うための能力を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．高齢者施設とケアマネジメント
2．障害者支援施設と障害ケアマネジメント
3．多職種の役割と介護福祉士の役割
4．施設における介護過程とチームアプローチ①（サービス担当者会議）
5．施設における介護過程とチームアプローチ②（ケースカンファレンス）
6．施設における介護過程とチームアプローチ③（多職種との連携：高齢者）
7．施設における介護過程とチームアプローチ④（多職種との連携：障害者）
8．様々なケアマネジメント①（栄養ケアマネジメント）
9．様々なケアマネジメント②（口腔ケアマネジメント）
10．様々なケアマネジメント③（リハビリテーションマネジメント）
11．様々なケアマネジメント④（介護予防ケアマネジメント）
12．施設サービスと在宅サービスの連携
13．施設における介護過程の展開のまとめ①
14．施設における介護過程の展開のまとめ②
15．まとめ
試験

［準備学習］

1年次前期から連続して学んでいくものであり、教科書で予習をしてくることは勿論必要であるが、介護過程Ⅰ（意義と展開）・Ⅱ（実践的展開Ⅰ）・Ⅲ（実践的展開Ⅱ）・Ⅳ（居宅）を繰り返し復習しておくことが望ましい。つまり、介護過程の意義や展開方法をしっかり身につけた上で、施設利用者への介護過程とチームアプローチを学ぶことが望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

適宜プリントを配付
参考文献：「介護過程」中央法規

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．期末テスト：40%
2．レポートおよび課題：40%
3．受講態度：20%
期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はコメントを記して戻す。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］
①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。
②介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解する。
③介護実習Ⅰ・Ⅱにおける実習目標を設定し、実習終了後には個別の課題を整理し次の実習への準備を行う。

［授業全体の内容の概要］
①講義、映像などから実習施設と介護実習に対する動機づけをする。
②介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理する。
③介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行う。

［授業終了時の到達目標］
①実習施設の種別と特徴を理解できる。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。
②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅰ・Ⅱの実習目標を明確にできる。
③配布資料や課題レポート、授業の振り返り記録をとり、介護実習Ⅰ・Ⅱで活用できるポートフォリオを作成する。
④次回実習に向けての自己の課題を整理できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．オリエンテーション：介護実習の意義と目的､介護実習の流れ､介護総合演習の授業内容の学習
2．介護実習Ⅰ事前学習①：介護実習Ⅰの目的、配属先の概要の学習と個人票の作成
3．介護実習Ⅰ事前学習②：個人票の作成
4．介護実習Ⅰ事前学習③：実習施設の理解①訪問介護、グループホームの特徴と実習内容の学習
5．介護実習Ⅰ事前学習④：実習施設の理解②通所介護、障害者支援施設の特徴と実習内容の学習
6．介護実習Ⅰ事前学習⑤：配属先の概要を調べる、実習目標の作成
7．介護実習Ⅰ事前学習⑥：配属先までの経路を調べる、実習目標の作成
8．介護実習Ⅰ事前学習⑦：実習のマナーと準備（服装、持ち物など）の学習
9．介護実習Ⅰ事前学習⑧：実習記録の書き方と提出について
10．介護実習Ⅱ事前学習①：介護実習Ⅱの目的の学習と個人票の作成
11．介護実習Ⅱ事前学習②：事前訪問の学習と個人票の作成
12．介護実習Ⅱ事前学習③：実習記録の理解①実習記録の意義と目的の学習
13．介護実習Ⅱ事前学習④：実習記録の理解②介護実習記録の書き方の学習
14．介護実習Ⅱ事前学習⑤：実習記録の理解③第13回授業の続き
15．介護実習Ⅰのまとめ：介護実習Ⅰ反省会、介護実習Ⅱの最終確認
提出課題（実習関連書類等の提出、第9、13、14回授業の課題）

［準備学習］
①「介護実習の手引き」の授業該当部分を事前に呼んでおくこと。　②配布資料を整理し、次回授業までに再度目をとおしておくこと。　③配属先の施設についての資料等をよく読んで理解しておくこと。
④実習記録等を読み返し、実習内容の確認・振り返りをしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会、新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．課題とその内容：60％
2．受講態度：40％
＊課題については、ルーブリック評価を行う。また、評価基準は授業中に詳細を示す。
＊課題は、評価後に返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。
②介護実習Ⅱを振り返り、個別の課題を整理するとともに、介護実習Ⅲへ向けた準備を行う。

［授業全体の内容の概要］

①介護実習Ⅱを振り返り報告書としてまとめ、自己の課題を整理する。
②介護実習Ⅲの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行う。

［授業終了時の到達目標］

①実習施設の種別と特徴を理解できる。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。
②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅲの実習目標を明確にできる。
③配布資料や課題レポート、授業の振り返り記録をとり、介護実習Ⅲで活用できるポートフォリオを作成する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護実習Ⅱのまとめ①：反省会、目標達成リスト、記録の確認、実習の自己評価
2．介護実習Ⅱのまとめ②：実習総括作成
3．介護実習Ⅱのまとめ③：施設への礼状作成
4．介護実習Ⅱのまとめ④：報告書の書き方の学習と報告書の作成
5．介護実習Ⅱのまとめ⑤：第4回授業の続き
6．介護実習Ⅱのまとめ⑤：報告書発表会
7．介護実習Ⅲ事前学習①：介護実習Ⅲの目的の学習、個人票の作成
8．介護実習Ⅲ事前学習②：個人票の作成と実習目標の作成
9．介護実習Ⅲ事前学習③：実習記録の理解①日々の記録の書き方の学習
10．介護実習Ⅲ事前学習④：実習記録の理解②第9回授業の続き
11．介護実習Ⅲ事前学習⑤：介護過程の展開方法
12．介護実習Ⅲ事前学習⑥：介護実習Ⅲの最終確認
13．２年生から学ぶ①：介護実践研究レポート発表会
14．２年生から学ぶ②：第13回授業の続き
15．２年生から学ぶ③：第14回授業の続き
提出課題（介護実習Ⅱ報告書、第9、10回授業の課題）

［準備学習］

①「介護実習の手引き」の授業該当部分を事前に読んでおくこと。　②配布資料を整理し、次回授業までに再度目をとおしておくこと。　③配属先の施設についての資料をよく読んで理解しておくこと。
④実習記録等を読み返し、実習内容の確認・振り返りをしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会、新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．課題とその内容：60%
2．受講態度：40%
＊課題については、ルーブリック評価を行う。また、評価基準は授業中に詳細を示す。
＊課題は、評価後に返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅲ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］
①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。
②介護実習Ⅲを振り返り、個別の課題を整理するとともに、介護実習Ⅳへ向けた準備を行う。
③ケアスタディを作成し、介護実習と教科学習の振り返りを行う。

［授業全体の内容の概要］
①介護実習Ⅲを振り返り、自己の課題を整理する。
②介護実習Ⅳの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行う。
③介護実習Ⅲにおける介護過程の展開を、ケアスタディとしてまとめる。

［授業終了時の到達目標］
①実習施設の種別と特徴を理解できる。また、実習に臨む基本姿勢を理解することができる。
②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅳの実習目標を明確にできる。
③ケアスタディをまとめることで介護実習Ⅲでの利用者との関わりを振り返り、より良い支援の方法について考えることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．介護実習Ⅲのまとめ①：反省会、目標達成リスト、記録の確認、自己評価
2．介護実習Ⅲのまとめ②：実習総括の作成
3．介護実習Ⅲのまとめ③：施設への礼状作成
4．介護実習Ⅲのまとめ④：ケアスタディの書き方の学習
5．介護実習Ⅲのまとめ⑤：ケアスタディ発表会
6．介護実習Ⅲのまとめ⑥：利用者との関わりの振り返り①（プロセスレコード）
7．介護実習Ⅲのまとめ⑦：利用者との関わりの振り返り②（第6回授業の続き）
8．介護実習Ⅳ事前学習①：介護実習Ⅳの目的、個人票の作成
9．介護実習Ⅳ事前学習②：個人票の作成、実習目標の作成
10．介護実習Ⅳ事前学習③：実習記録の書き方①日々の記録の書き方の学習
11．介護実習Ⅳ事前学習④：実習記録の書き方②介護過程関連記録の書き方の学習
12．介護実習Ⅳ事前学習⑤：卒業生から学ぶ（卒業生からの講話）
13．介護実習Ⅳ事前学習⑥：実習計画の作成①
14．介護実習Ⅳ事前学習⑦：実習計画の作成②
15．介護実習Ⅳ事前学習⑧：介護実習Ⅳの事前確認
提出課題（ケアスタディ、第6、7、10回授業の課題）

［準備学習］
①「介護実習の手引き」の授業該当部分を事前に読んでおくこと。 ②配布資料を整理し、次回授業までに再度目をとおしておくこと。 ③配属先の施設についての資料をよく読んで理解しておくこと。 ④実習記録等を読み返し、実習内容の確認・振り返りをしておくこと。 ⑤科目「介護過程」で学習したことを復習しておくこと。また、課題レポートに関する資料や参考文献などを読み、レポート作成に活かせるようにすること。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会、新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．課題とその内容：60%
2．受講態度：40%
＊課題については、ルーブリック評価を行う。また、評価基準は授業中に詳細を示す。
＊課題は、評価後に返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅳ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	平澤泰子・嶋田美津江・岡田圭祐・鄭春姫・林雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

①介護実習Ⅰ～Ⅳの総まとめを行い、各自の課題を整理する。

②介護福祉実践研究レポートを作成し、発表する機会を設け、自身の体験や考えを論理的に記述・説明できる能力を養う。また、レポート作成を通じて、介護実習とすでに学習した科目を統合し、現時点での自己の介護に対する考え方を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

①学内の授業と介護実習で得た知識や技術を統合し、介護福祉実践研究レポートを作成する。

②自己の問題意識に基づいて介護福祉実践研究レポートのテーマを設定し、先行研究を調べたり、担当教員に指導を受けながら作成する。

③介護実践研究レポートの発表を通して、論理的に考え説明できる能力の重要性を理解する機会とする。

［授業終了時の到達目標］

①介護実習全体を通しての体験をもとに、自己の課題を明確にできる。また、現時点での自己の介護観をまとめることができる。

②自己の問題意識に基づいて、先行研究や文献を調べながら論理的に考え記述することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護実習Ⅳのまとめ①：記録の確認、実習総括作成、施設への礼状作成
2．介護実習Ⅳのまとめ②：反省会、目標達成リストの確認、自己評価
3．介護福祉実践研究レポート①：研究レポートをまとめる意義と目的、書き方についての学習
4．介護福祉実践研究レポート②：レポートの作成①
5．介護福祉実践研究レポート③：レポートの作成②
6．介護福祉実践研究レポート④：レポートの作成③
7．介護福祉実践研究レポート⑤：レポートの作成④
8．介護福祉実践研究レポート⑥：レポートの作成⑤
9．介護福祉実践研究レポート⑦：レポートの作成⑥
10．介護福祉実践研究レポート⑧：レポートの作成⑦、発表原稿作成①
11．介護福祉実践研究レポート⑧：発表原稿作成②
12．介護福祉実践研究レポート⑨：発表の流れの確認、発表の方法
13．介護福祉実践研究レポート発表会①
14．介護福祉実践研究レポート発表会②
15．介護福祉実践研究レポート発表会③

提出課題（「私の介護観」、介護福祉実践研究レポート）

［準備学習］

①実習記録等を読み返し、実習内容の確認・振り返りをしておくこと。

②自己の問題意識に基づいて、先行研究などの文献を調べておくこと。

③提出の〆切期限を厳守できるよう、自主的に計画を立てて進めること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業中に資料を配布
参考文献：白井利明、高橋一郎著、よくわかる卒論の書き方第2版（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．課題とその内容：60%
2．受講態度：40%
＊課題については、ルーブリック評価を行う。また、評価基準は授業中に詳細を示す。
＊課題は、評価後に返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。②介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解する。③介護実習Ⅰにおける実習目標を設定し、実習終了後には個別の課題を整理し次の実習への準備を行う。

［授業全体の内容の概要］

①体験見学を通し、実習施設と介護実習に対する動機づけをする。②介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理する。

［授業終了時の到達目標］

①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅰの実習目標を明確にできる。③配布資料や課題レポート、授業の振り返り記録をとり、介護実習Ⅰで活用できるポートフォリオを作成する。④実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：介護実習の意義と目的、介護総合演習の授業について
2．施設体験学習①：体験施設の概要について
3．施設体験学習②：介護老人福祉施設の見学
4．施設体験学習③：介護老人保健施設の見学
5．施設体験学習④：体験見学の報告会
6．実習にあたっての心構えと専門職倫理：介護実習に臨む際の心構えと専門職倫理について
7．介護実習Ⅰ事前学習①：個人票の作成と実習目標の立て方
8．介護実習Ⅰ事前学習②：事前訪問、実習のマナー
9．介護実習Ⅰ事前学習③：実習記録の理解①（介護実習記録の意義と目的）
10．介護実習Ⅰ事前学習④：実習記録の理解②（介護実習記録の書き方①）
11．介護実習Ⅰ事前学習⑤：実習記録の理解③（介護実習記録の書き方②）
12．介護実習Ⅰ事前学習⑥：実習生の基本的姿勢
13．介護実習Ⅰまとめの学習①：反省会、目標達成リストの確認、記録の確認、自己評価
14．介護実習Ⅰまとめの学習②：実習総括の記入
15．介護実習Ⅰまとめの学習③：施設へのお礼状作成

提出課題（体験レポート・記録の理解）

［準備学習］

①実習の手引きの授業該当部分を事前に読んでおくこと　②体験見学施設の資料等を授業前によく読んで理解しておくこと　③記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと
④配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護実習の手引き（学科内作成）
参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会，新介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．課題とその内容：60%
2．受講態度：40%
＊課題については、ルーブリック評価を行う。また評価基準は授業中に詳細を示す。
＊課題は、内容を確認後返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。
②介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理するとともに、介護実習Ⅱへ向けた準備を行う。

［授業全体の内容の概要］

①介護実習Ⅰを振り返り報告書としてまとめ、自己の課題を整理する。
②介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅱを振り返り個別の課題を整理する。

［授業終了時の到達目標］

①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅱの実習目標を明確にできる。③配布資料や課題レポート、授業の振り返り記録をとり、介護実習Ⅱで活用できるポートフォリオを作成する。④実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護実習Ⅰの振り返り①：報告書の書き方、報告書の作成
2．介護実習Ⅰの振り返り②：報告書発表会
3．介護実習Ⅱ事前学習①：介護実習Ⅱオリエンテーション
4．介護実習Ⅱ事前学習②：実習施設の理解①（訪問介護事業所、グループホーム）
5．介護実習Ⅱ事前学習③：実習施設の理解②（通所介護、障害者支援施設）
6．介護実習Ⅱ事前学習④：実習目標の作成①
7．介護実習Ⅱ事前学習⑤：実習目標の作成②
8．介護実習Ⅱ事前学習⑥：実習施設への経路検索、個人票作成
9．介護実習Ⅱ事前学習⑦：日々の記録の書き方①
10．介護実習Ⅱ事前学習⑧：日々の記録の書き方②
11．介護実習Ⅱ事前学習⑨：実習目標の確認と実習のマナー
12．２年生から学ぶ①：介護福祉実践研究レポート発表会①
13．２年生から学ぶ②：介護福祉実践研究レポート発表会②
14．２年生から学ぶ③：介護福祉実践研究レポート発表会③
15．介護実習Ⅱまとめの学習：実習記録のまとめ、お礼状の作成
課題提出（介護実習Ⅰ報告書、記録の書き方）

［準備学習］

①実習の手引きの授業該当部分を事前に読んでおくこと
②記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと
③配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護実習の手引き（学科内作成）
参考文献：介護総合演習・介護実習第３版、介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規)

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．課題とその内容：60%
2．受講態度：40%
＊課題については、ルーブリック評価を行う。また評価基準は授業中に詳細を示す。
＊課題は、内容を確認後返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅲ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	嶋田美津江・鄭春姫・岡田圭祐・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

・介護実習Ⅲを行うための事前指導、実習終了後のまとめを行い、各自の課題を整理する。
・１年生に対し実習で体験したことを伝える機会を設け、自身の体験を様々な場面で伝える能力を備える。
・ケアスタディを作成し、介護実習と教科学習の振り返りを行う。

［授業全体の内容の概要］

・学内の授業と介護実習で得た知識や技術を総合し、介護過程が展開できる能力を備えるように個別の支援を行う。
・グループでの発表や１年生に対する発表を通じ、個々人の体験を多様な場面で伝える能力を養う。
・ケアスタディ作成等の個別指導を行う。

［授業終了時の到達目標］

・体験した介護実習を生かし、ケアスタディの作成をし、発表する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護実習Ⅲ事前学習１：個人票の作成と実習目標の作成①
2．介護実習Ⅲ事前学習２：個人票の作成と実習目標の作成②
3．介護実習Ⅲ事前学習３：実習施設の理解（特養と老健の理解）
4．介護実習Ⅲ事前学習４：研究レポートの書き方
5．介護実習Ⅲ事前学習：実習直前オリエンテーション（実習目標の確認と実習のマナー）
6．介護実習Ⅲ帰校日１：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など
7．特別講義：特別講義「実習にあたっての心構えと専門職倫理」
8．介護実習Ⅲ帰校日２：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など
9．介護実習Ⅲ帰校日３：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など
10．介護実習Ⅳオリエンテーション：個人票の作成
11．介護実習Ⅲ帰校日４：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など
12．介護実習Ⅲまとめの学習１：ケアスタディ説明⇒反省会、実習記録のまとめ
13．介護実習Ⅲまとめの学習２：実習記録のまとめ、ケアスタディ作成・自己評価
14．介護実習Ⅳ事前学習１：介護実習Ⅳの目標確認、実習目標作成
15．介護実習Ⅳ事前学習２：実習のマナー確認、ケアスタディの発表
評価

［準備学習］

・実習の手引き・ワークブックの授業該当部分を授業前に確認する。
・実習の課題に関連される介護過程Ⅰ・Ⅱの授業内容を振り返る。
・記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認する。
・課題レポートに関する資料や参考文献などを読み、レポート作成に生かせるようにする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
介護実習の手引き
ワークブック学科内作成

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度、介護実習の記録を総合的に判断する
1．提出物：60％
2．受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅳ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・岡田圭祐・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	２年次・後期	選択

［授業の目的］

・介護実習Ⅳを行うための事前指導、実習終了後のまとめを行い、各自の課題を整理する。
・１年生に対し実習で体験したことを伝える機会を設け、自身の体験を様々な場面で伝える能力を備える。
・介護福祉実践研究レポートを作成し、介護実習と教科学習のまとめを行う。

［授業全体の内容の概要］

・学内の授業と介護実習で得た知識や技術を総合し、介護過程が展開できる能力を備えるように個別の支援を行う。
・グループでの発表や１年生に対する発表を通じ、個々人の体験を多様な場面で伝える能力を養う。
・介護福祉実践研究レポートのテーマ設定、作成等の個別指導を行う。

［授業終了時の到達目標］

・体験した介護実習を生かし、介護福祉実践研究レポートの作成をし、発表する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護実習Ⅳまとめの学習１：実習記録のまとめ・自己評価
2．特別講義：「生活支援の思想」
3．介護福祉実践研究レポート１：研究レポートをまとめる意義と目的、書き方について
4．介護福祉実践研究レポート２：レポートの作成①
5．介護福祉実践研究レポート３：レポートの作成②
6．介護福祉実践研究レポート４：レポートの作成③　＊レポートタイトル提出日
7．介護福祉実践研究レポート５：レポートの作成④
8．介護福祉実践研究レポート６：レポートの作成⑤
9．介護福祉実践研究レポート７：レポート⑥、発表原稿作成①　＊レポート提出日
10．介護福祉実践研究レポート８：発表原稿作成②
11．介護福祉実践研究レポート９：発表原稿作成③
12．介護福祉実践研究レポート10：発表会の流れの確認、発表の方法
13．介護福祉実践研究レポート発表会
14．介護福祉実践研究レポート発表会
15．介護福祉実践研究レポート発表会
評価

［準備学習］

・実習の手引き・ワークブックの授業該当部分を授業前に確認する。
・実習の課題に関連される介護過程Ⅰ・Ⅱの授業内容を振り返る。
・記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認する。
・課題レポートに関する資料や参考文献などを読み、レポート作成に生かせるようにする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
介護実習の手引き
ワークブック学科内作成

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度、介護実習の記録を総合的に判断する
1．提出物：60％
2．受講態度：40％

［学位授与方針との関係］	知識・理解	△	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解し、特に介護実習Ⅰにおける実習目標を設定し、実習終了後には個別の課題を整理し次の実習への準備を行う。

［授業全体の内容の概要］

①体験見学を通し、実習施設と介護実習に対する動機づけをする。

②介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理する。

［授業終了時の到達目標］

①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。

②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅰの実習目標を明確にできる。また、実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：介護実習の意義と目的、介護総合演習の授業について
2．施設体験学習①：体験施設の概要について
3．施設体験学習②：介護老人福祉施設の見学
4．施設体験学習③：介護老人保健施設の見学
5．施設体験学習④：体験見学の報告会
6．実習にあたっての心構えと専門職倫理：介護実習に臨む際の心構えと専門職倫理について
7．介護実習Ⅰ事前学習①：個人票の作成と実習目標の立て方
8．介護実習Ⅰ事前学習②：事前訪問、実習のマナー
9．介護実習Ⅰ事前学習③：実習記録の理解①（介護実習記録の意義と目的）
10．介護実習Ⅰ事前学習④：実習記録の理解②（介護実習記録の書き方①）
11．介護実習Ⅰ事前学習⑤：実習記録の理解③（介護実習記録の書き方②）
12．介護実習Ⅰ事前学習⑥：実習生の基本的姿勢
13．介護実習Ⅰまとめの学習①：反省会、目標達成リストの確認、記録の確認、自己評価
14．介護実習Ⅰまとめの学習②：実習総括の記入
15．介護実習Ⅰまとめの学習③：施設へのお礼状作成

提出課題（体験レポート・記録の理解）

［準備学習］

①実習の手引き、ワークブックの授業該当部分を事前に読んでおくこと　②体験見学施設の資料等を授業前によく読んで理解しておくこと　③記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと　④配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護実習の手引き（学科内作成）
ワークブック（学科内作成）
参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会，新介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．提出物とその内容：60%
（評価基準は授業中に詳細を示す）
2．受講態度：40%
＊課題は、内容を確認後返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解し、特に介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理するとともに、介護実習Ⅱへ向けた準備を行う。

［授業全体の内容の概要］

①介護実習Ⅰを振り返り報告書としてまとめ、自己の課題を整理する。
②介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅱを振り返り個別の課題を整理する。

［授業終了時の到達目標］

①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。
②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅱの実習目標を明確にできる。また、実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．介護実習Ⅰの振り返り①：報告書の書き方、報告書の作成
2．介護実習Ⅰの振り返り②：報告書発表会
3．介護実習Ⅱ事前学習①：介護実習Ⅱオリエンテーション
4．介護実習Ⅱ事前学習②：実習施設の理解①（訪問介護事業所、グループホーム）
5．介護実習Ⅱ事前学習③：実習施設の理解②（通所介護、障害者支援施設）
6．介護実習Ⅱ事前学習④：実習目標の作成①
7．介護実習Ⅱ事前学習⑤：実習目標の作成②
8．介護実習Ⅱ事前学習⑥：実習施設への経路検索、個人票作成
9．介護実習Ⅱ事前学習⑦：日々の記録の書き方①
10．介護実習Ⅱ事前学習⑧：日々の記録の書き方②
11．介護実習Ⅱ事前学習⑨：実習目標の確認と実習のマナー
12．２年生から学ぶ①：介護福祉実践研究レポート発表会①
13．２年生から学ぶ②：介護福祉実践研究レポート発表会②
14．２年生から学ぶ③：介護福祉実践研究レポート発表会③
15．介護実習Ⅱまとめの学習：実習記録のまとめ、お礼状の作成
課題提出（介護実習Ⅰ報告書、記録の書き方）

［準備学習］

①実習の手引き、ワークブックの授業該当部分を事前に読んでおくこと
②記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと
③配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：介護実習の手引き（学科内作成）
ワークブック（学科内作成）
参考文献：介護総合演習・介護実習第３版、介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規)

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．提出物とその内容：60%
（評価基準は授業中に詳細を示す）
2．受講態度：40%
＊課題は、内容を確認後返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅰ	（ 講義・演習・(実習) ）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	45時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場においての個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

［授業全体の内容の概要］

①訪問介護員に同行して利用者の家庭を訪問し、訪問介護や訪問入浴介護を体験する。
②認知症対応型共同生活介護（グループホーム）における介護を体験する。
③障害者支援施設、通所介護など、利用者の心身の障害に応じた生活の場での介護を体験する。

［授業終了時の到達目標］

①実習先の概要を理解し、利用者の生活の場である多様な介護現場を理解できる。
②生活支援をとおして、利用者の一日の生活を理解できる。
③多様な生活の場における利用者の支援のあり方を見学・体験し、利用者の生活ニーズに応じた介護方法を理解できる。
④多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。
⑤利用者、家族とのコミュニケーションを通じて、利用者や家族との信頼関係の重要性を理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

＊1年次の6月～7月にかけて、3つの事業所・施設において2日間ずつ計6日間の実習を行う。

1．訪問介護事業所・訪問入浴介護事業所での体験実習（2日間）
- ①訪問介護員に同行し、各家庭における介護を体験する。
- ②利用者の生活状況を把握し、生活課題に応じて提供される介護サービスについて学ぶ。
- ③利用者の心身の状態、生活環境に応じた介護方法や工夫・留意点を学ぶ。
- ④利用者が住み慣れた地域での生活を継続するために利用している他のサービスを確認し、多職種との連携を学ぶ。
- ⑤利用者や家族との関わりを通して、信頼関係の重要性を学ぶ。

2．認知症対応型共同生活介護（グループホーム）での体験実習（2日間）
- ①認知症対応型共同生活介護での介護業務を体験する。
- ②利用者の心身の状態を把握し、グループホームの特性や地域とのつながりを学ぶ。
- ③利用者とのコミュニケーションや趣味活動などの関わりを通して、認知症高齢者とのかかわり方や、役割や楽しみのある生活について学ぶ。
- ④利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ。
- ⑤安全・安楽な生活継続のための環境整備や工夫を学ぶ。

3．障害者支援施設、通所介護事業所での体験実習（2日間）
- ①障害者支援施設、通所介護事業所での介護業務を体験する。
- ②利用者の心身の状態を理解し、障害に応じたコミュニケーション技術や介護方法を学ぶ。
- ③心身の障害に応じた利用者の生活障害の実際を学ぶ。
- ④利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ。

［準備学習］

①配属先の施設・事業所について、実習前に資料等をよく読んで理解しておくこと。　②「介護実習の手引き」をよく読み、実習に臨むこと。特に、介護実習Ⅰの目的、実習のマナーについては熟読しておくこと。　③介護総合演習で配布した資料をよく読み、各施設・事業所での実習内容の確認や、自己の実習目標を確認しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：
介護福祉士養成講座編集委員会、新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．記録等の提出とその内容
2．実習態度（積極的に実習に取り組む姿勢）
3．施設指導者や担当教員による評価（生活支援技術や利用者との関わり、実習目的を意識した行動など）

上記1～3より総合的に評価する。評価基準の詳細については介護実習の手引きを参照。

＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。また、施設・事業所からの評価は、すべての書類が返却され次第開示する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅱ	（ 講義・演習・(実習) ）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	90時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］
・介護老人福祉施設、介護老人保健施設の機能と役割を理解するとともに、基礎的な日常生活場面における生活支援技術を見学・実践し、利用者の心身機能の状況や生活に応じた支援内容を理解する。
・利用者との適切なコミュニケーション方法を理解し、利用者の思いを理解する。
・施設で働く介護福祉士の役割と業務内容を理解する。また、施設で働く介護福祉士以外の専門職の役割と業務内容を理解する。

［授業全体の内容の概要］
・介護老人福祉施設または介護老人保健施設において、担当職員の指導のもと施設における介護業務を体験する。
・担当職員の指導のもと、基礎的な日常生活場面における生活支援技術を見学・実践する。
・施設で生活する利用者と関わりを持ち、適切なコミュニケーション方法や利用者の思いを理解する。
・介護実習の目標をもとに日々の目標を設定し、目標に沿って行動する。また、介護実習記録に実習内容、反省・考察を記述しながらその日の介護実践を振り返り、次の実習課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］
①介護老人福祉施設・介護老人保健施設の機能と役割を理解できる。また、利用者の心身機能の状況や生活を把握し、施設における支援内容を理解できる。 ②利用者と適切なコミュニケーションを図り、利用者の思いを理解できる。 ③基礎的な日常生活場面における生活支援技術を理解できる。 ④施設の生活環境と、施設で活用されている福祉用具について理解できる。 ⑤施設で働く介護福祉士の役割と業務内容を理解できる。また、施設で働く介護福祉士以外の専門職の役割と業務内容を理解できる。 ⑥その日の目標に基づいて行動し、実習内容を客観的に記録することができる。また、その日の目標に沿って、自己の介護実践を反省・考察することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

＊1年次の8月に、介護老人福祉施設または介護老人保健施設において12日間の実習を行う。
1．高齢者の生活と介護ニーズの理解
①介護老人福祉施設または介護老人保健施設の目的、機能、各施設の理念や方針等について理解する。
②介護業務を通じて一日の日課を体験し、施設での利用者の生活と介護ニーズを理解する。
2．関係性の構築と情報収集
①利用者と積極的に関わり、適切なコミュニケーション方法を学ぶ。
②利用者との関わりの中から、利用者の心身の状況を把握する。
3．生活支援技術の実践と習熟、生活環境の改善と福祉用具の活用
①基本的な日常生活場面における生活支援技術を、担当職員の指導のもと見学・実践する。
②利用者が生活する環境を把握するとともに、施設で活用している福祉用具について、その使用方法を理解する。
4．他職種連携
①介護職員の一日の業務内容を担当職員の指導のもと体験し、それぞれの業務の意義と目的を理解する。
②施設で働く介護福祉士以外の専門職の業務内容を理解する。
5．介護福祉士の役割と専門職としての態度
①自己の実習目標を意識して日々の目標を設定し、目的を持って行動する。わからないことは曖昧にせず、積極的に質問しながら、介護福祉士の役割について理解する。
②利用者や職員とのコミュニケーションから、社会的マナー、職業倫理などの基礎的知識を学ぶ。
③日々の行動や実践内容について担当職員より指導・助言を受け、利用者に対する態度や対話の在り方について学ぶ。
④巡回指導教員から、実習記録の記入方法や内容について指導・助言を受けながら利用者理解を深めるとともに、より良い支援方法について学ぶ。

［準備学習］
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解しておくこと。 ②「介護実習の手引き」をよく読み、実習に臨むこと。特に、介護実習Ⅱの目的、実習のマナーについては熟読しておくこと。
③介護総合演習で配布した資料をよく読み、実習内容の確認や自己の実習目標を確認しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：
介護福祉士養成講座編集委員会、新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．記録等の提出とその内容
2．実習態度（積極的に実習に取り組む姿勢）
3．施設指導者や担当教員による評価（生活支援技術や利用者との関わり、実習目的を意識した行動など）
上記1～3より総合的に評価する。評価基準の詳細については介護実習の手引きを参照。
＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。また、施設・事業所からの評価は、すべての書類が返却され次第開示する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅲ	（ 講義・演習・(実習) ）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	180時間・4単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］
個別ケアを行うために利用者の生活リズムや個性を理解し、生活課題を明確にするためのアセスメント・計画の立案・実施・評価といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・介護老人福祉施設または介護老人保健施設において、担当職員の指導のもと施設における介護業務を体験する。
・担当職員の指導のもと、日常生活場面における生活支援技術を実践する。
・対象者を決め、アセスメント、計画の立案、実施、評価といった介護過程を展開する。
・利用者とコミュニケーションをとり、利用者の言動の意味を考え、利用者理解を深める。
・介護実習の目標をもとに日々の目標を設定し、目標に沿って行動する。また、介護実習記録に実習内容、反省・考察を記述しながらその日の介護実践を振り返り、次の実習課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］
①介護老人福祉施設、介護老人保健施設の機能と役割を理解できる。また、利用者の心身機能の状況や生活を把握し、介護ニーズを理解できる。②利用者とのコミュニケーションから内面的な要求に気づくことができる。また、利用者と適切な関係を構築することができる。③介護過程を展開し、介護の思考過程を理解できる。④生活支援技術や介護実習Ⅰで学習したことをもとに、基本に基づいた生活支援技術を実践できる。⑤環境が利用者の生活に影響を与えることを理解し、改善方法を考えることができる。また、利用者の状態に応じた福祉用具の活用を理解できる。⑥介護職員の役割、介護職員間・多職種間の連携・協働を理解できる。⑦自己の実習目標を達成するために行動し、適切な記録を記述することができる。⑧介護福祉士に必要な職業倫理について理解し、利用者の尊厳に配慮した介護を実践できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

＊1年次の2月から3月にかけて、介護老人福祉施設または介護老人保健施設において23日間の実習を行う。
1．高齢者の生活と介護ニーズの理解
①介護老人福祉施設または介護老人保健施設の目的、機能、各施設の理念や方針等について理解する。
②日勤業務や変則勤務を体験して施設の日課を把握し、利用者の生活と介護ニーズを理解する。
2．関係性の構築と情報収集
①利用者と積極的に関わる。特に、コミュニケーションや観察を通して、利用者の内面的な要求を理解する。
②利用者との関わりから心身の状況を把握する。また、利用者と適切な関係を構築するためのコミュニケーション方法を理解する。
3．介護過程の実践的理解と展開
①対象者の心身の状況や生活状況を把握する。
②収集した情報を解釈・関連づけ・統合し、必要な支援を導き出す。
③アセスメントをもとに、長期的・短期的な目標を設定し、目標を達成するための具体的な行動計画を立案する。
④情報収集から計画立案までの一連の思考過程を理解し、文章化する。
4．生活支援技術の実践と習熟
①生活支援技術や介護実習Ⅱで学習したことをもとに、基本に基づいた生活支援技術を実践する。
②利用者の心身の状態に応じた生活支援技術を理解し、その根拠を理解する。
5．生活環境の改善と福祉用具の活用
①環境が利用者の生活にどのような影響を与えているか考え、利用者の状況に応じた生活環境整備を理解する。
②利用者の状態に応じた福祉用具の活用について理解する。
6．他職種連携
①申し送りなどに参加し、職員間の情報共有について理解する。
②介護サービス計画や介護記録、サービス担当者会議の参加などから、各専門職の役割や連携について理解する。
7．介護福祉士の役割と専門職としての態度
①自己の実習目標を意識して日々の目標を設定し、目的を持って行動する。わからないことは曖昧にせず、積極的に質問しながら、介護福祉士の役割について理解する。
②利用者や職員とのコミュニケーションから、社会的マナー、職業倫理などの基礎的知識を学ぶ。
③日々の行動や実践内容について担当職員より指導・助言を受け、利用者に対する態度や対話の在り方について学ぶ。
④巡回指導教員から、実習記録の記入方法や内容について指導・助言を受けながら利用者理解を深めるとともに、より良い支援方法について学ぶ。
〔履修にあたっての注意事項〕
介護福祉関連科目を当該時期に履修していること。

［準備学習］
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解しておくこと。②「介護実習の手引き」をよく読み、実習に臨むこと。特に、介護実習Ⅲの目的、実習のマナーについては熟読しておくこと。③介護総合演習で配布した資料をよく読み、実習内容の確認や自己の実習目標を確認しておくこと。④介護過程で学習した内容を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：
こころとからだのしくみ、生活支援技術、認知症の理解、障害の理解、コミュニケーション技術、介護過程など、介護福祉関連科目で使用したテキスト

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．記録等の提出とその内容
2．実習態度（積極的に実習に取り組む姿勢）
3．施設指導者や担当教員による評価（生活支援技術や利用者との関わり、実習目的を意識した行動など）
上記1～3より総合的に評価する。評価基準の詳細については介護実習の手引きを参照。
＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。また、施設・事業所からの評価は、すべての書類が返却され次第開示する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅳ	（ 講義・演習・(実習) ）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	135時間・3単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］
個別ケアを行うために利用者の生活リズムや個性を理解し、生活課題を明確にするためのアセスメント・計画の立案・実施・評価といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・介護老人福祉施設または介護老人保健施設、障害者支援施設等において、担当職員の指導のもと施設における介護業務を体験する。
・担当職員の指導のもと、日常生活場面における生活支援技術を実践・習得する。
・対象者を決め、アセスメント、計画の立案、実施、評価、再アセスメントといった介護過程を展開する。
・利用者とのコミュニケーション、観察などから利用者の言動の意味を考え、利用者理解を深める。また、利用者のニーズに沿った介護を考え、実践する。
・介護実習の目標をもとに日々の目標を設定し、目標に沿って行動する。また、介護実習記録に実習内容、反省・考察を記述しながらその日の介護実践を振り返り、次の課題を明確にする。
・日々の介護実践や記録、担当職員や担当教員からの指導・アドバイスをもとに、自己の介護観を明確にする。

［授業終了時の到達目標］
①実習施設の機能と役割を理解できる。また、介護を必要とする高齢者や障がい者の生活と介護ニーズを理解できる。②コミュニケーションや観察等から、介護に必要な情報を得るとともに、利用者と適切な関係性を構築することができる。③利用者のおかれた環境、利用者の客観的・主観的情報から、短期的・中期的・長期的に最適な介護内容を導き出し、実践できる。④利用者の多様な環境と情報から個別ケアのあり方を理解し、個別性に対応する生活支援技術を実践できる。⑤利用者の心身機能、障害に対応した生活環境の改善と福祉用具の活用について理解できる。⑥他職種の連携と社会資源について理解し、他職種連携における介護福祉士の役割を理解できる。⑦チームケアに必要な情報共有の基礎となる実践の記録を作成し、実践を振り返る力を習得できる。⑧介護福祉士に必要な職業倫理を理解し、多様な生き方を理解して、自己を内省しつつ、主体的に関わる姿勢を涵養できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

＊2年次の8月から9月にかけて、介護老人福祉施設または介護老人保健施設、障害者支援施設等において17日間の実習を行う。
1．高齢者・障がい者の生活と介護ニーズの理解
①施設の目的や機能、各施設の方針・理念を理解する。
②施設で生活する利用者の特徴を理解し、施設での生活と提供している介護サービスを理解する。
2．関係性の構築と情報収集
①利用者の状態に応じたコミュニケーション方法を理解、実践する。
②介護に必要な情報を得るために、目的を持ってコミュニケーションをとる。
③利用者との信頼関係を構築することの重要性を理解する。
3．介護過程の実践的理解と展開
①利用者の全体像を適切に捉え、アセスメントを行う。
②「その人が望む生活・人生」を踏まえて目標を設定し、目標を達成するための計画を立案・実践する。
③実践内容を評価・再アセスメントし、介護過程の一連の思考過程を理解する。
④介護サービス計画と介護過程の関連性、根拠に基づいた介護実践の重要性を理解する。
4．生活支援技術の実践と習熟
①連続した生活の流れを意識しながら、各場面の生活支援技術を担当職員の指導のもと実践する。
②利用者の状態や生活環境に応じた介護方法とその根拠を考え実践する。
③利用者の持っている力を活用し、潜在能力を引き出す介護方法を考え実践する。
5．生活環境の改善と福祉用具の活用
①環境が利用者の生活に影響を与えていることを理解し、改善方法を考える。
②利用者の持っている力を活用したり、潜在能力を引き出すために、利用者の心身の状況に応じた福祉用具を選択・活用する。
6．他職種連携と介護福祉士の役割
①申し送りなどに参加し、職員間で共有した情報を日々の介護にどのように生かしているかを理解する。
②介護サービス計画に基づいて、各専門職がどのような役割を持ち、どのように連携しながら介護を提供しているか理解する。
③サービス担当者会議に参加し、他職種間の連携について理解するとともに、多職種連携における介護福祉士の役割を理解する。
7．専門職としての態度
①利用者本位、自立支援を念頭に利用者と関わる。
②利用者の尊厳を守り、「その人らしさ」を大切にしながら利用者と関わる。
③自己の実習目標を意識して日々の目標を設定し、目的を持って行動する。
④利用者や職員とのコミュニケーションから、社会的マナー、職業倫理などの基礎的知識を学ぶ。
⑤日々の行動や実践内容について担当職員や巡回担当職員から指導・助言を受け、利用者に対する態度や対話のあり方について学ぶとともに、利用者理解を深めより良い支援方法について学ぶ。

〔履修にあたっての注意事項〕
介護福祉関連科目を当該時期に履修していること。

［準備学習］
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解しておくこと。②「介護実習の手引き」をよく読み、実習に臨むこと。特に、介護実習Ⅲの目的、実習のマナーについては熟読しておくこと。③介護総合演習で配布した資料をよく読み、実習内容の確認や自己の実習目標を確認しておくこと。④介護過程や障害の理解で学習した内容を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
①介護実習の手引き（浦和大学短期大学部介護福祉科作成）
②授業中に資料を配布
参考文献：
こころとからだのしくみ、生活支援技術、認知症の理解、障害の理解、コミュニケーション技術、介護過程など、介護福祉関連科目で使用したテキスト

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．記録等の提出とその内容
2．実習態度（積極的に実習に取り組む姿勢）
3．施設指導者や担当教員による評価（生活支援技術や利用者との関わり、実習目的を意識した行動など）
上記1～3より総合的に評価する。評価基準の詳細については介護実習の手引きを参照。
＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。また、施設・事業所からの評価は、すべての書類が返却され次第開示する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅰ	（ 講義・演習・(実習)）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	90時間・2単位	1年次・前期	必修

[授業の目的]

・特別養護老人ホーム、老人保健施設の概要と利用者の生活を理解する。
・コミュニケーションを通して人間的触れ合いをもち、基礎的介護の実践をする。

[授業全体の内容の概要]

・利用者の生活を理解する。
・心身機能の状態を理解し基礎的介護を実践する。
・介護従事者の業務内容や役割を理解する。

[授業終了時の到達目標]

・特別養護老人ホームの施設の概要や利用者の生活について理解できる。
・コミュニケーションを通して利用者との人間的触れ合いがもてる。
・利用者の心身機能の状態を理解し、基礎的介護の実践ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．施設生活の理解
①オリエンテーションを受ける
②一日のスケジュールを体験する
③各スケジュールの持つ意義と目的について話を聞く
④介護従事者の役割を見聞きする

2．利用者の心身機能の状態を理解する
①加齢や疾病の後遺症などによる心身機能の状態に応じた生活支援技術を学び、一部実践する
②コミュニケーションを通して社会的マナー、倫理、眼差しなどの基礎的知識や技術を学ぶ

3．介護関係の構築
①利用者や介護従事者への言葉かけの重要性を実際の場面から学び、実践する
②一人ひとりのコミュニケーションニーズについて理解し、利用者に対する態度や対話のあり方について自己覚知し指導を受ける
③実習記録の記入方法や内容について指導・助言を受ける

[準備学習]

①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと
②実習の手引きの実習Ⅰの関連する頁をよく読んで置くこと
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと

[使用テキスト・参考文献]

介護実習の手引き
学科内作成

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

1．記録等の提出とその内容：40%
2．実習態度：30%
3．生活支援技術：30%
＊実習記録等の提出物は実習中または実習終了後に返却する。

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅱ	（ 講義・演習・(実習) ）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	45時間・1単位	1年次・後期	必修

[授業の目的]
・利用者の心身状態や様々な生活の場における介護のあり方を見学･体験し、利用者の生活や介護方法を理解する。
・家庭を訪問し訪問介護や訪問入浴介護について理解する。
・認知症高齢者のグループホームを理解する。
・利用者の心身の障害に応じた施設介護・通所介護・訪問介護について理解する。

[授業全体の内容の概要]
・訪問介護員に同行して家庭を訪問し、訪問介護や訪問入浴介護を体験する。
・認知症高齢者グループホームの生活を体験する。
・心身の障害に応じた施設介護・通所介護・訪問介護を体験する。

[授業終了時の到達目標]
・家庭を訪問して利用者の状態やニーズに応じた訪問介護や訪問入浴介護が理解できる。
・認知症高齢者グループホームの生活リズムや自立に向けた個別のケアが理解できる。
・障害に応じた利用者の個別性を理解し､多職種協働のチームケアの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．訪問介護・訪問入浴介護の体験実習
①利用者の生活状況を把握し、生活課題に応じたサービス内容を理解する
②利用者の心身状態に応じた介護方法や工夫・留意点を学ぶ
③地域での生活を継続するために利用している他のサービスを確認し、多職種との連携を学ぶ
④利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ

2．認知症高齢者のグループホームの体験実習
①利用者の心身状態を把握し、グループホームの生活特性や地域との繋がりを学ぶ
②利用者とのコミュニケーションや趣味活動などの関わりを通して生活の楽しみを理解する
③利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ
④安全・安楽な生活継続のための生活や環境整備の工夫を学ぶ

3．障害別の施設介護・通所介護・訪問介護の体験実習
①利用者の心身状態を理解し、障害に応じたコミュニケーション技術や介護方法を学ぶ
②心身の障害に応じた利用者の生活障害の実際を学ぶ
③利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ

[準備学習]
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと
②実習の手引きの実習Ⅱの関連する頁をよく読んで置くこと
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと

[使用テキスト・参考文献]
介護実習の手引き
学科内作成

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]
1．記録等の提出とその内容：40%
2．実習態度：30%
3．生活支援技術：30%
＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅲ	（ 講義・演習・(実習)）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	180時間・4単位	2年次・前期	選択

[授業の目的]

・受け持ち利用者の生活リズムや個性を理解し、課題を明確にして介護過程を展開する。
・個別性に基づく生活支援技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

・受け持ち利用者の介護過程を展開する。
・コミュニケーションの技法と心身の活性化の知識と技術を学ぶ。
・個別性に基づく生活支援技術を学び実践する。

[授業終了時の到達目標]

・受け持ち利用者のアセスメント・介護計画作成と実施後の評価ができる。
・利用者の自立に向けた心身の活性化の技術を学び、福祉用具の利用方法や工夫ができる。
・個別性に基づく生活支援技術が習得できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．ニーズの把握と生活課題の明確化
①利用者とのコミュニケーションを通して受け持ち利用者を決定する
②生活障害に応じた個別のニーズを学ぶ
③介護計画の仕組みを実践場面から理解する
2．コミュニケーション技法
①利用者とコミュニケーションの時間と機会をつくる
②実習生同士、難しかったこと、楽しかった場面について話し合い記録をしておく
③認知症高齢者のケアにおいて、以下の項目について整理し、介護の実践を学ぶ
・利用者自身が困っていること望んでいること
・介護従事者が困難に感じていること
・周囲の人が困っていること
④介護場面における声かけ、コミュニケーションの技法、心身の活性化について学ぶ
3．生活の場におけるリハビリテーション
①介護計画において残存機能の活用や自立に向けた利用者の状態説明を受け､実践に参加をして体得する
②福祉機器や用具の活用方法を学び、その使用方法や工夫を学ぶ
③脳血管障害、慢性関節リュウマチ、脊髄損傷、内部疾患、パーキンソン病などの疾患について説明を受け、実践の場面からその介護の特性を学ぶ
4．介護技術の習得
①実習指導者の評価にもとづいて助言を受け、不十分な技術を補っていく
②食事の自立、排泄の自立など、個別ケアに対するアプローチの技術を学ぶ
5．介護計画の作成
①施設の介護計画を読み、実際例を学ぶ
②受け持ち利用者の介護計画を作成する過程において実習指導者のスーパービジョンを受ける
③介護計画に沿って実践し、その妥当性を検証する
④介護計画の作成・実施の過程を通して、多職種との協働や関係機関との連携の重要性を学ぶ

[履修にあたっての注意事項]

介護福祉関連科目を当該時期に履修していること

[準備学習]

①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと
②実習の手引きの実習Ⅲの関連する頁をよく読んで置くこと
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと

[使用テキスト・参考文献]

介護実習の手引き
ワークブック　学科内作成

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

1．記録等の提出とその内容：40%
2．実習態度：30%
3．生活支援技術：30%
＊実習記録等の提出物は、実習中または実習終了後に返却する。

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅳ	（ 講義・演習・(実習) ）	青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	135時間・3単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］
・利用者の生活の質の向上について、価値・知識・技法の視点から体系的に学ぶ。
・利用者の尊厳を守り、自立に向けた生活支援技術を習得する。
・他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・受け持ち利用者の介護計画の作成、実施後の評価、計画の修正の介護過程を展開する。
・夜間介護など介護従事者の多様な業務形態を体験する。
・グループ活動を企画し実践する。
・多職種との協働や地域社会・ボランティアとの連携を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］
・受け持ち利用者の介護計画の作成・実施後の評価・計画修正の介護過程を展開して実践できる。
・自立に向けた生活支援技術が習熟できる。
・夜間介護などを通して介護の連続性や多職種との連携を学び、チームの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。
・施設と在宅の関係を通して地域における施設ケアの役割が理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．介護過程の展開
①介護実習Ⅲで作成・実施・評価した介護計画の反省点をふまえながら作成する
②介護過程の展開において実習指導者のスーパービジョンを受け、介護計画を作成する技術や能力を高める

2．ケアカンファレンス
ケアカンファレンスに参加してその実際を体験し、医療・保健分野や利用者・家族との連携の重要性を認識する

3．夜間介護・交代勤務
①介護従事者の交代勤務、夜間の業務について説明を受け実際に体験する
②夜間介護時、排泄や睡眠などについて配慮している介護方法やコミュニケーション技術について学ぶ
③各交代勤務の業務内容の特性や連携を学ぶ

4．グループ活動・行事
①日々のグループ活動や行事に参加することで、施設職員間の計画的連携の過程や配慮すべき事柄について学ぶ
②利用者のグループ活動や行事への参加が、生活の楽しみ、残存機能の維持やQOL（生活の質）の向上につながることを学ぶ

［履修にあたっての注意事項］
介護福祉関連科目を当該時期に履修していること

［準備学習］
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと
②実習の手引きの実習Ⅳの関連する頁をよく読んで置くこと
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと

［使用テキスト・参考文献］
介護実習の手引き
ワークブック　学科内作成

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．記録等の提出とその内容：40%
2．実習態度：30%
3．生活支援技術：30%
＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	◎	判断力	◎

介護福祉科目

（こころとからだのしくみ）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
からだのしくみ	（講義・演習・実習）	戸村　成男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

[授業の目的]

人間理解や介護技術の根拠となる「からだのしくみとはたらき」を理解する。

[授業全体の内容の概要]

「からだのしくみとはたらき」について、系統的に学習し、生体の構造・機能と生命の終焉について理解を深める。

[授業終了時の到達目標]

介護職にとって保健・医療に関する基本的な知識が重要であることを体得するために、「からだのしくみとはたらき」を理解し、他職種との連携がはかれる人材となることを目指す。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．人体の構造と機能の基礎知識
2．人体の構造と機能　①循環器系(1)
3．人体の構造と機能　②循環器系(2)
4．人体の構造と機能　③呼吸器系
5．人体の構造と機能　④消化器系
6．人体の構造と機能　⑤脳と神経系(1)
7．人体の構造と機能　⑥脳と神経系(2)
8．人体の構造と機能　⑦運動器系
9．人体の構造と機能　⑧内分泌系(1)
10．人体の構造と機能　⑨内分泌系(2)
11．人体の構造と機能　⑩腎と尿路系
12．人体の構造と機能　⑪血液とそのはたらき
13．人体の構造と機能　⑫感覚器系
14．人体の構造と機能　⑬細胞の構造と機能
15．人生の終焉の支援
授業到達目標達成度の判定（期末試験）

[準備学習]

・授業の前に該当部分を指定された参考書や図書館の資料などを使い予習してくること。
・授業の後に指定された参考書や配布資料を読んで知識を整理すること。

[使用テキスト・参考文献]

・竹内修二／カラー図解人体解剖の基本がわかる事典／西東社
・人体の構造と機能（解剖生理学）／メディカ出版

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

評価基準（受講態度および筆記試験による総合評価）
1．提出物　20%
2．期末試験　80%

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こころのしくみ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

人間を理解し、介護実践の根拠となる「こころのしくみとはたらき」について理解する。

［授業全体の内容の概要］

人間が持つ「こころのしくみとはたらき」について、基礎的な知識を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

1．介護を必要とする人の「こころのしくみとはたらき」を述べることができる。
2．介福祉の対人援助者として「こころのしくみとはたらき」を適切な介護実践につなげ具体的に説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．「こころのしくみ」を理解する必要性と意義
2．脳のつくりと働きの理解
3．こころと脳のつながり１：こころの理解・こころを作り出す脳
4．こころと脳のつながり２：感覚のしくみ
5．こころと脳のつながり３：知覚のしくみ
6．こころと脳のつながり４：認知のしくみ①
7．こころと脳のつながり５：認知のしくみ②
8．こころと脳のつながり６：認知のしくみ③
9．人間の行動を引き起こすこころのしくみ１：動機づけのしくみ
10．人間の行動を引き起こすこころのしくみ２：感情のしくみ
11．社会的人間としてのこころのしくみ１：自分を守るこころのしくみ①
12．社会的人間としてのこころのしくみ２：自分を守るこころのしくみ②
13．社会的人間としてのこころのしくみ３：社会性を引き出すこころ①
14．社会的人間としてのこころのしくみ４：社会性を引き出すこころ②
15．社会的人間としてのこころのしくみ５：自己概念、生きることの意味
学力考査

［準備学習］

1．先ずは自分自身のこころのはたらきを意識する。2．他者のこころのはたらきにも関心を持って授業に臨むことで、授業内容について理解を深める。3．脳と心についてテキストを読んで予習する。4．5．脳と心について授業後内容を整理する。6．認知のしくみについてテキストを読んで予習する。7．8．認知のしくみについて授業後内容を整理する。9．動機づけのしくみについてテキストを読んで予習する。10．人間の行動を引き起こすこころのしくみについて授業後内容を整理する。11．自分を守るこころのしくみについてテキストを読んで予習する。12．自分を守るこころのしくみについて授業後内容を整理する。13．社会性を引き出すこころついてテキストを読んで予習する。14．社会性を引き出すこころついて業後内容を整理する。15．自己概念、生きることの意味ついて業後内容を整理する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成講座　14「こころとからだのしくみ」　中央法規
参考文献：授業時に提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．（関心・意欲・態度）：グループワーク・発表など　10%
2．（思考・判断）：課題シート　10%
3．（知識・理解）：小テスト　20%
学力考査　60%・課題、テストは解説し返却する

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	△	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	（講義・演習・実習）	鄭　春姫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

食事、排泄、移動に関連したこころとからだのしくみを理解し、機能低下による安全や心理面への配慮を習得する。

［授業全体の内容の概要］

食事、排泄、移動の身体的、精神的、社会的意義・目的と機能低下による影響と対応を理解する。

［授業終了時の到達目標］

・食事、排泄、移動に関連するこころとからだのしくみや機能低下による影響について理解する。
・介護が必要な人への理解や介護を行うための根拠につなげることができる。
・生活支援上のリスクを予測することができる。
・生活支援技術を展開する基礎知識に意欲をもち、身に着けることができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．食事に関連したこころとからだのしくみ
　①食事の意義と目的
2．②食べる仕組みと食欲・美味しさを感じる仕組み
3．③機能低下が及ぼす食事への影響
4．④食欲不振や嚥下困難、脱水などの原因と観察・日常生活の援助のポイント
　⑤経管栄養、点滴輸液についての医療的処置・管理についての基礎的知識
5．排泄に関連したこころとからだのしくみ
　①排泄の意義と目的
　②排便・排尿の仕組みと自己の尊厳を貫きたい排泄習慣
6．③機能低下が及ぼす排泄の影響
7．④尿失禁・尿閉・下痢・便秘・腹痛などの原因と観察・日常生活の援助のポイント
8．⑤尿道カテーテル装着者、人工肛門装着者についての医療的処置・管理についての基礎的知識
9．移動に関連したこころとからだのしくみ
　①移動の身体的、精神的、社会的意義と目的
10．②機能低下が及ぼす移動への影響
11．③歩行・立ち上がり・起きあがり・寝返りについての移動につながる関節と骨格筋の機能
12．③歩行・立ち上がり・起きあがり・寝返りについての移動につながる関節と骨格筋の機能
13．④移動からみた食事・排泄・入浴の介助
14．④移動からみた食事・排泄・入浴の介助
15．⑤転倒・転落などの原因と観察・対応のポイント
　⑥介護予防に役立つ体操とその知識
定期試験、提出課題（ワークシート、レポート等）

［準備学習］

1．授業の前に自分の一日の食事の栄養素の種類・内容・主な食品を整理しておく。2．授業の前に摂食・嚥下の五分類と内容についてまとめておく。3．授業の後に心身の機能低下による食事に関する影響を整理する。4．授業の後に高齢者の脱水の特徴、症状、早期発見のポイントをまとめる。5．授業の前に便の生成、尿の生成について読んでおく。6．授業の前に自分の飲水・排尿日誌を三日間つけておく。7．授業の後に排尿・排便の正常と異常について整理する。8．授業の前に尿道カテーテル装着者、人工肛門装着者に対する医療的処置・管理について読んでおく。9．授業の前に移動が心身にもたらす効果について整理しておく。10．授業の後に疾患に伴う機能低下についてまとめる。11．授業の前に体位交換をするためのしくみについて整理しておく。（寝返り動作・側臥位から座位・座位から立位）12．授業の前に歩行・車椅子を動かすためのしくみについてまとめておく。13．授業の前に機能低下・障害が及ぼす活動・移動への影響を読んでおく。14．授業の後に移動方法にあった福祉用具の選択や介護法を整理する。15．授業の後に廃用症候群の対応と予防法について整理し提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成講座　14「こころとからだのしくみ」中央法規
参考文献：授業に合わせて資料を配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①定期試験：60％
②受講態度（グループワーク等）：20％
③小テスト・課題：20％
課題・小テストは返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	（講義・演習・実習）	林　雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	必修

［授業の目的］

入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみと機能低下による影響ならびに、死にゆく人のこころとからだの変化を理解し、安全への留意点や心理的側面への配慮を修得する。

［授業全体の内容の概要］

入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息についての身体的、精神的、社会的意義・目的と、こころとからだの機能低下による影響とその対応方法を理解し、ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解し、安全への留意点や心理的側面への配慮を修得する。

［授業終了時の到達目標］

・入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみと機能低下による影響ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解する。
・介護に必要は人への理解や介護を行うための根拠に繋げることができる。
・生活支援を行う上で、リスクを予測することができる。
・生活支援技術を展開する基礎を身に付けることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：「こころとからだのしくみ」を理解する必要性と意義
2．身じたくに関連したこころとからだのしくみ　①身じたくの身体的、精神的、社会的意義・目的
3．身じたくに関連したこころとからだのしくみ　②機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響
4．身じたくに関連したこころとからだのしくみ　③機能低下に応じた口腔ケアと口腔機能向上のトレーニングの仕方
5．睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみ　①身体的、精神的、社会的意義・目的
6．睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみ　②不眠についてのタイプ、原因、心身への影響
7．睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみ　③睡眠・休息の方法と睡眠導入時の留意点
8．入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　①身体的、精神的、社会的意義・目的
9．入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　②機能の低下、障害が及ぼす影響
10．入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　③こころとからだの観察と変化の気づき
11．入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　④入浴・清潔保持に関連した医療職との連携
12．死にゆく人のこころとからだのしくみ　①生と死の意味と生活支援の実践価値
13．死にゆく人のこころとからだのしくみ　②終末期の定義、判断と利用者家族の意向に沿ったターミナルケア
14．死にゆく人のこころとからだのしくみ　③終末期の生命兆候と観察のポイント
15．死にゆく人のこころとからだのしくみ　④ターミナルケアにおける介護福祉士の役割

［準備学習］

・授業の前・後にテキストの該当部分を読み、予習・復習をしておいてください。
・前回の授業内容を配布された資料で振り返っておいてください。
・授業の後にノートや配布資料を整理しておいてください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成講座14　こころとからだのしくみ　第3版　中央法規
参考文献：授業に合わせて資料を配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①期末試験60％
②課題レポート提出20％
③小テスト20％
①試験終了後に講評・解説をします。②課題レポートは評価し返却します。③小テストは解説し返却します。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	◎	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだ特別講義	（講義・演習・実習）	青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

[授業の目的]
・高齢者・障がい者・認知症を持った人に関連したこころとからだのしくみを理解し、機能低下による安全や心理面への配慮を習得する
・専門職としての必要な視点、基本的知識、技術について学ぶ

[授業全体の内容の概要]
・「からだのしくみとはたらき」について、系統的に学習し、生体の構造・機能と生命の終焉について理解を深める。人間が持つ「こころのしくみとはたらき」について、基礎的な知識を学ぶ。
・食事、排泄、移動・入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみと機能低下による影響ならびに死にゆく人のこころとからだの変化及びその対応を理解する。

[授業終了時の到達目標]
・介護職にとって保健・医療に関する基本的な知識が重要であることを体得し、他職種との連携がはかれる人材となることを目指す。
・介護を必要とする人の「こころのしくみとはたらき」を理解し、介護福祉の対人援助者として「こころのしくみとはたらき」を適切な介護実践につなげることができる。
・食事、排泄、移動・入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみと機能低下による影響ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解し、対応できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．オリエンテーション
2．人間の成長と発達の基礎的理解
3．老年期の発達と成熟及び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
4．認知症を取り巻く状況
5．医学的側面から見た認知症の基礎
6．認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
7．認知症支援における連携と協働及び家族への支援
8．障害の基礎的理解及び医学的側面の基礎的知識
9．障害者支援における連携と協働及び家族への支援
10．こころのしくみの理解
11．からだのしくみの理解
12．身じたく・移動・食事・入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ
13．排泄・睡眠・終末期に関連したこころとからだのしくみ
14．医療的ケア実施の基礎
15．喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）及び経管栄養（基礎的知識・実施手順）
期末テスト

[準備学習]
①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

[使用テキスト・参考文献]
テキスト：
・新・介護福祉士養成講座14　こころとからだのしくみ　中央法規
・新・介護福祉士養成講座11巻　発達と老化の理解　中央法規
・新・介護福祉士養成講座12巻　認知症の理解　中央法規
・新・介護福祉士養成講座13巻　障害の理解　中央法規
・介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア　建帛社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]
・定期試験：60%
・授業態度・課題提出状況：20%
・小テスト、中間テスト：20%
※期末テスト・小テストは返却時に講評する。
※提出物はコメントを記し返却する。

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	○	判断力	◎

授業科目名	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅰ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

生涯発達の観点から加齢（老化）について理解することを目的とする。また、加齢（老化）に伴うこころとからだの変化に関する基礎的知識を習得し、高齢者の健康と心理について、高齢者の疾病や生活支援上の留意点を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①人間の成長と発達を理解するために、生涯発達心理学の基礎的知識（発達段階や発達課題など）について学ぶ。
②老年期の発達と成熟について、老年期の定義や発達課題を中心に学ぶ。
③加齢（老化）に伴う心身の機能の変化や、それらが及ぼす日常生活への影響について学ぶ。
④高齢者の心理について、事例を交えながら学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・人間の発達と加齢（老化）による心身の変化について説明できる。
・高齢者に多い疾患や心身の不調を記述することができる。
・高齢者の介護予防や日常の生活支援での留意点を具体的に述べることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：人間の「発達と老化」を理解する必要性と意義
2．人間の成長と発達の基礎的理解：発達の定義、発達の段階、発達課題
3．老年期の発達と成熟1：老年期の定義、超高齢期の心理と個人差
4．老年期の発達と成熟2：老年期の人格と尊厳の理解
5．老年期の発達と成熟3：老いの価値観、喪失体験
6．老化に伴うこころと体の変化の特徴1：心身の老化による変化の理解
7．老化に伴うこころと体の変化の特徴2：心身の老化の回復力・適応力の変化
8．老化に伴うこころと体の変化と日常生活1：身体的機能の変化と日常生活への影響
9．老化に伴うこころと体の変化と日常生活2：知的、認知機能の変化と日常生活への影響
10．老化に伴うこころと体の変化と日常生活3：精神的機能の変化と日常生活への影響
11．高齢者の心理1：要介護による高齢者の心理
12．高齢者の心理2：マズローの欲求段階説の理解と自己実現
13．高齢者の心理3：不適応状態を緩和する心理の理解
14．高齢者の心理4：環境の変化による心理的変化の理解
15．高齢者の心理5：事例に基づいた高齢者の心理の理解
学力考査

［準備学習］

①授業の前に「発達とは」についてテキスト読んでくること。②授業の後にスカモンの発達曲線から生理的な発達を整理する。③授業の後に人間の発達段階と発達課題を表にまとめて提出する。④授業の前にP・ムーアの体験記を読み、高齢者像を整理してくる。⑤授業の前に老化とパーソナリティーに関する代表的な学説を整理してくる。⑥授業の後に実際に高齢者の話を聴いて、内容をまとめ提出する。⑧授業の後に老化による身体的変化と心理的な影響について表にまとめる。⑨授業の後に老化が認知機能に影響を及ぼす心身機能の変化と、その対応のあり方についてまとめる。⑩授業の後に精神的健康の要件五つについて具体的にまとめる。⑪授業の前に要介護による高齢者の心理を読んでくる。⑫授業の前に要介護状態により自己実現を阻害すること、また自己実現を果たしている例など調べ集めてくる。⑬授業の前に要介護による不適応を緩和するための高齢者の心理についての留意点をまとめてくる。⑭授業の前に加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響についてまとめてくる。⑮授業の後に高齢者の心の健康を阻害する要因と支援方法をまとめて提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成講座11巻『発達と老化の理解』中央法規出版
（参考資料）授業に合わせて資料を配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

・（関心・意欲・態度）：発表など：10%
・（思考・判断）：課題シート：10%
・（知識・理解）：小テスト：20%
・学力考査：60%
試験類は解説後、レポートは評価して返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	△	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅰ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

生涯発達の観点から加齢（老化）について理解することを目的とする。また、加齢（老化）に伴うこころとからだの変化に関する基礎的知識を習得し、高齢者の健康と心理について、高齢者の疾病や生活支援上の留意点を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①人間の成長と発達を理解するために、生涯発達心理学の基礎的知識（発達段階や発達課題など）について学ぶ。
②老年期の発達と成熟について、老年期の定義や発達課題を中心に学ぶ。
③加齢（老化）に伴う心身の機能の変化や、それらが及ぼす日常生活への影響について学ぶ。
④高齢者の心理について、事例を交えながら学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・人間の発達と加齢（老化）による心身の変化について説明できる。
・高齢者に多い疾患や心身の不調を記述することができる。
・高齢者の介護予防や日常の生活支援での留意点を具体的に述べることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：人間の「発達と老化」を理解する必要性と意義
2．人間の成長と発達の基礎的理解：発達の定義、発達の段階、発達課題
3．老年期の発達と成熟1：老年期の定義、超高齢期の心理と個人差
4．老年期の発達と成熟2：老年期の人格と尊厳の理解
5．老年期の発達と成熟3：老いの価値観、喪失体験
6．老化に伴うこころと体の変化の特徴1：心身の老化による変化の理解
7．老化に伴うこころと体の変化の特徴2：心身の老化の回復力・適応力の変化
8．老化に伴うこころと体の変化と日常生活1：身体的機能の変化と日常生活への影響
9．老化に伴うこころと体の変化と日常生活2：知的、認知機能の変化と日常生活への影響
10．老化に伴うこころと体の変化と日常生活3：精神的機能の変化と日常生活への影響
11．高齢者の心理1：要介護による高齢者の心理
12．高齢者の心理2：マズローの欲求段階説の理解と自己実現
13．高齢者の心理3：不適応状態を緩和する心理の理解
14．高齢者の心理4：環境の変化による心理的変化の理解
15．高齢者の心理5：事例に基づいた高齢者の心理の理解
学力考査

［準備学習］

①授業の前に「発達とは」についてテキスト読んでくること。②授業の後にスカモンの発達曲線から生理的な発達を整理する。③授業の後に人間の発達段階と発達課題を表にまとめて提出する。④授業の前にP・ムーアの体験記を読み、高齢者像を整理してくる。⑤授業の前に老化とパーソナリティーに関する代表的な学説を整理してくる。⑥授業の後に実際に高齢者の話を聴いて、内容をまとめ提出する。⑧授業の後に老化による身体的変化と心理的な影響について表にまとめる。⑨授業の後に老化が認知機能に影響を及ぼす心身機能の変化と、その対応のあり方についてまとめる。⑩授業の後に精神的健康の要件五つについて具体的にまとめる。⑪授業の前に要介護による高齢者の心理を読んでくる。⑫授業の前に要介護状態により自己実現を阻害すること、また自己実現を果たしている例など調べ集めてくる。⑬授業の前に要介護による不適応を緩和するための高齢者の心理についての留意点をまとめてくる。⑭授業の前に加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響についてまとめてくる。⑮授業の後に高齢者の心の健康を阻害する要因と支援方法をまとめて提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新・介護福祉士養成講座11巻『発達と老化の理解』中央法規出版
（参考資料）授業に合わせて資料を配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

・（関心・意欲・態度）：発表など：10%
・（思考・判断）：課題シート：10%
・（知識・理解）：小テスト：20%
学力考査：60%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	△	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	戸村　成男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

介護実践に必要な知識という観点から、老化に伴う身体機能の変化や疾病の特徴および介護のポイントを学習させる。

［授業全体の内容の概要］

老化に伴う高齢者の生活障害や高齢者の疾病の特徴を系統的に学び、高齢者の観察の仕方と介護のポイントを的確に身に付けさせる。

［授業終了時の到達目標］

介護職にとって保健・医療に関する基本的な知識が重要であることを体得するために、高齢者の生活障害や高齢者の疾病の特徴を系統的に学び、高齢者の観察の仕方と介護のポイントを的確に身に付けることを目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．老化に伴う心身の変化の基礎知識
2．高齢者の病気と症状および介護のポイント　①高血圧症
3．高齢者の病気と症状および介護のポイント　②肺炎
4．高齢者の病気と症状および介護のポイント　③メタボリックシンドロームと痛風
5．高齢者の病気と症状および介護のポイント　④脂質異常症
6．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑤糖尿病
7．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑥動脈硬化症
8．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑦脳血管障害（脳卒中）
9．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑧虚血性心疾患
10．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑨慢性腎臓病（CKD）
11．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑩尿路感染症・前立腺疾患
12．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑪神経難病（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など）
13．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑫感染症の基礎知識
14．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑬感染症の対策
15．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑭高齢者の運動器の障害
授業到達目標達成度の判定

［準備学習］

・毎回、授業の前に資料を配布する。それらを中心に使用して授業をすすめる。
・授業の後に配布資料やノートを整理し、参考図書を読み返すとさらに学習の理解が深まる。

［使用テキスト・参考文献］

・病気がみえる／メディックメディア社
・竹内修二／カラー図解人体解剖の基本がわかる事典／西東社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

評価基準（受講態度および筆記試験による総合評価）
1．提出物　20%
2．期末試験　80%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	戸村　成男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

介護実践に必要な知識という観点から、老化に伴う身体機能の変化や疾病の特徴および介護のポイントを学習させる。

［授業全体の内容の概要］

老化に伴う高齢者の生活障害や高齢者の疾病の特徴を系統的に学び、高齢者の観察の仕方と介護のポイントを的確に身に付けさせる。

［授業終了時の到達目標］

介護職にとって保健・医療に関する基本的な知識が重要であることを体得するために、高齢者の生活障害や高齢者の疾病の特徴を系統的に学び、高齢者の観察の仕方と介護のポイントを的確に身に付けることを目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．老化に伴う心身の変化の基礎知識
2．高齢者の病気と症状および介護のポイント　①高血圧症
3．高齢者の病気と症状および介護のポイント　②肺炎
4．高齢者の病気と症状および介護のポイント　③メタボリックシンドロームと痛風
5．高齢者の病気と症状および介護のポイント　④脂質異常症
6．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑤糖尿病
7．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑥動脈硬化症
8．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑦脳血管障害（脳卒中）
9．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑧虚血性心疾患
10．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑨慢性腎臓病（CKD）
11．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑩尿路感染症・前立腺疾患
12．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑪神経難病（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など）
13．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑫感染症の基礎知識
14．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑬感染症の対策
15．高齢者の病気と症状および介護のポイント　⑭高齢者の運動器の障害
授業到達目標達成度の判定

［準備学習］

・毎回、授業の前に資料を配布する。それらを中心に使用して授業をすすめる。
・授業の後に配布資料やノートを整理し、参考図書を読み返すとさらに学習の理解が深まる。

［使用テキスト・参考文献］

・病気がみえる／メディックメディア社
・竹内修二／カラー図解人体解剖の基本がわかる事典／西東社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

評価基準（受講態度および筆記試験による総合評価）
1．提出物　20%
2．期末試験　80%

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅰ	（講義・演習・実習）	林　雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修

[授業の目的]

認知症に関する心理的、社会的及び医学的な基礎知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

認知症を理解するために、主に次の3点について学ぶ。

①認知症を取り巻く状況について
②医学的側面からみた認知症の知識について
③認知症の人の心理的理解について

[授業終了時の到達目標]

認知症を取り巻く状況や、認知症の人の心理・行動的特徴を正しく理解できるようになり、本人および家族に対して適切な判断の基、介護実践を行えるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション：認知症を理解する必要性と意義
2．認知症を取り巻く状況1：認知症ケアの歴史
3．認知症を取り巻く状況2：認知症ケアの理念と本人本位の視点
4．認知症の人の行動・心理的理解1：認知症の人の行動・心理症状①
5．認知症の人の行動・心理的理解2：認知症の人の行動・心理症状②
6．認知症の人の行動・心理的理解3：脳のしくみ
7．認知症の人の行動・心理的理解4：認知症に類似した状態
8．認知症の人の行動・心理的理解5：認知症の原因疾患①
9．認知症の人の行動・心理的理解6：認知症の原因疾患②
10．認知症の人の行動・心理的理解7：認知症の診断と治療①
11．認知症の人の行動・心理的理解8：認知症の診断と治療②
12．認知症の人の行動・心理的理解9：認知症の診断と治療③
13．認知症の人の行動・心理的理解10：認知症の予防
14．認知症の人の行動・心理的理解11：認知症の人の心理的理解①
15．認知症の人の行動・心理的理解12：認知症の人の心理的理解②
授業到達目標達成度判定の定期試験

[準備学習]

・授業の前・後にテキストの該当部分を読み、予習・復習をしておいてください。
・前回の授業内容を配布された資料で振り返っておいてください。
・授業の後にノートや配布資料を整理しておいてください。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：新・介護福祉士養成講座　12　認知症の理解（中央法規）
参考文献：新・介護福祉士養成講座　14　こころとからだのしくみ（中央法規）

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

①期末試験　60%
②課題レポート提出　20%
③小テスト　20%
①試験終了後に講評・解説をします。②課題レポートは評価し返却します。③小テストは解説し返却します。

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅰ	（講義・演習・実習）	林　雅美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

[授業の目的]

認知症に関する心理的、社会的及び医学的な基礎知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

認知症を理解するために、主に次の3点について学ぶ。

①認知症を取り巻く状況について
②医学的側面からみた認知症の知識について
③認知症の人の心理的理解について

[授業終了時の到達目標]

認知症を取り巻く状況や、認知症の人の心理・行動的特徴を正しく理解できるようになり、本人および家族に対して適切な判断の基、介護実践を行えるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション：認知症を理解する必要性と意義
2．認知症を取り巻く状況1：認知症ケアの歴史
3．認知症を取り巻く状況2：認知症ケアの理念と本人本位の視点
4．認知症の人の行動・心理的理解1：認知症の人の行動・心理症状①
5．認知症の人の行動・心理的理解2：認知症の人の行動・心理症状②
6．認知症の人の行動・心理的理解3：脳のしくみ
7．認知症の人の行動・心理的理解4：認知症に類似した状態
8．認知症の人の行動・心理的理解5：認知症の原因疾患①
9．認知症の人の行動・心理的理解6：認知症の原因疾患②
10．認知症の人の行動・心理的理解7：認知症の診断と治療①
11．認知症の人の行動・心理的理解8：認知症の診断と治療②
12．認知症の人の行動・心理的理解9：認知症の診断と治療③
13．認知症の人の行動・心理的理解10：認知症の予防
14．認知症の人の行動・心理的理解11：認知症の人の心理的理解①
15．認知症の人の行動・心理的理解12：認知症の人の心理的理解②
授業到達目標達成度判定の定期試験

[準備学習]

・授業の前・後にテキストの該当部分を読み、予習・復習をしておいてください。
・前回の授業内容を配布された資料で振り返っておいてください。
・授業の後にノートや配布資料を整理しておいてください。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：新・介護福祉士養成講座　12　認知症の理解（中央法規）
参考文献：新・介護福祉士養成講座　14　こころとからだのしくみ（中央法規）

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

①期末試験　60%
②課題レポート提出　20%
③小テスト　20%
①試験終了後に講評・解説をします。②課題レポートは評価し返却します。③小テストは解説し返却します。

[学位授与方針との関係]	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	◎	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

認知症の理解Ⅰを踏まえ、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。それに伴い必要とする心理的・身体的・社会的ケアについての基礎知識を理解する。家族を含めた周囲の環境にも配慮し地域との連携のための介護視点を修得する。

［授業全体の内容の概要］

認知症高齢者の特徴的な心理、行動を理解する為に、事例を交えながら、グープワークなどで対応法を学ぶ。さらに家族への支援や地域との連携についても視野を広め、今日的な認知症を取り巻く介護の現状や課題を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・認知症の人や家族を深く理解し、心理的・身体的・社会的な支援や協力に在り方について述べることができる。
・認知症が生活に及ぼす影響について説明できる。
・認知症の人への対応の方法、留意点について説明することができる。
・認知症の人にあった本人主体の介護方法を具体的に説明することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1.「認知症の理解Ⅰ」の振り返り、認知症の疾患による特徴や症状などの再確認
2. 認知症に伴うこころと身体の変化と日常生活1（認知機能の変化が、生活に及ぼす影響）
3. 認知症に伴うこころと身体の変化と日常生活2（環境変化が認知症に与える影響）
4. 認知症に伴うこころと身体の変化と日常生活3（生活の環境へのアセスメント）
5. 認知症の進行に応じた介護1（初期・中期の変化）
6. 認知症の進行に応じた介護2（後期・ターミナル期の変化）
7. 認知症の人の日常生活への支援1（食事・排泄へのケア）
8. 認知症の人の日常生活への支援2（入浴・衣類着脱・身だしなみへのケア）
9. 若年性認知症の人への理解1（若年性認知症の人とその家族が直面している状況）
10. 若年性認知症の人への理解2（若年性認知症への生活支援）
11. 認知症の人への生活支援（事例から考える1）
12. 認知症の人への生活支援（事例から考える2）
13. 家族への支援・チームアプローチ（家族の介護力の評価、レスパイトケア）
14. 地域との連携・社会資源の活用（認知症の人が地域で生活を続けていけるような地域づくり）
15. 認知症に関する制度（認知症に関する施策）

学力考査

［準備学習］

①授業の前に既習科目「認知症の理解Ⅰ」の振り返りをしておくこと。②授業の前に認知症ケアはなぜ「人」「生活」に焦点を当てる必要性があるのかを読み、必要な支援をまとめておく。③授業の後に認知症をめぐる三つの環境要素の効果を整理する。④授業の後に認知症の生活環境のアセスメントを整理する。⑤授業の後に認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化をまとめておく。（初期・中期）⑥授業の後に認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化をまとめておく。（後期・ターミナル期）⑦認知症の人へのかかわりの基本を読んでおく。⑧授業の後に認知症の人の生活支援の事例からのまとめを提出すること。⑨自分の住んでいる地区における、認知症サポート体制を調べておく。⑩地域で支援されている認知症の人が、どのような職種や資源に支えられているか図をつくり、アプーチのポイントをまとめておく。⑪授業の前に認知症の人の生活支援の事例を集めておくこと。⑫授業の後に認知症の人の生活支援の方法を整理する。⑬授業の後に認知症の人の家族の心理と支援の方法を整理する。⑭授業の後に地域の認知症高齢者の安全を守るサポート体制のまとめを提出すること。⑮授業の後に認知症の人への支援対策について整理する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：新　介護福祉士養成講座　認知症の理解
　中央法規
（参考資料）
授業に合わせて資料を配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

・（関心・意欲・態度）：発表など：10%
・（思考・判断）：課題シート：10%
・（知識・理解）：小テスト：20%
　学力考査：60%
課題・テスト類は解説し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	○	態度・倫理	△	判断力	△

授業科目名	授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅰ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］
・ICF やノーマライゼーションなど、障害児・者の福祉に関して基礎となる概念を習得する。
・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識、医学的基礎知識を習得する。
・障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・障害の概念、障害者福祉の基礎理念を学び、障害について基礎的理解を深める。
・身体障害、難病について、種類・原因・特性などについて医学的側面からの基礎的理解を深める。
・身体障害、難病について、心理・機能変化に伴う日常生活への影響を学び、家族への支援、地域における連携と協働の実際ついて理解を深める。

［授業終了時の到達目標］
・障害の概念、障害者福祉の基礎的理念と発生の背景を理解できる。
・身体障害・難病について、医学的側面の知識をもち、心理、機能変化に伴う日常生活への影響を理解できる。
・身体障害、難病について、本人のみならず、家族を含めた支援の実際、地域における連携について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．障害の基礎的理解①　障害の概念とは
2．障害の基礎的理解②　障害者福祉の基本理念
〈身体障害の理解と支援〉
3．身体障害について医学的側面からの基礎的知識①　視覚障害
4．身体障害について医学的側面からの基礎的知識②　聴覚障害・言語機能の障害
5．身体障害について医学的側面からの基礎的知識③　肢体不自由
6．身体障害について医学的側面からの基礎的知識④　内部障害
7．身体障害のある人の心理
8．身体障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
9．地域における連携と協働
10．家族への支援
〈難病の理解と支援〉
11．難病の種類と特性
12．難病のある人の心理
13．難病に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
14．地域における連携と協働
15．家族への支援
〈試験〉

［準備学習］
①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
「障害の理解」中央法規
参考文献：
「障害の理解」建帛社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：30%
3．受講態度：10%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評します
＊提出物はコメントを記し返却します

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］
・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識、医学的基礎知識を習得する。
・障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・知的障害・精神障害・発達障害について、種類・原因・特性などについて医学的側面からの基礎的理解を深める。
・知的障害・精神障害・発達障害について、心理・機能変化に伴う日常生活への影響を学び、家族への支援、地域における連携と協働の実際ついて理解を深める。

［授業終了時の到達目標］
・知的障害・精神障害・発達障害について、医学的側面の知識をもち、心理、機能変化に伴う日常生活への影響を理解できる。
・知的障害・精神障害・発達障害について本人のみならず、家族を含めた支援の実際、地域における連携について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．障害者福祉の基本理念
［精神障害］
2．障害の医学的側面の基礎的知識⑴精神障害の種類と原因と特性
3．障害の医学的側面の基礎的知識⑵障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
4．連携と協力
5．家族への支援
［知的障害］
6．障害の医学的側面の基礎的知識⑶知的障害の種類と原因と特性
7．障害の医学的側面の基礎的知識⑷障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
8．連携と協力
9．家族への支援
［発達障害］
10．障害の医学的側面の基礎的知識⑸知的障害の種類と原因と特性
11．障害の医学的側面の基礎的知識⑹障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
12．連携と協力
13．家族への支援
14．障害のある人の心理（心理的影響、受容）
15．障害のある人の心理（適応と適応規制）
〈試験〉

［準備学習］
①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
「障害の理解」中央法規
参考文献：
「障害の理解」建帛社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：30%
3．受講態度：10%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評します
＊提出物はコメントを記し返却します

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅱ	（講義・演習・実習）	岡田　圭祐

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］
・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識、医学的基礎知識を習得する。
・障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

［授業全体の内容の概要］
・知的障害・精神障害・発達障害について、種類・原因・特性などについて医学的側面からの基礎的理解を深める。
・知的障害・精神障害・発達障害について、心理・機能変化に伴う日常生活への影響を学び、家族への支援、地域における連携と協働の実際ついて理解を深める。

［授業終了時の到達目標］
・知的障害・精神障害・発達障害について、医学的側面の知識をもち、心理、機能変化に伴う日常生活への影響を理解できる。
・知的障害・精神障害・発達障害について本人のみならず、家族を含めた支援の実際、地域における連携について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．障害者福祉の基本理念
［精神障害］
2．障害の医学的側面の基礎的知識⑴精神障害の種類と原因と特性
3．障害の医学的側面の基礎的知識⑵障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
4．連携と協力
5．家族への支援
［知的障害］
6．障害の医学的側面の基礎的知識⑶知的障害の種類と原因と特性
7．障害の医学的側面の基礎的知識⑷障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
8．連携と協力
9．家族への支援
［発達障害］
10．障害の医学的側面の基礎的知識⑸知的障害の種類と原因と特性
11．障害の医学的側面の基礎的知識⑹障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護
12．連携と協力
13．家族への支援
14．障害のある人の心理（心理的影響、受容）
15．障害のある人の心理（適応と適応規制）
〈試験〉

［準備学習］
①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと
③授業後にノートや配布資料を整理すること

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
「障害の理解」中央法規
参考文献：
「障害の理解」建帛社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
1．期末テスト：60%
2．提出物・小テスト：30%
3．受講態度：10%
＊期末テスト・小テストは返却時に講評します
＊提出物はコメントを記し返却します

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

介護福祉科目

（医療的ケア）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅠ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
17回	34時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］
介護福祉士として必要な医療的ケアを、安全かつ適切に行うための基礎的な知識・技術を修得する。

［授業全体の内容の概要］
施設あるいは在宅で生活する高齢者や障害害児・者が、医療的ケア（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部からの吸引および経管栄養）が必要になった場合、医療職との連携のもとで、介護職として医療的ケアの実施に必要な法制度や倫理、関連職種の役割と連携の重要性を理解し、基本的な知識・技術を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］
・利用者とその家族の尊厳を守り、倫理観の確立し、チームとして医療と連携することをの必要性を述べることができる。
・安全な療養生活に必要なケアに関するリスクマネジメントについて説明することができる。
・呼吸のしくみ、痰の吸引の必要性、感染予防など「喀痰吸引」に関する知識と実施手順を具体的に説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．人間と社会　個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解
2．保健医療制度とチーム医療　保健医療に関するする制度、医行為に関係する法律、チーム医療と介護職員との連携
3．安全な療養生活①　喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
4．安全な療養生活②　救急蘇生法
5．安全な療養生活③　救急蘇生法の実際
6．清潔保持と感染予防①　感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法
7．清潔保持と感染予防②　滅菌と消毒
8．健康状態の把握①　身体・精神の健康、健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
9．健康状態の把握②　バイタルサインとその見方、急変について
10．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論①　呼吸のしくみとはたらき
11．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論②　いつもと違う呼吸状態、喀痰吸引とは
12．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論③　喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引
13．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論④　人工呼吸器と吸引
14．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑤　人工呼吸器と吸引、子供の吸引について
15．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑥　吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、吸引の実施に関する説明と同意
呼吸器系の感染と予防（吸引と関係して）
16．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑦　吸引により生じる危険、事後の安全確認
急変・事故発生の対応と事前対策
17．まとめと復習
学力考査

［準備学習］
①介護と医療の倫理上の原則を読んでくる。②介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」を行うようになった背景について要約する。③リスクマネジメントの考え方、ヒヤリハット・アクシデントについて読んでくる。④⑤救急蘇生法のポイントについてまとめてくる。⑥感染経路の種類と対策についてまとめてくる。⑦滅菌と消毒の違いと方法について読んでくる。⑧⑨朝起きたときに体温と脈拍を測定し、一週間分記録する。⑩呼吸のしくみとはたらきについてまとめる。⑪呼吸状態の観察についてまとめる。⑫⑬人工呼吸器の種類と内容について読んでくる。⑭子供の吸引を安全に実施するための留意点についてまとめる。⑯喀痰吸引にともなう感染予防をするための留意点についてまとめる。⑰緊急を要する状態を整理し、医療職との連携方法をまとめる。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年参考文献：「新版医療的ケア研修テキスト重症児者の教育･福祉･社会的生活の援助のために」北住映二編、クリエイツかもがわ2012年

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
・学力考査（知識・理解）：60％
・小テスト（知識・理解）・課題レポート：20％
・授業参加・提出物等(態度・関心・意欲)：20％
試験類は解説後、レポートも評価し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅠ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
17回	34時間・2単位	1年次・後期	選択

［授業の目的］
介護福祉士として必要な医療的ケアを、安全かつ適切に行うための基礎的な知識・技術を修得する。

［授業全体の内容の概要］
施設あるいは在宅で生活する高齢者や障害害児・者が、医療的ケア（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部からの吸引および経管栄養）が必要になった場合、医療職との連携のもとで、介護職として医療的ケアの実施に必要な法制度や倫理、関連職種の役割と連携の重要性を理解し、基本的な知識・技術を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］
・利用者とその家族の尊厳を守り、倫理観の確立し、チームとして医療と連携することをの必要性を述べることができる。
・安全な療養生活に必要なケアに関するリスクマネジメントについて説明することができる。
・呼吸のしくみ、痰の吸引の必要性、感染予防など「喀痰吸引」に関する知識と実施手順を具体的に説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．人間と社会　個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解
2．保健医療制度とチーム医療　保健医療に関するする制度、医行為に関係する法律、チーム医療と介護職員との連携
3．安全な療養生活①　喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
4．安全な療養生活②　救急蘇生法
5．安全な療養生活③　救急蘇生法の実際
6．清潔保持と感染予防①　感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法
7．清潔保持と感染予防②　滅菌と消毒
8．健康状態の把握①　身体・精神の健康、健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
9．健康状態の把握②　バイタルサインとその見方、急変について
10．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論①　呼吸のしくみとはたらき
11．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論②　いつもと違う呼吸状態、喀痰吸引とは
12．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論③　喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引
13．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論④　人工呼吸器と吸引
14．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑤　人工呼吸器と吸引、子供の吸引について
15．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑥　吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、吸引の実施に関する説明と同意
呼吸器系の感染と予防（吸引と関係して）
16．高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑦　吸引により生じる危険、事後の安全確認
急変・事故発生の対応と事前対策
17．まとめと復習
学力考査

［準備学習］
①介護と医療の倫理上の原則を読んでくる。②介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」を行うようになった背景について要約する。③リスクマネジメントの考え方、ヒヤリハット・アクシデントについて読んでくる。④⑤救急蘇生法のポイントについてまとめてくる。⑥感染経路の種類と対策についてまとめてくる。⑦滅菌と消毒の違いと方法について読んでくる。⑧⑨朝起きたときに体温と脈拍を測定し、一週間分記録する。⑩呼吸のしくみとはたらきについてまとめる。⑪呼吸状態の観察についてまとめる。⑫⑬人工呼吸器の種類と内容について読んでくる。⑭子供の吸引を安全に実施するための留意点についてまとめる。⑯喀痰吸引にともなう感染予防をするための留意点についてまとめる。⑰緊急を要する状態を整理し、医療職との連携方法をまとめる。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年参考文献：「新版医療的ケア研修テキスト重症児者の教育･福祉･社会的生活の援助のために」北住映二編、クリエイツかもがわ2012年

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
・学力考査（知識・理解）：60％
・小テスト（知識・理解）・課題レポート：20％
・授業参加・提出物等(態度・関心・意欲)：20％
試験類は解説後、レポートも評価し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケアⅡ	（講義・演習・実習）	加藤英池子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
17回	34時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

医療的ケアⅠの理解の上に、医療職との連携のもとで介護福祉士として医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を修得する。

［授業全体の内容の概要］

高齢者及び障害児・者の「喀痰の吸引」に関する観察、安全への配慮及び実施手順、並びに「経管栄養」に関する概論及び実施手順について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・利用者の尊厳を支え、安全・安楽への配慮について述べることができる。
・消化のしくみ、経管栄養が必要な状態、安全対策について説明できる。
・高齢者及び障害児・者への「喀痰の吸引」「経管栄養」の概要と実施手順について具体的に説明ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順①　喀痰吸引で用いる器具・器財とそのしくみ、清潔の保持
2．高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順②　吸引の技術と留意点
3．高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順③　吸引の技術と留意点
4．高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順④　吸引の技術と留意点、喀痰吸引にともなうケア
5．高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順⑤　喀痰吸引にともなうケア、記録報告
6．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論①　消化器系のしくみとはたらき、口から食べることの大切さ
7．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論②　消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは
8．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論③　経管栄養とは、注入する内容に関する知識
9．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論④　経管栄養実施上の留意点、子どもの経管栄養について
10．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論⑤　経管栄養に関係する感染予防
11．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論⑥　経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
　　経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
12．高齢者及び障害児・者の経管栄養概論⑦　急変・事故児の対応と事前対策
13．高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順①　経管栄養で用いる器具・器財とそのしくみ、清潔の保持
14．高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順②　経管栄養の技術と留意点
15．高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順③　経管栄養の技術と留意点
16．高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順④　経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア
17．高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順⑤　経管栄養に必要なケア、記録報告
学力考査

［準備学習］

「医療的ケアⅠ」の振り返りを行い授業に臨んで下さい。①授業の前に吸引の必要物品を書き出して確認しておく。②授業の後に吸引器の構造としくみを整理しておく。③授業の前に、吸引前の利用者の状態観察と注意点を復唱しておく。④授業の前に喀痰吸引にともなうケアについてまとめる。⑤授業の後に喀痰吸引の実施手順と留意点を表にまとめて提出する。⑥授業の前に消化器の解剖・生理を整理しておく。⑦授業の後に経管栄養の種類の利点と欠点を整理しておく。⑧授業の前に経管栄養で使用される栄養剤の種類と特徴を調べておく。⑨授業の後に子供の経管栄養にともなう苦痛や心理と接し方についてまとめておく。⑩授業の後に経管栄養の感染予防対策について整理して提出する。⑪授業の後に経管栄養に対する利用者・家族の気持ちとその接し方についてまとめておく。⑫授業の後に経管栄養による利用者の急変事故時の観察内容と対応や医療職への連携のあり方をまとめておく。⑬授業の前に経管栄養で必要物品を使用する順番に記載し、用途、取り扱い上の注意点について記入しておく。⑭授業の前に経管栄養実施前、実施開始直後の観察のポイントをまとめておく。⑮授業の前に経管栄養実施中、実施後の観察のポイントをまとめておく。⑯授業の後に提示された事例について実施あり方をまとめて提出する。⑰授業の後に提示された事例について報告のあり方をまとめて提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年
参考文献：「新版医療的ケア研修テキスト重症児者の教育・福祉・社会的生活の援助のために」北住映二編、クリエイツかもがわ2012年

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

［単位認定の方法及び基準］
・学力考査（知識・理解）：60％
・小テスト（知識・理解）：20％
・授業参加・提出物等（態度・関心・意欲）：20％
試験類は解説後、レポートも評価し返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	◎	技能・表現	△	態度・倫理	○	判断力	○

授業科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケア演習	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	加藤英池子・林雅美・他３名

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	２年次・後期	選択

［授業の目的］
医療的ケアⅠ・Ⅱで習得した知識を踏まえ「喀痰吸引」「経管栄養」を安全・適切に実施できるようになる。

［授業全体の内容の概要］
・「喀痰吸引」について学生１人につき、口腔５回以上、鼻腔５回以上、気管カニューレ内部５回以上の実技演習を行う。
・「経管栄養」について学生１人につき、胃瘻または腸瘻５回以上、経鼻経管栄養５回以上の実技演習を行う。
・救急蘇生法および事故時の対応について実技演習を行う。

［授業終了時の到達目標］
・利用者の安全・安楽への配慮、利用者の尊厳を支えることの必要性について述べることができる。
・「喀痰吸引」及び「経管栄養」に必要なからだのしくみを説明することができる。
・喀痰吸引」及び「経管栄養」が必要な状態や安全対策具合的に説明することができる。
・「喀痰吸引」及び「経管栄養」の実施手順を踏まえ、適切に一人で実施できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．喀痰吸引演習　口腔①　演習の進め方、評価方法、演習のデモストレーション
2．喀痰吸引演習　口腔②　５回以上技術確認
3．喀痰吸引演習　口腔③　５回以上技術確認
4．喀痰吸引演習　鼻腔①
5．喀痰吸引演習　鼻腔②　５回以上　技術確認
6．喀痰吸引演習　気管カニューレ内部①
7．喀痰吸引演習　気管カニューレ内部②　５回以上　技術確認
8．喀痰吸引演習　気管カニューレ内部③　５回以上　技術確認
9．経管栄養演習　胃瘻①　演習の進め方、評価方法、演習のデモストレーション
10．経管栄養演習　胃瘻②　５回以上　技術確認
11．経管栄養演習　胃瘻③　５回以上　技術確認
12．経管栄養演習　経鼻経管栄養①
13．経管栄養演習　経鼻経管栄養②　５回以上　技術確認
14．経管栄養演習　経鼻経管栄養③　５回以上　技術確認
15．救急蘇生法

［準備学習］
医療的ケアⅠ・Ⅱを復習して臨みましょう。限られた時間の中で、手順通り身につける必要があり、生命に直接関わることですので真剣に取り組みましょう。①授業の前にテキストの喀痰吸引のケア実施（口腔内）手順を読んでDVDを視聴しておく。②授業の前に喀痰吸引演習（口腔内）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。③授業の前に喀痰吸引演習（口腔内）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。④授業の前にテキストの喀痰吸引のケア実施（鼻腔内）手順を読んでDVDを視聴しておく。⑤授業の前に喀痰吸引演習（鼻腔内）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑥授業の前にテキストの喀痰吸引のケア実施（気管カニューレ内部）手順を読んでDVDを視聴しておく。⑦授業の前に喀痰吸引演習（気管カニューレ内部）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑧授業の前に喀痰吸引演習（気管カニューレ内部）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑨授業の前にテキストの経管栄養のケア実施（胃瘻又は腸瘻）手順を読んでDVDを視聴しておく。⑩授業の前に経管栄養（胃瘻又は腸瘻）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑪授業の前に経管栄養（胃瘻又は腸瘻）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑫授業の前にテキストの経管栄養のケア実施（経鼻経管栄養）手順を読んでDVDを視聴しておく。⑬授業の前にテキストの経管栄養のケア実施（経鼻経管栄養）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑬授業の前に経管栄養（経鼻経管栄養）の評価項目を確認し、技術を練習しておく。⑭授業の前に医療的ケアⅠで学んだ救急蘇生法を復習し、手順を読んでまとめておく。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年
参考文献：

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
・実技試験（技能・表現）：60％
（実技試験に合格することが単位認定条件）
・レポート（知識・理解）：20％
・授業参加態度（関心・意欲）：20％
レポートは評価後返却する。

［学位授与方針との関係］	知識・理解	○	技能・表現	◎	態度・倫理	△	判断力	△